

6.8 維管束植物



(1) 県内の維管束植物の概要

富山県内における維管束植物の生育範囲は、富山湾沿岸部の海底から標高 3,000m 級の山岳域までと、標高差が大きいことが特徴であり、気候帯は低地の暖温帯から、冷温帯、寒温帯を経て、高山の亜寒帯までが存在する。

○暖温帯（海岸～低山帯）

沿岸部は海草（ウミクサ）群落、海岸部は海浜植物、クロマツ林が断続的に存在し、スダジイやタブノキからなる常緑広葉樹林が生育する社叢が点在する。

平野部は、複数の大河川によって形成された複合扇状地からなっており、住宅地・商工業地以外はほとんど全ての土地が区画整理の行き届いた水田稻作地となっており、用排水路が縦横に張り巡らされている。水田環境には湿生植物が雑草として生育しており、まれに絶滅危惧種が水田の片隅に生育している。自然湿地は氷見地方にわずかに残されているほかは、水田・宅地等に開発されている。県東部の河川は急流河川であり、河川敷は砂礫の環境となっていることが多い一方、県西部の河川の一部は蛇行する緩流河川である。河川の河道内的一部では、ヤナギ類やニセアカシアなどによる樹林化が進んでいる。

丘陵地から低山帯は、スギ植林、コナラを主とする落葉広葉樹林、モウソウチク林などとなっており、かつての里山のように生活に利用されている林はほとんど残っていない。

○冷温帯（山地帯）

山地帯は、谷斜面にはミズナラ、ブナなどの落葉広葉樹林や天然スギ林が、溪流沿いにはヤナギ類やサワグルミなどの多い渓畔林が存在する。多雪地帯であることから林内は年中湿潤であり、林床の植生は豊かである。

○寒温帯（亜高山帯）～亜寒帯（高山帯）

亜高山帯から高山帯は県東部に分布し、斜面はオオシラビソを主とする針葉樹とダケカンバの混交林やハイマツ低木林、緩傾斜地にはヌマガヤ湿性草原、谷地形の場所には雪田植生、お花畠、山岳の稜線部には風衝岩礫地などの多様な環境が存在し多くの高山植物が生育している。

これらの環境に生育する植物の種類数「富山県のフローラ」は、3,022 種（富山県植物誌改訂版編集のための維管束植物チェックリスト、2021）である。

(2) 選定評価の方法

前版（富山県、2012）の発行から 12 年が経過したことから、富山県内における絶滅のおそれのある野生植物の現状に即した種の選定と適切なカテゴリー区分を行うことを目的として、全面的な見直し調査を行った。

【選定の対象とした種の範囲】

富山県内に自然分布する維管束植物（シダ植物、裸子植物、被子植物）とした。

前版に掲載されていた 439 種に、この 12 年間の研究の過程で検討が必要と指摘されてきた希少性の高い植物、約 110 種を加えた計約 550 種の植物種について、それぞれの生育実態と過去からの減少の速さを可能な限り把握した上で、向こう 10～20 年の絶滅危険性を考慮し、カテゴリー区分に基づいて、全種のカテゴリーを判定した。

【収集整理した情報の概要】

2012 年以降に現地調査等で収集された情報数は、206 種 747 点であった。内訳は、現地調査によるもの 139 点（消滅情報 33 点を含む）、標本 210 点、写真 297 点、文献 104 点であった。

【カテゴリーを決めるにあたっての評価基準や方法など】

絶滅危惧種のカテゴリー判定は、富山県版のカテゴリー区分に従って行った。

- ・環境省レッドリスト 2020 掲載種は基本的に選定種とし、県内の状況を独自に判定した。
- ・これまで情報不足とされてきた種については、情報が全く得られない状況が 12~22 年間続いてきたことを重視し、現存している可能性が著しく低く絶滅の危険性が相当程度高まっていると考え、今回は上位のカテゴリーに区分することに注力した。
- ・前回（とやま RDB2012）掲載種のうち、今日まで絶滅の危険性が高まらなかった種はランクを下げるリストから除外するかした。
- ・高山植物に関しては、生育面積自体は限られているものの、この先 10 年程度の絶滅危険性は、ほとんど高まらないと推測される。今回は、現時点で著しく生育地が限られ個体数もわずかであり、かつ温暖化によって雪田消失の時期が早まっていることが影響すると考えられる種については掲載した。

(3) 選定種の概要

前回リストに新たに 36 種を加えた一方で、35 種を除外した結果、レッドリスト掲載種数は 1 種増の 440 種となった。

表1. レッドリスト掲載種数（維管束植物）

カテゴリー	前回（2012）	今回（2025）	今回（2025）	種数
絶滅+野生絶滅	30	34		
絶滅危惧Ⅰ類	75	109		
絶滅危惧Ⅱ類	118	133		
準絶滅危惧	132	151		
情報不足	84	13	新たに掲載した種	36
合計	439	440	除外した種	35

【前回リストからの変更点】

絶滅+野生絶滅が 4 種増えて 34 種となった。

- ・下位ランクから絶滅+野生絶滅カテゴリーにアップした種：ツリシュスラン、クロホシクサ、アケボノスマミレ、サワトラノオ、オオアブノメ、フサタヌキモ。
- ・カテゴリー外から追加した種：クロハリイ、コツブヌマハリイ。
- ・一方で、現存していることが確認されたことにより下位ランクに移った種：イトテンツキ、シャシャンボ、チョウジソウ。
- ・同定変更に伴い除外した種：クロヌマハリイ。

絶滅危惧Ⅰ類は 34 種増えて 109 種となった。

絶滅危惧Ⅱ類が 15 種増えて 133 種となった。

準絶滅危惧が 19 種増えて 151 種となった。

情報不足が 71 種減って 13 種となった。

カテゴリーおよび掲載種の変更とその理由を別表に示す。

絶滅危惧種がどのような環境に集中しているのかを推察するため、500m 標高帯別の絶滅危惧植物種数グラフを作成した（図1）。

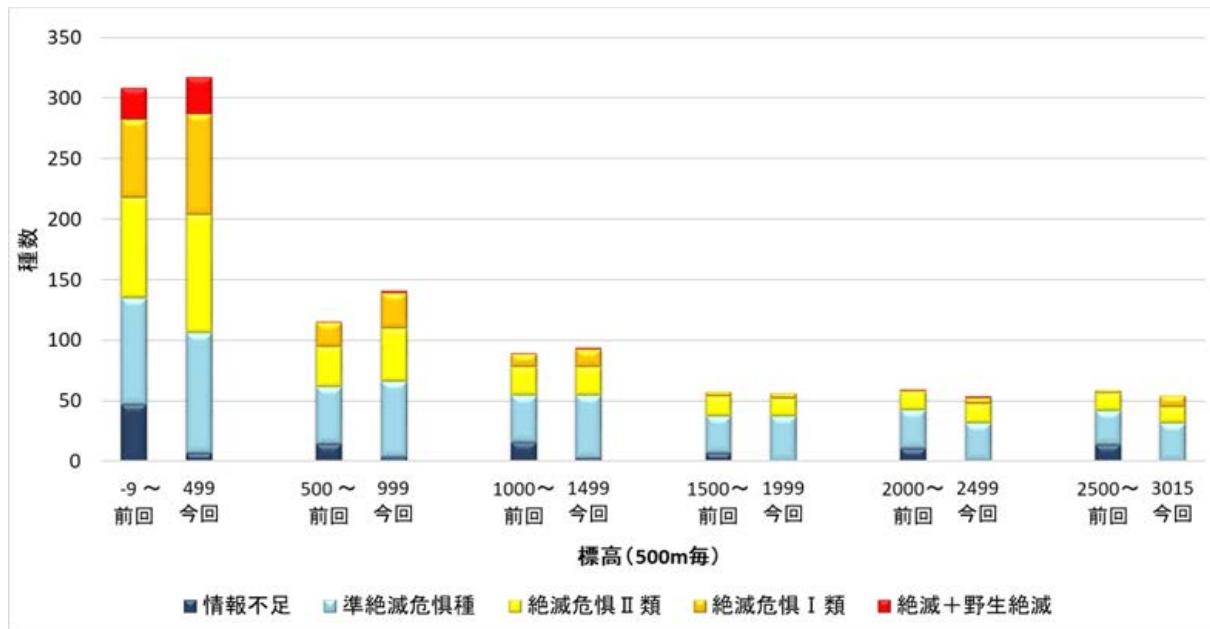


図1. 500m 標高帯別の絶滅危惧植物種数

(複数の標高帯にまたがって生育する種は、それぞれの標高帯にカウントされている。)

標高帯別の絶滅危惧種数の分布傾向は、前回、今回共に同様の傾向を示した。-10～499m の標高帯には、絶滅危惧種が集中していることが分かる。棒グラフ 1 本に占める絶滅危惧 I 類および II 類の比率が他の標高帯に比べて高く、特に野生+絶滅はこの標高帯で多く生じていることが分かる。一方、標高 1,500m から上の標高帯（亜高山帯および高山帯）には絶滅危惧種は少ない。

平野部から低山地の範囲は人間活動が活発な場所であり、このことが植物を絶滅の危機に追い込んだと言えよう。

(4) 絶滅の危機に追い込んでいる要因（減少要因）

掲載された種とそれらを減少させている要因を考察したところ、次のことがわかつてきた。

1) 人間活動の拡大

【開発による影響】

県内の平野部は、既にほぼ全域に開発の手が入って、市街地や商工業地あるいは区画整理の行き届いた水田を主とする農地となっているため、湿地や水中で生活する植物の多くが絶滅の危機に瀕している。自然の池や湿地はほとんど残されていないことに加え、農地では除草剤が使われ、網の目のように hariめぐらされた水路もコンクリート化されていることが主要因と考えられる。

影響を受けている植物：コツブヌマハリイ、フサタヌキモ、ヒシモドキ（以上は既に絶滅）、マルバオモダカ、マルミスズタ、トチカガミ、ウキガヤ、サワギキョウ、アギナシ、ミズネコノオ、ミズトラノオなど。

また、沿岸部では海岸浸食がさらに進行しており、既設の離岸堤に加え、2000～2010 年頃に大規模な護岸堤が県内の海浜の多くの場所に築かれた。海中ではアマモ群落が減少し、堤の内陸側では砂の移動が止まりこれに依拠していた海浜植物の絶滅リスクが高まっている。

影響を受けている植物：アマモ、コアマモ、ヤマトウミヒルモ、ハマベノギク、ビロードテンツキ、

イソスミレ、アナマスミレ、タチスズシロソウなど。

【園芸採取による影響】

ラン科やユリ科の植物など花の美しい植物は、販売や栽培を目的として生育地から根こそぎ採取して持ち去られることが後を絶たない。特定の植物だけを狙った乱獲にあうと、その植物は簡単に絶滅してしまう。

影響を受けている植物：サギソウ、ナツエビネ、スズムシソウ、ヒナチドリ、クマガイソウ、ムヨウラン、セイタカスズムシソウ、ジガバチソウ、ヤマシャクヤクなど。

2) 人間活動の後退

【里山の消滅による影響】

1) の原因とは逆に、人間の自然への働きかけが小さくなることによる影響もある。1960年頃までは生活必需品であった薪（まき）や炭、茅（かや）を里山から定期的に採取していたことで、伐採地や比較的開けた林、草地が随所に存在していた。しかし、その後、人々の生活様式と農業形態等が大きく変わったことにより、里山からこれらを持ち出すことが全くなくなった。里山の林は70～80年間生長を続けており、かつては多かったアカマツ林やスキ草原はコナラ林に遷移し、著しく少なくなっている。この影響で減少している植物は、絶滅の危険性が一段と高くなっている。

影響を受けている植物：アワガエリ、タンキリマメ、アセビ、フナバラソウ、スズサイコ、マメダオシ、ミシマサイコ（以上は既に絶滅）、オキナグサ、トウダイグサ、アマナ、レンゲツツジ、カザグルマ、ホタルカズラなど。

3) 外来植物の増加

【外来植物や園芸植物による影響】

市街地や港湾、農地、河川堤防、用排水路等には外来植物が多く生育している。また、高山帯には国外からの外来植物だけでなく、国内の低地から人為的に侵入した国内外来植物も生育している。これら外来植物の繁茂は在来植物が生育できる場所を奪うほか、在来植物の受粉状態に影響を及ぼしている可能性もある。また、外来植物または園芸植物が近縁の在来種と交雑することによって、純粋な在来種の増える可能性を著しく低下させている例もある。

近年、良質な湧水地で、販売目的と思われる園芸水草が密かに栽培されていることがあった。持ち込まれた外来種は周囲に拡散し、在来種の生育を圧迫していくことが懸念される。

影響を受けている植物：ハマアカザ、カワヂシャ、クロモ（二倍体）、センニンモ、イトモ、オナモミ、タカサブロウ、シマカンギク（六倍体）など。

今回のレッドリストでは、掲載種数はほとんど増えていないが、絶滅+野生絶滅や絶滅危惧Ⅰ類、Ⅱ類等が増加したこと、それぞれの種に及ぶ危険要因が依然としてなくなっていないことなど、富山県の絶滅危惧植物をとりまく状況は初版発行時から改善しているとは言えない。また現時点では、国立公園など特別な場所を除いて、絶滅危惧種等の採取や取引、移動を制限する法的規制はない。せいぜい、環境アセスメントで見つかった場合にのみ、保護対象になる程度である。

里山や人里の湿地といった比較的攪乱の強く加わっていた環境に生育している希少植物を保全していくためには、定期的な伐採により木材や薪などを持ち出したり、火入れ、江ざらい（水路の底ざらい）を行ったりするなど、人が自然に対して攪乱を加え続けていく仕組みが必要である。

また、水生植物の中には、ヒロハノエビモ、ミズネコノオ、シソクサ、ミズトラノオ、スズメノハ

コベ、ミズアオイなどのように、発芽能力を長期間保つことのできる種子を持つ種類もあるので、水湿地の古い土壌から絶滅種を復活させる方法の一つとして、今後実践していく価値があると考えられる。

さらに、ため池や湿地では特定外来生物であるアメリカザリガニやアカミミガメにより水生・湿生植物が壊滅的な被害を受けることは周知のことであり、これらの対策も豊かな自然環境を守るために重要な取り組みである。

今回のレッドリスト改定を機に、県民の自然保護意識の向上と効果的な保全対策が進展し、生物多様性の損失に歯止めをかけ、回復軌道に乗せることで、県民の安定した生活基盤が将来にわたって保障されていくことを期待したい。

【今後懸念されること】

富山県内でもニホンジカによる野生植物の被害が顕在化しあげてきている。この先 10 年で個体数の増加や生育範囲が拡大し、野生植物に対する食害が拡大していく恐れがある。これに対しては充分に警戒しなければならない。特に高山帯への侵入を阻止することが重要である。

また、近年の地球温暖化に伴う異常気象（高温、集中豪雨）は乾燥化や土砂崩れ、河川の氾濫をもたらし、希少植物の生育環境を破壊することが懸念される。希少な野生植物の生育地の把握と生育状況をモニタリングすることは生物多様性の損失を防ぐ上で重要である。

(5) 種のリストの整理基準

- 学名：米倉・梶田（2003-）による「BG Plants 和名－学名インデックス」通称 YList (http://bean.bio.chiba-u.jp/bgplants/ylist_main.html (2022年7月17日)) の標準名
- 科の配列順：APGIV (Angiosperm Phylogeny Group, 2016)
- 種の配列順：学名のアルファベット順

(6) 謝辞・協力者

掲載種の最新の生育状況に関し、次の方々から情報を提供していただいた。お礼申し上げる。(五十音順、敬称略)

荒川知代、荒木健、石田千佐子、泉治夫、伊藤朋子、岩永靖典、老月由美子、尾鼻陽介、小原耕三、鍛治博、金澤宏之、亀村兼介、河合要、木内静子、木我栄一、後藤優介、栄君子、篠笥公隆、沢和浩、沢田研太、潮上太郎、清水光雄、志村幸光、首藤光太郎、白井伸和、関谷秀勝、高木美奈子、宝田辰子、俵京子、中村規子、野原真紀子、姫野諒太郎、平岡幸治、平野康美、平本雅士、不破光大、本谷二三夫、牧静枝、松浦雄三、宮村晃、本瀬薰、本瀬晴雄、安田祥子、山元尹男、吉井勝、若杉美仁、富山県中央植物園友の会植物誌部会

また、標本の閲覧に際しては、富山市科学博物館植物収蔵庫 (TOYA) および富山県中央植物園標本室 (TYM) にお世話になった。お礼申し上げる。

(文責：太田道人)

タキミシダ (イノモトソウ科) *Antrophyum obovatum* Baker

富山県 2025 カテゴリー：絶滅+野生絶滅
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 IB 類

選定理由

既知の生育地は 1ヶ所のみであったが、1967 年以降は記録がない。現在も、県内のどこにも生育が確認されていない。

国内の分布状況

本州（新潟県・千葉県以西）、四国、九州。

県内の分布状況

上市町北部。

生態・生息環境

丘陵地の岩場の水飛沫がかかるような所に下垂して生える常緑性のシダ植物。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、園芸採取。

保全対策

過去に生育していた生育環境の保存、再発見の場合は生育地の保護。

（文責：太田 道人）



撮影：林二良（石川県にて）

アオネカズラ (ウラボシ科) *Goniophlebium niponicum* (Mett.) Bedd.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅+野生絶滅
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

既知の生育地は分布の北限にあたる 1ヶ所のみであったが、1977 年以降は記録がなく、現在も生育が確認されていない。

国内の分布状況

本州（関東以西）、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町北部（1976 年）。

生態・生息環境

暖地の湿性な常緑広葉樹林内の岩や幹に着生する。

生存への脅威（減少の要因）

岩壁崩落防止工事、産地局限。

保全対策

生育地の保護（再発見の場合）。

特記事項

朝日県立自然公園の指定植物。



撮影：林二良（岐阜県にて）

（文責：佐藤 卓）

クリハラン (ウラボシ科) *Neolepisorus ensatus* (Thunb.) Ching

富山県 2025 カテゴリー：絶滅+野生絶滅
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

既知の生育地は分布の北限付近にあたる 1ヶ所のみであったが、1981 年以降は記録がなく、現在も生育が確認されていない。

国内の分布状況

本州（新潟県、茨城県以南）、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

朝日町北部（1980 年）。

生態・生息環境

常緑広葉樹林内の岩場や幹に着生。

生存への脅威（減少の要因）

森林伐採、産地局限。

保全対策

生育地の保護（再発見の場合）。

特記事項

朝日県立自然公園の指定植物。



撮影：林二良（三重県にて）

（文責：佐藤 卓）

マルバオモダカ (オモダカ科) *Caldesia parnassiifolia* (Bassi. ex L.) Parl.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅+野生絶滅
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

既知の生育記録は 1ヶ所のみであったが、近年は県内では確実な生育が確認されていない。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

射水市南部。

生態・生息環境

池沼・ため池に生育する抽水植物で多年草。花期は 8~9 月。

生存への脅威（減少の要因）

池沼・湿地の開発、水質の悪化。

保全対策

生育地の保全、水質の保全。

(文責：長井 幸雄)

マルミスブタ (トチカガミ科) *Blyxa aubertii* Rich.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅+野生絶滅
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

県内唯一の自生地での絶滅を確認した。

国内の分布状況

本州、九州。

県内の分布状況

砺波市東部。

生態・生息環境

水田や水路などに生育する一年生の沈水植物。花期は 8~10 月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、水田や水路の開発、水質汚染、除草剤の使用、遷移進行。

保全対策

生育地の保護（再発見の場合）、水質汚染の防止、除草剤使用の抑制。



(文責：川住 清貴)

イバラモ (トチカガミ科) *Najas marina* L.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅+野生絶滅
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

1958 年以降の記録がなく、過去に記録された地点では現在生育していないため、富山県内では絶滅したと考えられる。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市北部、射水市南部、氷見市南東部。

生態・生息環境

ため池、湖沼などに生育する一年生の沈水植物。花期は 7~9 月。

生存への脅威（減少の要因）

池沼開発、水質汚染、ため池の管理放棄。

保全対策

生育地の保護（再発見の場合）、水質汚染の防止。



(文責：川住 清貴)

リュウノヒゲモ (ヒルムシロ科) *Potamogeton pectinatus* L.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅+野生絶滅
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

1934年以降の記録がなく、絶滅したと考えられる。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

氷見市（十二町潟）。

生態・生息環境

海岸近くの湖沼や河川に生育することが多い沈水生の多年草。花期は7~9月。

保全対策

水質保全を中心とする過去の生育環境の保存、生育地の保護（再発見の場合）。



撮影：中田 政司（愛媛県にて）

（文責：中田 政司）

ツリシュスラン (ラン科) *Goodyera pendula* Maxim.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅+野生絶滅
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

1例のみの生育記録以後確認されておらず、県内では絶滅したと考えられる。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

南砺市西部。

生態・生息環境

山地林内の湿った樹幹や岩上に着生する多年草。花期は7~9月。

保全対策

過去の生育環境の保存、生育地の保護（再発見の場合）。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

（文責：石須 秀知）

イワチドリ (ラン科) *Hemipilia keiskei* (Maxim. ex Franch. et Sav.) Y.Tang, H.Peng et T.Yukawa

富山県 2025 カテゴリー：絶滅+野生絶滅
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 IB類

選定理由

1985年に1カ所で生育していることが確認されたが、その翌年に乱獲されて絶滅した。それ以降、県内のどこからも分布情報が得られていない。

国内の分布状況

本州（中部・近畿）、四国。

県内の分布状況

南砺市南部

生態・生息環境

峡谷の岸壁や岩上に生える多年草。

生存への脅威（減少の要因）

園芸採取。

保全対策

生育していた環境の保存。再発見の場合は生育地の保護、採取の抑制。

特記事項

中部山岳国立公園および白山国立公園特別地域の指定植物、五箇山県立自然公園の指定植物。



撮影：太田 道人（栽培品）

（文責：太田 道人）

ムカゴソウ (ラン科) *Herminium angustifolium* (Lindl.) Benth. et Hook.f.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅+野生絶滅
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 IB 類

選定理由

1916 年以降の記録がなく、県内では絶滅したと考えられる。

国内の分布状況

北海道南部、本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

立山町南部。

生態・生息環境

やや湿った草地に生育する多年草。花期は 6~8 月。

生存への脅威（減少の要因）

山地開発、園芸採取。

保全対策

過去の生育環境の保存、生育地の保護（再発見の場合）。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



収蔵：
富山市科学博物館

(文責：孫田 佳奈)

スズラン (キジカクシ科) *Convallaria majalis* L. var. *manshurica* Kom.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅+野生絶滅
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では 1940 年に記録されているが、その後どこからも報告がないことから絶滅したと考えられる。

国内の分布状況

北海道、本州。

県内の分布状況

富山市南東部。

生態・生息環境

明るい山地・高原の草地に生育する多年草で、花期は 4~6 月である。

生存への脅威（減少の要因）

山地開発、園芸採取、二次遷移。

保全対策

過去の生育環境の保存、生育地の保護（再発見の場合）。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



撮影：太田 道人（熊本県にて）

(文責：早瀬 裕也)

クロホシクサ (ホシクサ科) *Eriocaulon parvum* Körn.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅+野生絶滅
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

県内では 5 カ所の記録があり、県東部の 3 カ所の標本があるがいずれも 1960 年代以前のものである。それ以降の記録は知られておらず、絶滅した可能性が高い。

国内の分布状況

本州、四国、九州、琉球。

県内の分布状況

入善町、黒部市、射水市、南砺市。

生態・生息環境

湿地や池畔に生育する。花期は 8~9 月で、一年草である。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、湿地の開発。

保全対策

湿地開発の抑制、生育地の保護（再発見の場合）。



(文責：大原 隆明)

イヌイ (イグサ科) *Juncus fauriei* H.Lév. et Vaniot

富山県 2025 カテゴリー：絶滅+野生絶滅
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

もともと県内では生育地、個体数とも少ないと考えられる上に、近年の確実な生育地は 1 ケ所のみであったが、この生育地も海岸の開発による絶滅が確認された。

国内の分布状況

北海道、本州。

県内の分布状況

入善町、富山市、氷見市。

生態・生息環境

海岸の砂地など、日当たりの良い草地に生育する。花期は初夏～夏で、多年草である。

生存への脅威（減少の要因）

海岸改修、四輪駆動車による踏みつけ。

保全対策

海岸開発の抑制、四輪駆動車の海岸草地への立入り規制（再発見の場合）。



撮影：大原 隆明

(文責：大原 隆明)

シオクグ (カヤツリグサ科) *Carex scabrifolia* Steud.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅+野生絶滅
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では 2001 年に高岡市の海岸砂地に流れ込む小さな流れの縁で初確認されたが、この生育地が開発により環境ごと消滅し、絶滅が確認された。現在県内に同様の環境はほとんどなく、今後も再発見される可能性は極めて低い。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州、琉球。

県内の分布状況

高岡市。

生態・生息環境

海岸の塩水の出入りする湿地に生育する多年草。5～7 月に熟す。

生存への脅威（減少の要因）

海岸の開発

保全対策

開発抑制、生育地の保護（再発見の場合）。



収藏：富山県中央博物館

(文責：大原 隆明)

クロハリイ (カヤツリグサ科) *Eleocharis kamtschatica* (C.A.Mey.) Kom. f. *reducta* (Ohwi) Ohwi

富山県 2025 カテゴリー：絶滅+野生絶滅
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では氷見市の虻ヶ島で採取された標本が複数あるが、2010 年以降の調査では重点的に探したもののが確認されていないことから、絶滅したと考えられる。

国内の分布状況

北海道、本州、九州。

県内の分布状況

氷見市（虻ヶ島）。

生態・生息環境

海岸に近い湿地や沼地に生える多年草。7～10 月に熟す。

生存への脅威（減少の要因）

海岸浸食、遷移進行による乾燥化、湿地開発。

保全対策

自生地の保護（再発見の場合）。

(文責：大原 隆明)

コツブヌマハリイ (カヤツリグサ科) *Eleocharis parvina* Ohwi

富山県 2025 カテゴリー：絶滅+野生絶滅
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

県内では上市町で 1960 年代に採取された標本が複数あるが、その後は確認されていない。本種は埋土種子を作ると思われることから今後出現する可能性も残る。なお、本種は 2012 年版では誤ってクロヌマハリイ *E. palustris* var. *major* として取り扱われていた。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

上市町中部。

生態・生息環境

湿地や沼地に生える多年草。7~10 月に熟す。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、湿田の乾田化、湿地開発、遷移進行による乾燥化。

保全対策

自生地の保護、湿地の保全（再発見の場合）。



(文責：大原 隆明)

アワガエリ (イネ科) *Phleum paniculatum* Huds.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅+野生絶滅
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

1930 年前後に標本が採取されているが、それ以降 90 年間確実な記録（実物標本）がないことから、すでに絶滅したと判断した。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

氷見市西部（絶滅確認）、富山市西部（絶滅確認）。

生態・生息環境

河川敷や草原に生育していたと考えられる一年草。花期は 5~6 月。

生存への脅威（減少の要因）

遷移進行、外来種との競合

保全対策

再発見の場合、草原環境の維持。



収蔵：富山市科学博物館

(文責：太田 道人)

タンキリマメ (マメ科) *Rhynchosia volubilis* Lour.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅+野生絶滅
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

1980 年以前の記録と思われる文献記録以外に生育記録がない。現地及び県内では絶滅したものと考えられる。富山県は本種の分布北限付近にあたる。

国内の分布状況

本州（千葉県以西）、四国、九州。

県内の分布状況

高岡市北部。

生態・生息環境

平野部から低山地の林縁マント群落に一時期出現する。花期は 7~10 月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限。

保全対策

過去の生育環境の保存、生育地の保護（再発見の場合）。



撮影：太田 道人（静岡県にて）

(文責：鈴木 浩司)

センダイハギ (マメ科) *Thermopsis fabacea* (L.) DC.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅+野生絶滅
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

石川県以北に分布し、富山県内では入善町のみに生育していたが、1937 年以降の記録がない。

国内の分布状況

北海道、本州（石川県以北）。

県内の分布状況

入善町北部。

生態・生息環境

太い地下茎のある多年草で海岸に生育する。花期は 5~8 月である。

生存への脅威（減少の要因）

海岸侵食、海岸工事、園芸採取。

保全対策

過去の生育環境の保存、生育地の保護（再発見の場合）。

特記事項

能登半島国定公園特別地域の指定植物。



撮影：太田道人（北海道にて）

（文責：石須 秀知）

オオバクサフジ (マメ科) *Vicia pseudo-orobus* Fisch. et C.A.Mey.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅+野生絶滅
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

1939 年に標本が採集されて以降の生育が確認されていない。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市西部、富山市南部、高岡市西部。

生態・生息環境

山野の草原や林縁に生育するつる性の多年草。花期は 8~10 月。

生存への脅威（減少の要因）

草地開発。植生遷移。

保全対策

生育地の保全。



撮影：山下寿之（栽培品）

（文責：長井 幸雄）

アケボノスミレ (スミレ科) *Viola rossii* Hemsl.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅+野生絶滅
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

1993 年に目撃されて以降の生育が知られていない。

国内の分布状況

北海道（南部）、本州、四国、九州。

県内の分布状況

魚津市、小矢部市。

生態・生息環境

太平洋側の山地の落葉広葉樹林に生育する多年草。花期は 3~5 月。

生存への脅威（減少の要因）

林道工事、園芸採取。

保全対策

生育地の保全。



撮影：山下寿之（栽培品）

（文責：長井 幸雄）

コギシギシ (タデ科) *Rumex dentatus* L. subsp. *klotzschianus* (Meisn.) Rech.f.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅+野生絶滅
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

唯一の生育地であった砂浜海岸が消失した。

国内の分布状況

本州（関東以西）、四国、九州。

県内の分布状況

高岡市北東部。

生態・生息環境

流水縁や湿り気のある草地などに生育する多年草。花期は5~8月。

生存への脅威（減少の要因）

湿地や海岸の開発、水路改修。

保全対策

生育地の保護（再発見の場合）。



収藏：富山県中央植物園

(文責：早瀬 裕也)

オオヤマフスマ (ナデシコ科) *Arenaria lateriflora* L.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅+野生絶滅
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

古い標本は存在するが、その後どこからも記録されていないことから、県内では絶滅したと判断した。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市海岸（1930年）、富山市呉羽山（1934年）。

生態・生息環境

山地の草原や海岸林の縁などに生える小型の多年草。花期は6~8月。

生存への脅威（減少の要因）

里山の管理放棄、植生遷移。

保全対策

再発見の場合、生育環境の保護管理。

特記事項

まれに、植物園や公園等、多様な植物が栽培される場所の下草に一時的に生じることがあるが、これらは自然分布ではないと考えられる。

(文責：太田 道人)



撮影：太田 道人（長野県にて）

サワトラノオ (サクラソウ科) *Lysimachia leucantha* Miq.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅+野生絶滅
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 IB 類

選定理由

全国的にも生育地が限られ、個体数も少ない。本県では1963年以降の生育状況の情報がない。

国内の分布状況

本州、九州。

県内の分布状況

黒部市北西部（文献より）。

生態・生息環境

水辺や湿地に稀に生育する多年草。花期は4~5月。

生存への脅威（減少の要因）

湿地開発、池沼の開発、土地造成。

保全対策

生育地の保全。

(文責：長井 幸雄)

アセビ (ツツジ科)

Pieris japonica (Thunb.) D.Don ex G.Don subsp. *japonica*

富山県 2025 カテゴリー：絶滅+野生絶滅

環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

1950 年代の里山の一部に生育していたが、それ以降の生育情報がまったくないことから、県内では絶滅したと考えられる。

国内の分布状況

本州（宮城県、山形県以南）、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市西部、富山市南西部。

生態・生息環境

山地の日当たりのよい斜面に生育する常緑低木。花期は 2 月下旬～5 月。

生存への脅威（減少の要因）

植生遷移、分布局限。

保全対策

再発見の場合、生育地の保護、生育環境の保存（伐採、刈り払いの継続）。



撮影：太田道人（栽培品）

（文責：太田道人）

フナバラソウ (キョウチクトウ科)

Vincetoxicum atratum (Bunge) C.Morren et Decne.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅+野生絶滅

環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

文献記録のみで、県内では絶滅したと考えられる。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町北部（文献）、高岡市西部（文献）。

生態・生息環境

山野の手入れされた草原に生育する多年草。花期は 6 月。

生存への脅威（減少の要因）

管理放棄、遷移進行。

保全対策

生育地の保護（再発見の場合）。



撮影：太田道人
(熊本県にて)

（文責：東義詔）

スズサイコ (キョウチクトウ科)

Vincetoxicum pycnostelma Kitag.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅+野生絶滅

環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

1960 年以降の記録がなく、過去の生育地も消失しているので県内では絶滅したと考えられる。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

入善町北東部、黒部市北中部、魚津市西部、滑川市南部。

生態・生息環境

低地～山地のやや乾燥した草地に生育する多年草。花期は 7～8 月。

生存への脅威（減少の要因）

草地開発、遷移進行。

保全対策

過去の生育環境の保存、生育地の保護（再発見の場合）。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



撮影：山下寿之（兵庫県にて）

（文責：鈴木浩司）

マメダオシ (ヒルガオ科) *Cuscuta australis* R.Br.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅+野生絶滅
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 IA 類

選定理由

1983 年の標本記録を最後に、生育情報がないことから、県内では絶滅したと考えられる。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

富山市北東部（1983 年標本）。このほかに、魚津市、立山町、富山市南部、南砺市に 1950 年以前の標本がある。

生態・生息環境

日当たりのよい水路沿いの野原や河川敷などに他の植物にからみついて生長する寄生植物。花は 7~10 月。ダイズ（マメ科）に寄生して枯らすことが名の由来。

生存への脅威（減少の要因）

草地や海岸の開発。

保全対策

生育環境の維持（再発見の場合）。



撮影：早瀬 裕也（山形県産栽培品）

（文責：太田 道人）

オオアブノメ (オオバコ科) *Gratiola japonica* Miq.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅+野生絶滅
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

県内での生育は入善町における文献情報のみであるが、これは 70 年以上前のものと思われ、それ以降の生育情報が得られていないことから絶滅したものと思われる。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

入善町（文献）。

生態・生息環境

低地の湿地や水田に生える一年草。花期は 5~6 月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、水田の乾田化、水田耕作サイクルの変化、農薬散布、湿地開発。

保全対策

低湿地の開発の抑制、生育地の保護（再発見の場合）。

文献

129)

（文責：大原 隆明）

ヒシモドキ (オオバコ科) *Trapella sinensis* Oliv.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅+野生絶滅
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 IB 類

選定理由

1947 年以降の記録がないことから、県内では絶滅したと考えられる。

国内の分布状況

本州、九州。

県内の分布状況

富山市西部（文献）。

生態・生息環境

池沼やため池などに生える一年生の浮葉植物。花期は 7~9 月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、池沼開発、水質汚染、除草剤の使用。

保全対策

水質保全を中心とする過去の生育環境の保存、生育地の保護（再発見の場合）。



撮影：上赤 博文（佐賀県にて）

（文責：川住 清貴）

フサタヌキモ (タヌキモ科) *Utricularia dimorphantha* Makino

富山県 2025 カテゴリー：絶滅+野生絶滅
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 IB 類

選定理由

氷見市中西部に古い記録があるが、現在生育が確認されているタヌキモ類はほとんどがイヌタヌキモであり、確実な生育情報がない。

国内の分布状況

本州（近畿・中部地方）。

県内の分布状況

氷見市中西部（文献）。

生態・生息環境

池沼に生育する多年生の浮遊植物。花期は、閉鎖花が6～9月、開放花が7～8月。

生存への脅威（減少の要因）

池沼開発、水質汚染、ため池の管理放棄、除草剤の使用。

保全対策

生育地の保護（再発見の場合）、ため池の水質・水量の維持、除草剤使用の抑制。

（文責：川住 清貴）

ヒナギキヨウ (キキヨウ科) *Wahlenbergia marginata* (Thunb.) A.DC.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅+野生絶滅
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

文献に記録があるだけで、現在は全く見られない。低地の開発によって絶滅したと考えられる。

国内の分布状況

本州（関東地方南部、富山県以西）、四国、九州。

県内の分布状況

入善町（文献）、富山市（文献）。

生態・生息環境

日当たりの良い原野、草地に生える多年草。花期は5～8月。

生存への脅威（減少の要因）

草地開発、除草剤の使用。

保全対策

生育地の保護（再発見の場合）。

特記事項

近年射水市北部にて生育が確認されたが、周辺の生育種から外来の可能性がある。



撮影：大原 隆明
(外来種と推定されるもの)

（文責：川住 清貴）

ハマベノギク (キク科) *Aster arenarius* (Kitam.) Nemoto

富山県 2025 カテゴリー：絶滅+野生絶滅
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

分布の北限で、生育地が極めて限定されていたが、海岸整備により生育適地が失われた。

国内の分布状況

本州（富山県以西の日本海側）、九州。

県内の分布状況

氷見市南部、高岡市北部。

生態・生息環境

海岸砂地に生育する多年草。花期は7～10月。

生存への脅威（減少の要因）

海岸整備。

保全対策

生育地の保護（再発見の場合）。

特記事項

能登半島国定公園特別地域の指定植物。



撮影：太田 道人 (石川県にて)

（文責：鈴木 浩司）

ミシマサイコ (セリ科) *Bupleurum stenophyllum* (Nakai) Kitag.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅+野生絶滅
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

近年の記録がなく、確実な生育情報が確認できていない。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

入善町（文献）、黒部市（文献）、魚津市（文献）。

生態・生息環境

海岸から低山地の草地に生育する。花期は8~10月。

生存への脅威（減少の要因）

草地開発。

保全対策

生育地の保護（再発見の場合）。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



撮影：鈴木 浩司（栽培品）

（文責：東 義詔）

ヤチスギラン (ヒカゲノカズラ科) *Lycopodiella inundata* (L.) Holub

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地の湿地が1カ所であり、湿地の藪化・乾燥化などの環境変化で絶滅するおそれが高い。

国内の分布状況

北海道、本州（近畿以北。多くは日本海側）。

県内の分布状況

上市町

生態・生息環境

冷涼な湿地に生育する、匍匐性で先端のみ越冬するシダ植物。

生存への脅威（減少の要因）

自然遷移、豪雨などによる土砂流入。

保全対策

生育環境の保全。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



撮影：石澤 岩央

（文責：石澤 岩央）



保護上の観点から分布位置は非公開

ミズニラ (ミズニラ科) *Isoetes japonica* A.Braun

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

生育地が局限されており、急速な環境変化で容易に消滅するおそれがある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市北部・西部、魚津市。過去の記録にある射水市南部と氷見市のものは絶滅したと考えられる。

生態・生息環境

泥土が時々攪乱される水湿地に沈水状態で、あるいは抽水状態で生育するシダ植物。ため池等の水位が下がった時期（夏期、秋期）に短期間だけ出現することもある。夏緑性と考えられる。胞子は夏に熟し、水で散布する。

生存への脅威（減少の要因）

水路工事、ため池・休耕湿田の管理放棄、湿地開発。

保全対策

生育環境の保護管理。耕作と密接な関係がある場合が多い。

(文責：佐藤 卓)



撮影：石須秀知



2012年以降の記録をもとに作成

ミヤマハナワラビ (ハナヤスリ科)

Botrychium lanceolatum (S.G.Gmel.) Ångstr. subsp. *lanceolatum*

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類

環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 IA 類

選定理由

生育地が極めて限定されており、個体数も極めて少ない。

国内の分布状況

北海道、本州（中部地方以北）。

県内の分布状況

黒部市南部。

生態・生息環境

高山帯の日当たりのよい岩間、草原に生える小型の夏緑性シダ植物。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、気候変動。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



(文責：長井 幸雄)

サンショウモ (サンショウモ科) *Salvinia natans* (L.) All.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

これまで知られた生育地のほとんどが絶滅または現状不明である。現存が確認されている生育地は 2 カ所のみであり、これらの場所でもため池の管理方法の変化など急激な環境変化により絶滅するおそれが高い。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市、滑川市(文献)、富山市(絶滅)、砺波市、高岡市(文献)、氷見市(絶滅)、小矢部市。

生態・生息環境

日当たりの良い池沼に生育する一年生水草のシダ植物。夏は水面を覆うほどに増えることもある。

生存への脅威（減少の要因）

ため池の廃止・放置、自然遷移、自然災害。

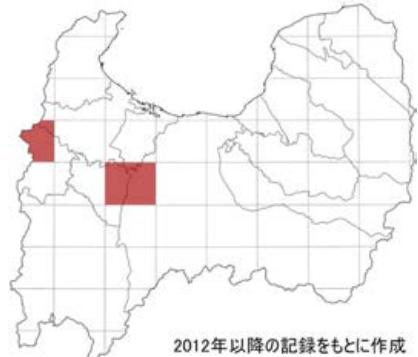
保全対策

生育環境の保護管理。

(文責：石澤 岩央)



撮影：太田道人



ヤマドリトラノオ (チャセンシダ科) *Asplenium castaneoviride* Baker

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 IA 類

選定理由

生育地がわずかしか知られておらず、生育個体数も著しく少ない。近年の確実な生育地は 1 カ所のみとなっている。

国内の分布状況

北海道、本州（関東、中部、近畿）、九州にごくまれ。

県内の分布状況

魚津市南東部、富山市南東部。

生態・生息環境

山地の急な岩場に生える多年生のシダ植物。

生存への脅威（減少の要因）

道路工事。

保全対策

生育地の保護管理。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

(文責：早瀬 裕也)



クラガリシダ (ウラボシ科)

Lepisorus miyoshianus (Makino) Fraser-Jenk. et Subh.Chandra

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類

環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 IB 類

選定理由

生育地が 1 カ所のみで個体数も 1 株である。着生している樹木の倒木、伐採により容易に絶滅するおそれがある。

国内の分布状況

本州中部以西、四国、九州。

県内の分布状況

南砺市。

生態・生息環境

空中湿度の高い地域の苔むした樹木に着生する、常緑性のシダ植物。

生存への脅威（減少の要因）

自然災害（土砂崩れ、雪崩）による着生する樹木の倒壊、工事による伐採。

保全対策

生育樹木の保全。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物、能登半島国定公園特別地域の指定植物。

(文責：石澤 岩央)



撮影：石澤 岩央



2012年以降の記録をもとに作成

ビロードシダ (ウラボシ科)

Pyrrosia linearifolia (Hook.) Ching

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類

環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が極めて限られ、かつ個体数が減少しており、絶滅の危険がある。園芸目的で採取されるおそれがある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市(南部)。

生態・生息環境

岩、樹幹などに着生する常緑性のシダ。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、開発（特に森林伐採を伴うもの）。園芸目的の採取。

保全対策

生育地の保護。乱獲の抑制。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

(文責：中田 政司)



撮影：中田 政司（愛媛県にて）



ハイネズ (ヒノキ科)

Juniperus rigida Siebold et Zucc. var. *conferta* (Parl.) Patschke

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類

環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では生育地が極めて限定され、個体数が減少している。生育条件が海岸整備や宅地造成により悪化している。

国内の分布状況

北海道、本州、九州。

県内の分布状況

高岡市北部、氷見市東部。

生態・生息環境

海岸の砂地に大きな群落をつくる常緑の針葉樹。花期は4~5月。

生存への脅威（減少の要因）

海岸の整備・改修、宅地造成。

保全対策

生育地の保護、生育環境の保全。



撮影：大原 隆明

(文責：鈴木 浩司)



2012年以降の記録をもとに作成

オニバス (スイレン科)

Euryale ferox Salisb.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類

環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

生育範囲が狭く、一年生水草であるため毎年発芽する個体数に変化があり、環境の変化に対して脆弱である。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

氷見市南東部。

生態・生息環境

池沼、たけ池などに生育する一年生浮葉植物。水中の閉鎖花（花期は6~9月）、と水上の開放花（花期は8~9月）がある。

生存への脅威（減少の要因）

河川改修、アメリカカザリガニによる食害、水質汚濁等の生育環境の悪化。

保全対策

生育環境の保存と復元、生育地の保護。

特記事項

県内では氷見市十二町潟のみに生育していたが1979年に絶滅宣言された。しかし、2005年からやや下流域において自生が確認されるようになった。「十二町潟オニバス発生地」は国の天然記念物。



撮影：太田道人



2012年以降の記録をもとに作成

(文責：鈴木 浩司)

サイコクヒメコウホネ (スイレン科) *Nuphar saikokuensis* Shiga et Kadono

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が極めて限定されており、人為の影響を受けやすい。

国内の分布状況

本州、四国。

県内の分布状況

黒部市、射水市中南部、氷見市。

生態・生息環境

浅い池や沼、または小さな流れに生育する多年草。

生存への脅威（減少の要因）

ため池の管理放棄、水質汚染。

保全対策

ため池の管理、水質の維持。

特記事項

本県の「ヒメコウホネ」はタイプ産地（愛知県）のヒメコウホネとは別種であると判明したため、名称を変更した。中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

(文責：鈴木 浩司)



撮影：石澤 岩央



富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

マイヅルテンナンショウ (サトイモ科) *Arisaema heterophyllum* Blume

選定理由

県内では 1 カ所のみで自然分布が確認されているが、生育地が草地で人為的な影響を受けやすく不安定なため、絶滅に至るおそれがある。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市南部、富山市西部（樹木の植栽事業に伴い、県外から移入した可能性が高い）。

生態・生息環境

日当たりのよい草原や疎林に生育する多年草。花期は 5~6 月。

生存への脅威（減少の要因）

草原の開発、植生遷移。

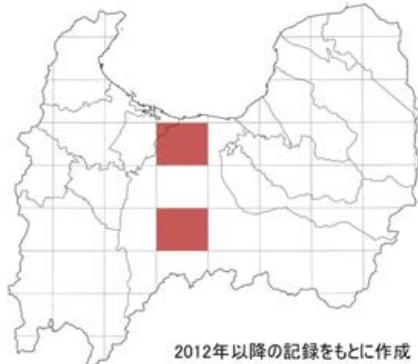
保全対策

生育地の保全。

(文責：長井 幸雄)



撮影：太田 道人



2012年以降の記録をもとに作成

ヒメカイウ (サトイモ科) *Calla palustris* L.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

県内では生育地が 1 ケ所しかなく、生育数も少ない。近年の確実な生育確認はなく、湿地の環境変化によっては絶滅しているおそれがある。

国内の分布状況

北海道、本州（中北部）。

県内の分布状況

上市町。

生態・生息環境

温帯域の山間部の水湿地に生育する抽水生の多年草。花期は 6～7 月。

生存への脅威（減少の要因）

自然遷移による湿地の藪化・乾燥化、産地局限。

保全対策

生育地の保護。

(文責：石澤 岩央)



撮影：山下 寿之（長野県にて）



サジオモダカ (オモダカ科) *Alisma plantago-aquatica* L. var. *orientale* Sam.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では生育地が極めて限定されているのに加え、湿地開発や水田の乾田化、農薬の使用などにより生育条件が悪化しつつある。

国内の分布状況

北海道、本州（北・中部）。

県内の分布状況

入善町、富山市、射水市。

生態・生息環境

水田や浅い池に生育する多年草。花期は 8～10 月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、湿地開発、水田の乾田化、除草剤の使用。

保全対策

湿地開発の抑制、生育地の保護。除草剤の使用抑制。

(文責：早瀬 裕也)



撮影：林 三良（石川県にて）



セトヤナギスブタ (トチカガミ科) *Blyxa alternifolia* (Miq.) Hartog

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 IB 類

選定理由

生育地が極めて限定されており、個体数も少ない。環境の変化によって絶滅する可能性がある。

国内の分布状況

本州中部以西

県内の分布状況

射水市中南部。

生態・生息環境

水田、ため池、水路などに生育する一年生の沈水植物。花期は8~10月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、水田や水路の開発、水質汚染、除草剤の使用、遷移進行。

保全対策

生育地の保全、水質汚染の防止、除草剤使用の抑制。ヤナギスブタと誤認されている可能性があり、他の自生地を探す必要がある。

(文責：川住 清貴)



撮影：大原隆明



富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

トチカガミ (トチカガミ科) *Hydrocharis dubia* (Blume) Backer

選定理由

かつては県内数ヵ所に自生していたが、ほとんどの場所で絶滅し、現在は生育地が極めて限定されている。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市北部（絶滅）、富山市北部（絶滅）・富山市南西部、南砺市北部（絶滅）、氷見市南東部（絶滅）。

生態・生息環境

池沼に生育する多年生の浮遊植物。花期は8~10月。

生存への脅威（減少の要因）

池沼開発、水質汚染、除草剤の使用。

保全対策

生育地の保全、ため池の水質・水量の維持、除草剤の使用抑制。

(文責：川住 清貴)



撮影：大田道人



保護上の観点から分布位置は非公開

トリゲモ (トチカガミ科) *Najas minor* All.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

確認された自生地は数ヶ所で、環境の変化により絶滅するおそれがある。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

氷見市（北部）、高岡市（中部）。

生態・生息環境

湖沼、ため池などに生育する一年生の沈水植物で、花期は7～10月。

生存への脅威（減少の要因）

開発（特に池沼の改変を伴うもの）、管理放棄による遷移進行（ため池、休耕田）、水質汚濁、除草剤の使用。

保全対策

生育地の保護、水質汚濁の防止、除草剤使用の抑制。

（文責：中田 政司）



撮影：太田 道人、



オオトリゲモ (トチカガミ科) *Najas oguraensis* Miki

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

自生が確認されていた氷見市のため池は、冬期に水を抜く管理が行われ絶滅した。その下流の水路数か所に生育が確認されたが、水質や水位環境の悪化によっては絶滅のおそれがある。

国内の分布状況

本州中部以西、四国、九州。

県内の分布状況

氷見市（中部）。

生態・生息環境

湖沼やため池に生育する沈水性の一年草。花期は7～9月。

生存への脅威（減少の要因）

ため池の管理、管理放棄、水質汚染。

保全対策

ため池の水位、水質の維持。

（文責：中田 政司）



撮影：中田 政司



ヒロハノエビモ (ヒルムシロ科) *Potamogeton perfoliatus* L.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

1958 年以降観察例がなかったが、1997 年に造成地内で再発見された。生育地が限られ、近年の生育情報は無いが埋土種子として休眠している可能性がある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州に分布するが、西日本では稀。

県内の分布状況

富山市中部。氷見市南東部（十二町潟）では絶滅。

生態・生息環境

池沼や水路などに生育する多年生の沈水植物。花期は 6～9 月。

保全対策

生育地の保全（再発見の場合）、ため池や水路の水質・水量の維持。

(文責：川住 清貴)



ホンゴウソウ (ホンゴウソウ科) *Sciaphila nana* Blume

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

2017 年に富山市、立山町で各 1 カ所自生地が確認された。しかしその後、豪雨による自生地の崩壊があり、現存を確認できていない。菌従属栄養植物であり、自生環境の変化に対して脆弱であると考えられる。

国内の分布状況

本州（宮城県・栃木県・新潟県以西）～琉球。

県内の分布状況

富山市中部・立山町。

生態・生息環境

落葉広葉樹林の林床に生える菌従属栄養植物。花期および果期は 7～10 月。

生存への脅威（減少の要因）

生態的脆弱性、自然災害。

保全対策

生育環境の保護管理。

(文責：早瀬 裕也)



ムギラン (ラン科) *Bulbophyllum inconspicuum* Maxim.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

生育地は 1 か所しか知られてなく、園芸目的の採取により個体数が極端に減少し、1988 年以降の標本記録、目撃情報がない。

国内の分布状況

本州（中・西部）、四国、九州。

県内の分布状況

上市町（西部）。

生態・生息環境

林内の岩や樹幹の表面に着生する多年草。花期は 6~7 月。

生存への脅威（減少の要因）

園芸採取、開発（特に森林伐採を伴うもの）。

保全対策

乱獲の抑制、生育地の保護。生息域外保全。

特記事項

能登半島国定公園特別地域の指定植物。

(文責：中田 政司)



撮影：中田 政司



ナツエビネ (ラン科) *Calanthe puberula* Lindl.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

生育地は複数確認されているが、園芸目的の採取、里山放置による藪化などにより一部では絶滅や現状不明もあり、個体数が減少しており絶滅のおそれがある。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町、黒部市（一部絶滅）、魚津市（文献）、富山市、砺波市（写真）、氷見市（目撃）。

生態・生息環境

温帯下部の疎林のやや湿った林内に生える多年草。花期は 7~8 月。

生存への脅威（減少の要因）

園芸目的の強い採取圧、里山の放置、開発（特に森林伐採を伴うもの）。

保全対策

乱獲の抑制、生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物、能登半島国定公園特別地域の指定植物、朝日・僧ヶ岳・五箇山・白木水無県立自然公園の指定植物。

(文責：石澤 岩央)



撮影：太田 道人



モイワラン (ラン科) *Cremastra aphylla* T.Yukawa

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 IA 類

選定理由

生育地が著しく限定されており、個体数もごくわずかである。既知の生育地も河川の護岸整備や林道整備、盗掘などにより消滅しており、絶滅の危険性が大きくなっている。

国内の分布状況

北海道、本州。

県内の分布状況

黒部市南部、富山市南東部。

生態・生息環境

山地の落葉樹林内に生育する菌従属栄養植物（光合成をせず、共生する菌類から栄養を得て生育する植物）。通常、葉がないが、まれに小さな葉をつけることもある。花期は6月頃。

生存への脅威（減少の要因）

園芸採取、開発（特に森林伐採を伴うもの）。

保全対策

乱獲の抑制、生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

(文責：太田 道人)



撮影：太田 道人



2012年以降の記録をもとに作成

コアツモリソウ (ラン科) *Cypripedium debile* Rchb.f.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

県内では生育地が極めて限定されており、個体数も著しく少ない。

国内の分布状況

北海道南西部、本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市南東部。

生態・生息環境

落葉樹林の林床に生育する多年草。花期は5～6月。

生存への脅威（減少の要因）

園芸採取、ダム工事。

保全対策

生育地の保護、乱獲の抑制。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物、朝日県立自然公園の指定植物。

(文責：鈴木 浩司)



撮影：早瀬 裕也 (栽培品)



2012年以降の記録なし

アツモリソウ (ラン科)

Cypripedium macranthos Sw. var. *speciosum* (Rolfe) Koidz.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類

環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

目撃情報に基づいて掲載。生育地が極めて限られており、個体数もわずかである。その後の生育情報がなく絶滅している可能性もある。情報からはホテイアツモリソウ *Cypripedium macranthos* Sw. var. *macranthos* の可能性もあり、これを含める。

なお、目撃情報のみによる判断の適切性については、この種の同定困難度と目撃者の知識等の両面から検討したところ複数の委員の保証があり信頼できる情報とした。また、この 2 变種は採取圧が極めて高く「種の保存法」の国内希少野生動植物種であることも考慮した。



国内の分布状況

北海道、本州（近畿以北）。

県内の分布状況

富山市。

生態・生息環境

山地または亜高山の草原等に生育する多年草。花期は 5~7 月。

生存への脅威（減少の要因）

園芸目的の強い採取圧、自然災害(土砂災害など)。

保全対策

採取の抑制(種の保存法の広報など)、生育地の保護。

特記事項

「種の保存法」国内希少野生動植物種。

(文責：石澤 岩央)

サワラン (ラン科)

Eleorchis japonica (A.Gray) F.Maek. var. *japonica*

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類

環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地である湿地が極めて限られ個体数も著しく少ない。園芸目的の採取、自然遷移による湿地の消失による絶滅や現状不明が多く、絶滅のおそれがある。

国内の分布状況

北海道、本州（近畿以北）。

県内の分布状況

朝日町、立山町、上市町(一部絶滅)、富山市(一部絶滅)。

生態・生息環境

日当たりのよい湿地に生育する多年草。花期は 6~8 月。

生存への脅威（減少の要因）

園芸採取、自然災害、自然遷移。

保全対策

採取の抑制、生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物、能登半島国定公園特別地域の指定植物、有峰・五箇山・白木水無県立自然公園の指定植物。



撮影：石須 秀知



(文責：石澤 岩央)

カモメラン (ラン科) *Galearis cyclochila* (Franch. et Sav.) Soó

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

産地が限られ個体数も著しく少ない。現在生育が確認できるのは 1 カ所のみであり園芸目的の採取や自然災害等で容易に絶滅するおそれがある。

国内の分布状況

北海道、本州（中国地方以北）、四国。

県内の分布状況

魚津市(文献写真)、富山市。

生態・生息環境

深山の湿った林縁に生える多年草。花期は 5~7 月。

生存への脅威（減少の要因）

園芸採取、自然災害、笹藪化。

保全対策

採取の抑制、生育地の保全。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物、僧ヶ岳・白木水無県立自然公園の指定植物。

(文責：石澤 岩央)



シロテンマ (ラン科) *Gastrodia elata* Blume var. *pallens* Kitag.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 IA 類

選定理由

過去の文献情報のみであるが、その生態的特性から花期に遭遇しない限り情報が得にくい種であり、今後も注目すべきである。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市南東部（文献より）。

生態・生息環境

山地の落葉広葉樹林に生育し、ナラタケと共生する葉緑素のない菌従属栄養植物。花期は 6~7 月。

生存への脅威（減少の要因）

森林開発、踏みつけ。

保全対策

生育地の保全。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



(文責：長井 幸雄)

ベニシュスラン (ラン科) *Goodyera biflora* (Lindl.) Hook.f.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

花が美しいために山野草として採取され、個体数が減少している。県内では生育地が極めて限定されている。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市南部、南砺市南部。

生態・生息環境

落葉樹林の湿った林床に生育する多年草、花期は7~8月。

生存への脅威（減少の要因）

園芸採取。

保全対策

生育地の保護、採取の抑制。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物、僧ヶ岳県立自然公園の指定植物。

(文責：鈴木 浩司)



サギソウ (ラン科) *Habenaria radiata* (Thunb.) Spreng.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

里山の放棄等により二次遷移が進行したため生育環境が衰退し、生育地が極めて限定されている。また、花が美しいために観賞用の山野草として採取され、個体数はわずかである。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町、入善町、黒部市、上市町、富山市、南砺市。ほとんどの地点で、既に絶滅している。

生態・生息環境

日当たりのよい湿地に生育する多年草で、前年にできた地中の球茎から芽を出す。花期は7~8月。

生存への脅威（減少の要因）

湿地の開発、生育地の管理放棄による二次遷移、園芸採取。

保全対策

生育地の環境確保と保護管理、採取の抑制。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物、能登半島国定公園特別地域の指定植物。

(文責：石須 秀知)



ミズトンボ (ラン科) *Habenaria sagittifera* Rchb.f.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

生育地である湿地が限られ、湿地の乾燥化などにより複数の生育地が消滅または現状不明である。湿地の乾燥化などによって個体数が減少し、絶滅の危機に瀕している。

国内の分布状況

北海道（西南部）、本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町、入善町、黒部市、富山市(文献：絶滅)、南砺市(絶滅)、小矢部市(絶滅)。

生態・生息環境

平地～山地の陽湿地に生育する多年草。花期は8～9月。

生存への脅威（減少の要因）

開発(特に湿地の改変を伴うもの)、園芸採取、湿地の乾燥化、野生動物による環境改変。

保全対策

生育地の保護、採取の抑制、野生動物対策。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

(文責：石澤 岩央)



ヒナチドリ (ラン科) *Hemipilia chidori* (Makino) Y.Tang, H.Peng et T.Yukawa

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

生育地が極めて限られており、生育個体数も著しく少ない。観賞用の山野草としての採取や森林伐採などにより、絶滅するおそれがある。

国内の分布状況

本州、四国。

県内の分布状況

黒部市南部、立山町中部

生態・生息環境

大樹の幹や枝に着生する多年草。花期は7～8月。

生存への脅威（減少の要因）

開発(特に森林伐採を伴うもの)、園芸採取。

保全対策

生育地の保護、乱獲の抑制。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

(文責：太田 道人)



コアニチドリ (ラン科)

Hemipilia kinoshitae (Makino) Y.Tang, H.Peng et T.Yukawa

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類

環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

分布の南西限に近く、県内では生育地、個体数ともに限られる。花が美しいため観賞用の山野草として採取の対象となり、各地で個体数が減少し絶滅の危機にさらされている。

国内の分布状況

北海道、本州（中北部）。

県内の分布状況

朝日町、南砺市。

生態・生息環境

湿原や湿った岩場に生育する多年草。花期は6～8月。

生存への脅威（減少の要因）

園芸採取、開発（特に森林伐採を伴うもの）。

保全対策

乱獲の抑制、生育地の保護。

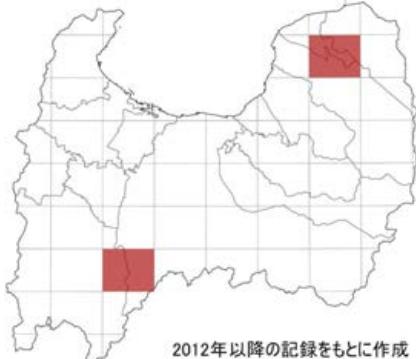
特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物、白木水無・医王山県立自然公園の指定植物。

（文責：早瀬 裕也）



撮影：中田 政司



2012年以降の記録とともに作成

エンシュウムヨウラン (ラン科)

Lecanorches suginoana (Tuyama) Seriz.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類

環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

2024年に自生初確認。県内では生育地が極めて限定され、個体数も非常に限られている。菌従属栄養植物であり、自生環境の変化に対して脆弱であると考えられる。

国内の分布状況

本州（東北地方南部～北陸・東海・近畿地方）、四国、九州。

県内の分布状況

富山市南部

生態・生息環境

低山の林内に生える菌従属栄養性の多年草。花期は6月上旬。

生存への脅威（減少の要因）

生態的脆弱性、園芸採取、草刈り・踏みつけ、産地局限。

保全対策

採取の抑制、生育地の保護管理。

（文責：早瀬 裕也）



撮影：早瀬 裕也



保護上の観点から分布位置は非公開

スズムシソウ (ラン科)

Liparis suzumushi Tsutsumi, T.Yukawa et M.Kato

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類

環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

富山市内で標本が残されているが、近年の生育情報がない。絶滅した可能性も考えられる。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市。

生態・生息環境

山地に生育する多年草。花期は4~6月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、園芸採取、生育地の開発（特に森林伐採を伴うもの）。

保全対策

生育地の保全、採集の抑制。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



収蔵：富山市科学博物館

(文責：東 義詔)



ホザキイチヨウラン (ラン科)

Malaxis monophyllos (L.) Sw.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類

環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では生育地が極めて限定されている。花が美しいために観賞用の山野草として盗掘され、個体数が著しく減少している。

国内の分布状況

北海道、本州（静岡県・福井県以北）、四国。

県内の分布状況

魚津市南東部、立山町南部、富山市東部。

生態・生息環境

山地・亜高山の森林樹下に生育する多年生の地生ラン。花期は7~8月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、踏みつけ、園芸採取。

保全対策

生育地の保護管理。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物、朝日・僧ヶ岳・有峰県立自然公園の指定植物。

(文責：早瀬 裕也)



ミズチドリ (ラン科) *Platanthera hologlottis* Maxim.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では生育地である湿地が極めて限定されている。園芸目的の採取、湿地の乾燥化などにより個体数が減少し、絶滅の危機が高まっている。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市。

生態・生息環境

山地の湿地に生育する多年草。花期は6~7月。

生存への脅威（減少の要因）

園芸採取、自然遷移による湿地の消滅、野生動物による環境改変(イノシシの沼田場化)。

保全対策

採取の抑制、生育地の保護、野生動物対策。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物、有峰県立自然公園の指定植物。

(文責：石澤 岩央)



撮影：石澤 岩央



富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 IB 類

イイヌマムカゴ (ラン科) *Platanthera iinumae* (Makino) Makino

選定理由

これまで正確な分布情報が少なく、南砺市および魚津市で生育が確認されているが、いずれも生育個体数は非常に少ない。福井県ではシカの食害による減少も報告されている（藤野・榎本 2023）。

国内の分布状況

北海道（南部）、本州、四国、九州。

県内の分布状況

魚津市、南砺市。

生態・生息環境

山地の樹林下に生える多年草。花期は7~8月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、開発（特に森林伐採を伴うもの）、シカによる食害、園芸採取。

保全対策

生育地の保護、乱獲の抑制。

文献

9)



撮影：若杉 美仁



2012年以降の記録をもとに作成

(文責：大原 隆明)

ヤマトキソウ (ラン科) *Pogonia minor* (Makino) Makino

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

近年ミヤマトキソウが新種発表され、県内のトキソウ・ヤマトキソウとされてきた記録の再検討を行った結果、目撃情報や古い文献情報のヤマトキソウの記録は、ミヤマトキソウと推定された。本種であることが確実な全生育地で個体数が限られ、観賞用の採取や、乾燥化等の生育条件の悪化などで個体数が減少し、かつての自生地で確実な現存を確認できない。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市、上市町（現状不明）。

生態・生息環境

山地のやや湿った草地などに生育する多年草で、花期は6～8月。

生存への脅威（減少の要因）

開発（特に森林伐採、湿地の改変を伴うもの）、園芸採取、遷移進行。

保全対策

生育地の保護、採取の抑制。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物、有峰・白木水無県立自然公園の指定植物。

（文責：早瀬 裕也）



撮影：石澤 岩央



2012年以降の記録をもとに作成

カヤラン (ラン科)

Thrixspermum japonicum (Miq.) Rchb.f.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類

環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

確実な自生地は1か所のみで、生育環境の悪化、園芸目的の採取などにより絶滅のおそれがある。

国内の分布状況

本州（中・西部）、四国、九州。

県内の分布状況

上市町（西部）。

生態・生息環境

渓谷内の高木の高所の枝元表面に着生する多年草。花期は6～7月。

生存への脅威（減少の要因）

生育環境の悪化（乾燥）、園芸採取。

保全対策

生育地の保護、乱獲の抑制。



撮影：中田 政司

（文責：中田 政司）



保護上の観点から分布位置は非公開

キバナノショウキラン (ラン科) *Yoania amagiensis* Nakai et F.Maek.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 IB 類

選定理由

文献記録による掲載。絶滅している可能性が大である。

国内の分布状況

本州（関東～紀伊半島）、四国、九州。

県内の分布状況

富山市南部（文献による記録のみ）。

生態・生息環境

ブナ帯の落葉樹林下またはササ原に生育する菌従属栄養植物。花期は6～7月。

生存への脅威（減少の要因）

園芸採取、野生動物による食害、開発（特に森林伐採を伴うもの）。

保全対策

乱獲の抑制、生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物、朝日・有峰・白木水無県立自然公園の指定植物。

文献

75)



撮影：太田道人（大分県にて）



(文責：早瀬 裕也)

ヒオウギ (アヤメ科)

Iris domestica (L.) Goldblatt et Mabb.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類

環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が極めて限定されている。かつての生育地は道路の拡幅によって個体数が激減した。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市南部、射水市南部。

生態・生息環境

山地の日当たりのよい草地や崖地に生育する多年草。全国的にも希少である。花期は8～9月。

生存への脅威（減少の要因）

園芸採取、植生遷移、道路工事。

保全対策

生育地の保全、採取の抑制。



撮影：太田道人



(文責：長井 幸雄)

コヤブラン (キジカクシ科) *Liriope spicata* Lour.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

2005 年に県内初記録され、本県は分布の北限域にあたるが、それ以降は確認されていない。もともと生育面積、個体数ともに少なく、存続基盤が脆弱である。

国内の分布状況

本州（中部以西）、四国、九州、琉球。

県内の分布状況

射水市。

生態・生息環境

温暖な低地から丘陵地にかけての林床に生育する常緑の多年草。開花期は 7 ~9 月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、森林の開発、人間の踏み荒らし。

保全対策

生育地の保全。



(文責：大原 隆明)

エゾイトイ (イグサ科) *Juncus potaninii* Buchenau

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 IA 類

選定理由

県内産の標本は 1936 年に採集された 1 点があるのみである。その産地は険しい高山でアプローチが困難な岩場であると推測され、その後の確認や分布の実態調査が進んでいないが、現存する可能性が高い。

地域特有の形態

富山県産の標本は草高が約 6cm、朔果は長さ 3~3.7mm と小型、雄蕊は花被片からほとんど突出しない等の特徴がみられ、県内に生育する類似種のイトイとは明らかに異なり、本種と同定されるものである。

国内の分布状況

北海道、本州（北アルプス、南アルプス、八ヶ岳）。北アルプスにおける記録は本件が唯一と推測される。

県内の分布状況

上市町。

生態・生息環境

高山の岩上に生育する。花期は夏で、多年草である。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、気候変動。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



収藏：富山市科学博物館



(文責：大原 隆明)

タカネイ (イグサ科) *Juncus triglumis* L.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

県内でも生育地が極めて限定されているが、文献記録のみで、生育の現状はわかつていない。

国内の分布状況

北海道（大雪山）、本州中部。

県内の分布状況

朝日町南東部。

生態・生息環境

高山に生育する多年草。花期は7~8月。

生存への脅威（減少の要因）

気候変動。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



(文責：早瀬 裕也)

イトテンツキ (カヤツリグサ科)

Bulbostylis densa (Wall.) Hand.-Mazz. var. *capitata* (Miq.) Ohwi

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

本変種の分布のほぼ北限に当たると考えられ、生育地は2カ所が確認されているが、富山市の産地は河川改修工事に伴う草地の開発や車両の踏みつけによる絶滅が確認された。もう1カ所の魚津市の産地は現状不明であるが、精査すれば現存する可能性も考えられる。

国内の分布状況

本州（中部以南）、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

魚津市、富山市。

生態・生息環境

河川敷など、低地の草地に生育する。花期は夏～秋で、一年草である。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、河川敷草地の開発、河川改修の工事車両による踏みつけ。

保全対策

開発の抑制、生育地の保護（再発見の場合）。



(文責：大原 隆明)



タカネシバスゲ (カヤツリグサ科)

Carex capillaris L. subsp. *chlorostachys* (Steven) Á.Löve, D.Löve et Raymond

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類

環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 IB 類

選定理由

国内における分布地域が極めて限られている。県内でも過去の確認記録は 1 カ所のみであり証拠標本も 1958 年に得られた 1 点のみである。それ以降の確実な記録はないが、現状ではそれほど大きな環境の変化はないと予測され、現存する可能性が高い。

国内の分布状況

北海道、本州（中北部）。

県内の分布状況

朝日町。

生態・生息環境

高山帯の蛇紋岩崩壊地に生育する多年草。果実は 7~8 月に熟す。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、気候変動。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



(文責：大原 隆明)

オニスゲ (カヤツリグサ科)

Carex dickinsii Franch. et Sav.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類

環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では生育地が 2 ケ所に限られ、生育面積、個体数とも極めて小さい。生育地は低地の湿地であり、将来的に環境改変の影響を受ける可能性も高い。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

氷見市。

生態・生息環境

丘陵地の谷頭部にある休耕水田や池沼周辺の水湿地。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、植生遷移、湿地の埋め立てなどの開発。

保全対策

生育環境の保護管理。



撮影：長井 幸雄



(文責：大原 隆明)

スジヌマハリイ (カヤツリグサ科) *Eleocharis equisetiformis* (Meinsh.) B.Fedtsch.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

2002 年に県内では初記録されたが、確認されているのはこの 1 カ所のみである。この生育地は現在立ち入りが規制されており確認ができないが、現存する可能性は高い。ただし、この場所は企業が所有する工業地域内であることから、今後の生育の存続は極めて危険性が高い。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

射水市。

生態・生息環境

砂質の淡水湿地に生育。花期は 7~10 月。

生存への脅威（減少の要因）

産地極限、湿地の開発、遷移の進行。

保全対策

開発の抑制、生育地の保全、遷移の抑制。



収蔵：富山県中央植物園

(文責：大原 隆明)



オオアゼテンツキ (カヤツリグサ科) *Fimbristylis bisumbellata* (Forssk.) Bubani

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

2011 年に分布が確認されたのが県内初記録であり、その後も新たな生育地は確認されていない。生育地が人為の影響を受けやすい農耕地内の湿地であり、現在大規模な改変が進行しつつあることから絶滅のおそれがきわめて大きいと考えられる。

国内の分布状況

本州（千葉県、神奈川県、山梨県）、琉球。

県内の分布状況

富山市。

生態・生息環境

沼畔、湿地などに生育する一年草。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、生育地の開発、湿地の乾燥化。

保全対策

生育地の保全。



撮影：大原 隆明



(文責：大原 隆明)

ビロードテンツキ (カヤツリグサ科)

Fimbristylis sericea (Poir.) R.Br.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内は本種の分布のほぼ北限にあたり（北限は新潟県糸魚川市市振）、生育地が極めて限られているのに加え、海岸の侵食や改修工事により個体数、生育地ともに減少している。

国内の分布状況

本州（茨城県、新潟県以南）、四国、九州。

県内の分布状況

入善町北東部、黒部市北西部、富山市北部、射水市北部、氷見市南東部、高岡市北部。

生態・生息環境

海岸のやや安定した砂浜に生育する多年草。花期は8~10月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、海岸の侵食、海岸の改修工事。

保全対策

生育地の保護、海岸改修工事の抑制、生育環境の保全。

(文責：鈴木 浩司)



撮影：関谷 秀勝



2012年以降の記録をもとに作成

イトイヌノハナヒゲ (カヤツリグサ科)

Rhynchospora faberi C.B.Clarke

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では産地、個体数が限られているのに加え、湿地の乾燥化や植生遷移、樹木による被陰など生育環境の悪化により減少しつつある。2カ所知られる産地のうち、1カ所は乾燥による遷移が進み現在生育が確認できない。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市。

生態・生息環境

低地から丘陵地の湿地に生育する。花期は夏～秋で、多年草である。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、湿地の遷移進行や開発、樹木による被陰、湿地への立入り。

保全対策

生育地の保護、樹木の刈り払いや立ち入り規制による湿地の保全。

(文責：大原 隆明)



収蔵：富山県中央植物園



2012年以降の記録なし

ハタベカンガレイ (カヤツリグサ科) *Schoenoplectus gemmifer* C.Sato, T.Maeda et Uchino

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

県内の生育地が 1ヶ所しかなく、個体数も減少している。

国内の分布状況

本州（中部以西）、九州。

県内の分布状況

射水市西部。

生態・生息環境

湧水の流れる小河川に沈んだ状態または水面に葉を出した状態で生育する常緑の多年草。種子で増えるほか、葉の上部から芽を出してクローン繁殖も行う。果実は 8~9 月に熟す。

生存への脅威（減少の要因）

河川改修、用排水路の水草除去。

保全対策

強度の水草除去の抑制、生育地の保護。



撮影：太田 道人

(文責：太田 道人)



シズイ (カヤツリグサ科) *Schoenoplectus nipponicus* (Makino) Soják

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内で確認されている生育地は 2ヶ所であるが、いずれも人里に近い湿地で開発の対象となりやすい場所である。生育面積、個体数ともに少なく、将来的な絶滅のおそれがあるとされる。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町、小矢部市。

生態・生息環境

丘陵地の池沼の浅水中に生える。7~10 月に果穂がつく。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、湿地開発、湿地の富栄養化。

保全対策

生育環境の保護管理。



(文責：大原 隆明)

マネキンジュガヤ (カヤツリグサ科) *Scleria rugosa* R.Br. var. *onoei* (Franch. et Sav.) Yonek.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

富山市中部の山間湿地で 1975 年に標本が採集されて以来、県内での記録がない。また、生育地の里山利用が行われなくなったことにより生育地の植生遷移・乾燥化が進み、過去の環境が失われつつある。同地での本種を対象にしたその後の調査でも発見に至らなかったが、目立たない小型の草本であるため現存している可能性もある。

国内の分布状況

本州（関東地方以西）、四国、九州、琉球。

県内の分布状況

富山市。

生態・生息環境

湿地や湿草原に生育する一年草。花期は 7~9 月。

生存への脅威（減少の要因）

産地極限、里山利用が行われなくなったことによる植生遷移、湿地の開発。

保全対策

生育地の保護、植生遷移の抑制、湿地開発の抑制。

(文責：大原 隆明)

収蔵：
富山市科学博物館



ヌマカゼクサ (イネ科) *Eragrostis aquatica* Honda

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

古い標本記録のみが知られ、近年の状況は不明。既知の生育地は生育条件が開発などにより悪化しつつあり、生育個体数も限られることが予想され、絶滅の危険がある。

国内の分布状況

本州（西部）、四国。

県内の分布状況

富山市西部。

生態・生息環境

湿地に生育する多年草で、花期は 8~9 月。

生存への脅威（減少の要因）

開発（特に湿地・池沼の開発を伴うもの）。

保全対策

生育地の保護。

(文責：早瀬 裕也)

収蔵：
富山市科学博物館



ヒゲナガコメスキ (イネ科) *Ptilagrostis alpina* (F.Schmidt) Sipliv.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 IB 類

選定理由

国内における分布地域が局限されており、県内でも産地が極めて限られている。個体数もごくわずかである。

国内の分布状況

本州（白馬岳、北岳）。

県内の分布状況

朝日町南東部の高山。

生態・生息環境

高山の岩礫地に生育する多年草。花期は8~9月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、気候変動。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

「種の保存法」国内希少野生動植物種、中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

(文責：早瀬 裕也)



トガクシソウ（トガクシショウマ）(メギ科) *Ranzania japonica* (T.Itô ex Maxim.) T.Itô

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

生育地が1カ所に限られており、個体数も少ない。富山県が分布の南西限である。

国内の分布状況

本州（東北・関東北部・中部北部）の多雪地帯。

県内の分布状況

朝日町中部、未確認情報として立山町。

生態・生息環境

多雪地帯のブナ林などのやや湿った林床に生育する多年草。花期は6~7月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、砂防工事に伴う斜面工。園芸採取。

保全対策

生育地の保護管理。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物、朝日県立自然公園の指定植物。

(文責：太田 道人)



撮影：太田 道人（長野県にて）



ハンショウヅル (キンポウゲ科) *Clematis japonica* Thunb.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地、個体数ともに極めて少ない。道路横に生育しているため、道路の管理方法の変更等により容易に絶滅するおそれがある。

国内の分布状況

本州、九州

県内の分布状況

小矢部市

生態・生息環境

落葉樹林の林縁に生育するつる性木本。花期は5~6月。林床に生え林縁の低木等に巻き付く。

生存への脅威（減少の要因）

道路管理方法の変更・放置、道路工事

保全対策

生育地の保全、道路管理の維持。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



撮影：石澤 岩央

(文責：石澤 岩央)



2012年以降の記録をもとに作成

力ザグルマ (キンポウゲ科) *Clematis patens* C.Morren et Decne.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

県内では2017年に氷見市で初確認されたが、生育地が1カ所のみであり、個体数も数個体のみである。その生育地は人里に近い林縁であり、環境変化や園芸目的の採取によって容易に絶滅するおそれがある。

国内の分布状況

本州、四国、九州

県内の分布状況

氷見市南部。

生態・生息環境

丘陵地、低山地の湿った林縁に生育する多年草。花期は5~6月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、園芸目的の採取、環境の改変。

保全対策

生育地の保護、園芸採取の禁止。



撮影：松浦 雄三

(文責：大原 隆明)



オキナグサ (キンポウゲ科) *Pulsatilla cernua* (Thunb.) Berchtold et J.Presl

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

生育地が極めて限られ個体数も著しく少ない。園芸目的の採取、人為的な環境の変化などにより現在確実な生育地は 1 カ所となり、個体数も著しく少なくなり絶滅の危機に瀕している。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

入善町(文献：絶滅)、黒部市(文献：絶滅)、魚津市(文献)、富山市(一部目撃)、南砺市(一部目撃)。

生態・生息環境

丘陵地帯の日当たりの良い草原や河原などに生育する多年草。花期は 4~5 月。

生存への脅威（減少の要因）

園芸採取、草地開発、農地整備、河原管理の変更。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

(文責：石澤 岩央)



撮影：小原 耕造



タカネキンポウゲ (キンポウゲ科)

Ranunculus altaicus Laxm. subsp. *shinanoalpinus* (Ohwi) Kadota

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 IB 類

選定理由

県内の生育地が極めて限られる。観賞用の山野草としての採取や踏みつけによる生育環境の悪化によって個体数が減少し、絶滅の危機に瀕している。

国内の分布状況

本州（中部）。

県内の分布状況

黒部市南東部。

生態・生息環境

高山の湿った礫地に生える多年草。花期は 7~9 月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、園芸採取、踏みつけ。

保全対策

生育地の保護、採取の規制。

特記事項

「種の保存法」国内希少野生動植物種。

(文責：早瀬 裕也)



撮影：姫野 誠太郎



ノカラマツ (キンポウゲ科) *Thalictrum simplex* L. var. *brevipes* H.Hara

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

県内産の標本はなく、3カ所での生育が文献情報として知られている。このうち氷見市2カ所においては2000年前後に重点的な調査が行われたが、現存は確認されていない。その他の近年の確認情報もないことから、極めて危機的な状況にある可能性が高い。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市（文献）、氷見市（文献）。

生態・生息環境

平地から低山の日当たりのよい湿草地に生える多年草。花期は6~8月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、草地開発、植生の遷移。

保全対策

草地の保全、生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



(文責：大原 隆明)

キンバイソウ (キンポウゲ科) *Trollius hondoensis* Nakai

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が1か所のみで個体数も著しく少ない。自然災害、自然遷移により容易に絶滅するおそれがある。

地域特有の形態

採集された標本では、花弁は雄しべよりわずかに長いか同長程度である。

国内の分布状況

本州。

県内の分布状況

富山市。

生態・生息環境

冷温帯の草地に生育する多年草。花期は7~8月。本県では急な河川崖地の草付き地での生育が確認されている。ただしこの崖地のさらに上部での生育の可能性はある。

生存への脅威（減少の要因）

自然災害（土砂崩れ）、自然遷移。

保全対策

生育地の保全。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



撮影：石澤 岩央



(文責：石澤 岩央)

ヤマシャクヤク (ボタン科) *Paeonia japonica* (Makino) Miyabe et Takeda

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

生育地が限られ、個体数も少ない。花が美しいために観賞用の山野草としてよく採取され、個体数が激減している。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町北部、黒部市南部、魚津市中部、上市町、立山町中部、富山市中部、氷見市北部、南砺市。

生態・生息環境

夏緑広葉樹林の林床などに生える多年草。花期は5月。

生存への脅威（減少の要因）

園芸、茶花として乱獲、自然遷移。

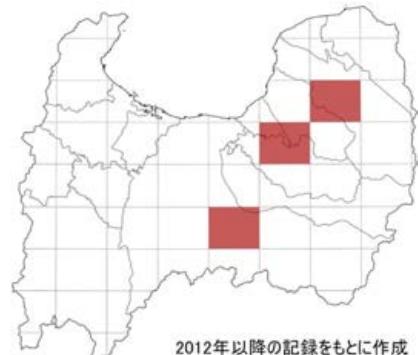
保全対策

採取の抑制、生育地の保護管理。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物、能登半島国定公園特別地域の指定植物、僧ヶ岳・五箇山・白木水無・医王山県立自然公園の指定植物。

(文責：孫田 佳奈)



ベニバナヤマシャクヤク (ボタン科) *Paeonia obovata* Maxim.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

生育地、個体数とも限られている。花が美しいために観賞用の山野草として採取され、個体数が減少している。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

魚津市南部、立山町中部、富山市南西部。

生態・生息環境

夏緑広葉樹林の林床などに生える多年草。花期は5月。

生存への脅威（減少の要因）

開発（特に森林伐採を伴うもの）、園芸採取。

保全対策

生育地の保護、乱獲の抑制。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

(文責：孫田 佳奈)



マルバネコノメソウ (ユキノシタ科) *Chrysosplenium ramosum* Maxim.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が局限され個体数も極めて少ない。生育環境が不安定で一部分は消滅しており、残存する生育地も容易に絶滅するおそれがある。

国内の分布状況

北海道、本州（近畿以北）。

県内の分布状況

南砺市。

生態・生息環境

山地の林縁、谷沿いなど湿った場所に生育する多年草。花期は5月。

生存への脅威（減少の要因）

豪雨などの自然災害、自然遷移

保全対策

生育環境の保全。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

(文責：石澤 岩央)



アオベンケイ (ベンケイソウ科) *Hylotelephium viride* (Makino) H.Ohba

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が2ヶ所しか知られておらず、個体数が著しく少ない。採取やわずかの環境変化で消滅するおそれがある。

国内の分布状況

本州（中部地方以西）、四国、九州。

県内の分布状況

富山市（南部）。文献では朝日町宮崎の海浜砂丘地から記録があるが、本種の生育地としては疑問がある。また、チツッパベンケイと誤認されている可能性がある。

生態・生息環境

山地の樹上・岩上に生える多肉の多年草。花期は9~10月。

生存への脅威（減少の要因）

開発（特に森林伐採を伴うもの）、園芸採取。

保全対策

自生地の保護、乱獲の抑制。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。朝日県立自然公園の指定植物（1990, 2012）とされているが、生育環境から疑問が残る。指定時、すでに「消滅したようだ」と書かれている。

(文責：中田 政司)



タチモ (アリノトウグサ科)
Myriophyllum ussuriense (Regel) Maxim.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

県内では生育地が数カ所に限られており、土地利用の変化、ため池の改修などによって容易に消滅するおそれがある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

射水市南部、南砺市北部。

生態・生息環境

ため池、湖沼などに生育する多年草。水位に合わせて抽水形～沈水形と形態を変化させる。花期は6～8月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、池沼開発、水質汚染、ため池の管理放棄。

保全対策

生育地の保全、ため池の水質・水量の維持。

(文責：川住 清貴)



モメンヅル (マメ科)
Astragalus reflexistipulus Miq.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

1990年代前半には県内の3カ所に生育していたが、その後の道路、ダム工事等により生育地はほぼ消滅した。他の地域からの記録も30年以上ないところから、県内では絶滅しているか、絶滅寸前の状態であると考えられる。

国内の分布状況

北海道、本州。

県内の分布状況

南砺市南東部、南西部。

生態・生息環境

山地の林縁で他の植物にもたれかかって伸びる多年草。花期は6～7月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、道路工事、ダム建設、自然遷移。

保全対策

生育環境の保全。

特記事項

五箇山・医王山県立自然公園の指定植物。

(文責：太田 道人)



タヌキマメ (マメ科) *Crotalaria sessiliflora* L.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が限定され、生育環境である堤防上の草地や河川敷においては外来植物が繁茂し、生育条件は著しく悪化している。

国内の分布状況

本州（東北地方南部以南）、四国、九州。

県内の分布状況

富山市北部、高岡市西部、砺波市北部。

生態・生息環境

平野部や丘陵地の日当たりのよい草地や路傍に生育する。花期は7～9月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、外来種との競合。

保全対策

生育地の保護、生育環境の保全。



(文責：鈴木 浩司)



イタチササゲ (マメ科) *Lathyrus davidii* Hance

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

1951年の標本記録以外に今日まで県内で確認されたことがない。もともと希少であったものが消滅した可能性があるが、記録のあった地域では現存する可能性も残る。

国内の分布状況

北海道、本州、九州。

県内の分布状況

南砺市南東部。

生態・生息環境

山地の日当たりのよい草地や林縁に生育するつる性の多年草。花期は7～8月。

生存への脅威（減少の要因）

草原の開発、植生遷移。

保全対策

生育地の保全。



(文責：長井 幸雄)



ヒロハクサフジ (マメ科) *Vicia japonica* A.Gray var. *japonica*

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

1980 年以前と考えられる文献記録以外に今日まで確認された記録がない。もともと希少であったものが消滅した可能性もあるが、記録のあった地域および海浜とその後背地などでは現存する可能性もある。

国内の分布状況

北海道、本州（近畿以北）。

県内の分布状況

富山市北西部（文献より）

生態・生息環境

海岸砂地の日当たりのよい草地に生育する多年草。花期は 6~9 月。

生存への脅威（減少の要因）

生育地の開発、砂浜への車両の侵入。

保全対策

生育地の保全。



(文責：長井 幸雄)

ヒナノカンザシ (ヒメハギ科) *Salomonia ciliata* (L.) DC.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地、個体数とも限られており、生育地となる湿地は開発、改修、遷移などによって環境が変わりやすい。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

射水市中南部。

生態・生息環境

日当たりのよい湿地に生育する一年草。花期は 8~9 月。

生存への脅威（減少の要因）

湿地の開発、ため池等の改修、植生遷移。

保全対策

生育地の保護。生育環境の保全。



撮影：石澤 岩央

(文責：鈴木 浩司)



トモエソウ (オトギリソウ科)

Hypericum ascyron L. subsp. *ascyon* var. *ascyon*

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類

環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

現存する生育地は 1 ケ所程度で、個体数は著しく少ない。山間地の草地の減少に加え、花が美しいために観賞用の山野草として採取されることも減少に拍車を掛けている。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

上市町北部、高岡市北部（絶滅）、南砺市西部（絶滅）。

生態・生息環境

山地のやや湿った草原に生える多年草。花期は 7~8 月。

生存への脅威（減少の要因）

園芸採取、道路工事。

保全対策

採取の抑制、生育地の保護管理。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

(文責：太田 道人)



アゼオトギリ (オトギリソウ科)

Hypericum oliganthum Franch. et Sav.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類

環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 IB 類

選定理由

1993 年以前の複数の文献記録に基づいて掲載。これ以降の生育情報が全くなく、既に絶滅している可能性が大である。

国内の分布状況

本州（関東地方以西）、四国、九州。

県内の分布状況

富山市北西部（1993 年）、射水市南部、南砺市西部（1964 年以前）

生態・生息環境

水田や湿地に生育する多年草。花期は夏～秋。

生存への脅威（減少の要因）

湿地開発、水田の乾田化、農薬汚染。

保全対策

開発の抑制、生育地の保護、生育環境の維持。



(文責：太田 道人)

イソスミレ (スミレ科) *Viola grayi* Franch. et Sav.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

生育地が限られ、個体数が極めて少ない。海岸侵食や護岸の整備などにより、砂浜上の個体数が減少した。絶滅する恐れがある。

国内の分布状況

北海道、本州（日本海側では石狩地方以南、太平洋側では日高地方）。日本国有種。

県内の分布状況

黒部市北部（朝日町北部、入善町北部、滑川市北部、富山市北部の海岸砂浜では絶滅した）。

生態・生息環境

砂浜と砂浜に隣接したクロマツ林内に生える多年草。花期は4~5月。砂浜ではほとんど見られなくなった。クロマツ林内にも生育しており、オオタチツボスミレと区別しにくくなっている個体もある。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、海岸の侵食、護岸の整備、海水浴場の整備、車の乗り入れ、園芸採取。

保全対策

生育地の保全、車の乗り入れ規制、採取の抑制。

(文責：東 義詔)



撮影：太田 道人



2012年以降の記録をもとに作成

アナマスミレ (スミレ科)

Viola mandshurica W.Becker f. *crassa* (Tatew.) F.Maek.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類

環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が限られ、個体数が極めて少ない。生育場所となる砂浜海岸の環境が不安定で、絶滅する恐れがある。

国内の分布状況

北海道・本州・九州の日本海側地域。中国地方と四国の瀬戸内側地域。

県内の分布状況

入善町北西部。

生態・生息環境

砂浜から海岸沿いに見られるスミレの海岸型。花期は4~5月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、生育地の開発、砂浜海岸の減少。

保全対策

生育地の保全。

(文責：東 義詔)



撮影：山下 寿之



2012年以降の記録をもとに作成

ノウルシ (トウダイグサ科) *Euphorbia adenochlora* C.Morren et Decne.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

生育地が限られ、個体数が極めて少ない。人為の影響を受けやすく、絶滅する恐れがある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

射水市北東部。

生態・生息環境

生育地は湿地に限られ、乾燥すると消失する。花期は4～5月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、生育地の開発、遷移進行。

保全対策

生育地の保全。



(文責：東 義詔)



2012年以降の記録をもとに作成

トウダイグサ (トウダイグサ科) *Euphorbia helioscopia* L.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

富山県植物誌（1983）では県内各地の産地が挙げられているが、県内産の標本はなく、1990年以降の目撃情報は2件のみと極端に少ない。うち1カ所の氷見市の生育地は2015年以降発生を見ていらない。畑地の環境や耕作体系の変化が原因とも思われるが詳細は不明。

国内の分布状況

本州、四国、九州、琉球。

県内の分布状況

黒部市（文献）、魚津市（文献）、富山市（文献、目撃）、射水市（文献）、氷見市（文献、目撃）。

生態・生息環境

人里付近の路傍や畑地にはえる越年草。春から夏にかけて開花結実する。

生存への脅威（減少の要因）

畑地環境・耕作体系の変化、過度の除草。

保全対策

畑地環境の維持、生育地の保全。



(文責：大原 隆明)

ミズキカシグサ (ミソハギ科) *Rotala rosea* (Poir.) C.D.K.Cook

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

1906 年に旧大沢野町で標本が採集されて以来、標本記録が全くなかった。2011 年に生育地が再発見されたがその後、圃場整備により消滅した。ただし、近隣の水田には埋土種子として休眠している可能性がある。

国内の分布状況

本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

富山市浜黒崎、旧大沢野町（1906 年）

生態・生息環境

低地の湿地や水田に生育する一年草。花期は 8 月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、耕作放棄、水田の乾田化、除草剤の使用。

保全対策

生育地の保全（耕作継続が望まれる）、除草剤使用の抑制。

特記事項

ヒメミソハギを本種と誤認していることもある。

（文責：川住 清貴）



撮影：川住 清貴



ヒメビシ (ミソハギ科) *Trapa incisa* Siebold et Zucc.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

生育地が 1 ヶ所に限られている。生育地は人工のため池であり、管理変更によっては容易に絶滅するおそれがある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市、射水市（絶滅か）、氷見市東部（絶滅）。

生態・生息環境

池や沼に生育する一年草。6 月頃から葉を水面に浮かせはじめ、水面を覆うように広がる。9~10 月には葉は枯れて水中に実った果実とともに沈む。

生存への脅威（減少の要因）

池沼開発、ため池の管理変更、産地局限。

保全対策

生育地の確保と保護管理。

（文責：太田 道人）



収蔵：富山県中央植物園



ホザキヤドリギ (オオバヤドリギ科) *Loranthus tanakae* Franch. et Sav.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

現在生育が確認されている自生地が 1ヶ所で、数個体が 1本の樹木に寄生しており、雪崩など自然災害による倒木により容易に絶滅するおそれがある。ただ、夏期に確認が難しい種であり未知の生育地がある可能性もある。

国内の分布状況

本州（近畿北部以東）

県内の分布状況

富山市、南砺市。

生態・生息環境

ミズナラ、クリ、ハンノキ、シナノキなど落葉広葉樹に寄生する落葉低木。花期は 6~7月。晩秋～冬には落葉した枝に穂状の黄色い果実が目立つ。

生存への脅威（減少の要因）

自然遷移、自然災害、道路工事。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

(文責：石澤 岩央)



クリンユキフデ (タデ科) *Bistorta suffulta* (Maxim.) H.Gross

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内の生育地は 2ヶ所しか確認されておらず、個体数もやや少ない。生育地の整備や周辺の森林開発により消滅するおそれがある。

国内の分布状況

本州、四国、九州の山地。

県内の分布状況

魚津市南東部、富山市南西部。

生態・生息環境

山地の林内～林縁に生える多年草で、花期は 5~7月。

生存への脅威（減少の要因）

開発（特に森林伐採を伴うもの）、園芸採取。

保全対策

生育地の保護、乱獲の抑制。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物、僧ヶ岳・白木水無県立自然公園の指定植物。

(文責：石須 秀知)



ヒメタデ (タデ科) *Persicaria erectominor* (Makino) Nakai

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

既知産地は 1 ヶ所のため池のみで、改修等、大きく環境が変化すれば消失する可能性がある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

高岡市北部。

生態・生息環境

水湿地に生育する一年草。水位が下がって一時的に露出する泥土に出現する。花期は 5~10 月。

生存への脅威（減少の要因）

湿地開発、生育地の池の改修、遷移進行。

保全対策

生育環境の維持。



(文責：石須 秀知)



ヤナギヌカボ (タデ科) *Persicaria foliosa* (H.Lindb.) Kitag. var. *paludicola* (Makino) H.Hara

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

生育地、個体数ともに極めて少ない。生育地が水田、休耕田、ため池などのため人為的な影響を受けやすく絶滅のおそれが多い。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

高岡市北部、砺波市東部。

生態・生息環境

水湿地に生育する一年草。花期は 9~10 月。

生存への脅威（減少の要因）

土地開発、土地改修、除草剤散布、植生遷移。

保全対策

生育地の保全、除草剤散布の抑制。



(文責：長井 幸雄)



トウカイコモウセンゴケ (モウセンゴケ科) *Drosera tokaiensis* (Komiya et C.Shibata) T.Nakam. et K.Ueda subsp. *tokaiensis*

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が 1 地域に限定されている。かつては大群落があったが開発により絶滅し、周囲に残されていたわずかな自生地も近年生育が確認されてない。食虫植物マニアによる採取の恐れがある。

国内の分布状況

本州（東海地方から中国地方東部の主に太平洋側）、四国。

県内の分布状況

射水市（南部）。

生態・生息環境

日当たりの良い、湿った古い道路法面や、ため池のふちに生える多年草、食虫植物。花期は 6~9 月。

生存への脅威（減少の要因）

開発（道路拡幅、池沼開発）、遷移進行、園芸採取。

保全対策

生育地の保護、乱獲の抑制。

(文責：中田 政司)



カンチヤチハコベ (ナデシコ科) *Stellaria calycantha* (Ledeb.) Bong.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 IA 類

選定理由

生育地が 1 カ所しか確認されておらず、個体数も極めて少ない。本種の国内生育地の西限に近い。

国内の分布状況

北海道（大雪山系、日高山系）、本州（北アルプス、南アルプス）。

県内の分布状況

富山市南東部（北アルプス南部）。

生態・生息環境

亞高山帯の水湿地に生育する多年草。花期は 7~8 月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、登山者による踏みつけ。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

(文責：太田 道人)



ハマアカザ (ヒュ科) *Atriplex subcordata* Kitag.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

海岸侵食で生育地が後退しているほか、外来種のホコガタアカザ *Atriplex prostrata* Boucher ex DC. との交雑が進みまたはこれと置き換わっている生育地が多い。近年の確実な生育確認がなく絶滅に瀕している。

国内の分布状況

北海道、本州。

県内の分布状況

黒部市、魚津市、富山市(文献)、高岡(目撃)、氷見市(文献・写真)。

生態・生息環境

砂浜海岸や岩石海岸に生育する一年草。花期は8~10月。

生存への脅威（減少の要因）

海岸侵食による生育地の後退、外来種との競合。

保全対策

残存生育地の管理保全。



(文責：石澤 岩央)

クサレダマ (サクラソウ科)

Lysimachia vulgaris L. subsp. *davurica* (Ledeb.) Tatew.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類

環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が限られ、個体数が極めて少ない。生育地が開発され、絶滅する恐れがある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市南部、南砺市南東部、氷見市南部。

生態・生息環境

日当たりの湿地に生育する多年草。地下茎で殖え、しばしば群生する。花期は7~8月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、放棄田の植生遷移、湿地開発。

保全対策

生育地の保全。



撮影：太田 道人（長野県にて）



(文責：東 義詔)

エゾイチヤクソウ (ツツジ科) *Pyrola minor* L.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 IB 類

選定理由

生育地が 1 カ所しかなく、個体数も著しく少ない。現存個体群の衰退も続いている。国内分布の西限にあたる。

国内の分布状況

北海道、本州（福島県、新潟県、富山県）。

県内の分布状況

立山町東部（立山弥陀ヶ原）

生態・生息環境

亜高山帯の低木林下または林縁草地に生育する多年草。

生存への脅威（減少の要因）

産地極限、盗掘、歩道整備、自然遷移。

保全対策

生育環境の保全、種子散布源となっている集団の特定とその生育環境の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

文献

206)

(文責：太田 道人)



撮影：太田 道人



2012年以降の記録をもとに作成

シャシャンボ (ツツジ科) *Vaccinium bracteatum* Thunb.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

1947 年以降の記録がなく 2012 年版では絶滅とされたが、その後 1990 年代に採集された標本が確認されたため、現存する可能性が高い。しかし、分布の北限に近く、生育地、個体数ともに少なく存続基盤は極めて脆弱であると考えられる。

国内の分布状況

本州（中南部、石川県が北限）、四国、九州、琉球。

県内の分布状況

氷見市。

生態・生息環境

丘陵地の尾根筋等の乾燥気味の林内および林縁部に生育する。花期は 5~7 月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限。

保全対策

生育環境の保存、生育地の保護。

(文責：大原 隆明)



撮影：石須 秀知（愛知県にて）



2012年以降の記録なし

チョウジソウ (キヨウチクトウ科) *Amsonia elliptica* (Thunb.) Roem. et Schult.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

1966 年に標本が採集されて以来、県内の生育記録はなかったが、2019 年に自生地が 1 カ所再発見された。自生地はダム工事の影響を受ける場所であったため、一時的に全株を移植し生息域外保全が図られている。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

南砺市。

生態・生息環境

山地の林床、水辺の湿った草地などに生える多年草。花期は 5~6 月。

生存への脅威（減少の要因）

森林、湿地における工事、開発。園芸採取。

保全対策

生育地の保護、野生復帰のための生息域外保全。乱獲の抑制。

(文責：中田 政司)



撮影：中田 政司



2012年以降の記録をもとに作成

ツルガシワ (キヨウチクトウ科)

Vincetoxicum macrophyllum Siebold et Zucc. var. *nikoense* Maxim.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類

環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

富山県は日本海側での分布北限にあたる。県内の生育地は南砺市の 4 カ所に限定されており、個体数も著しく少ない。また、近年の確実な生育情報が得られておらず、危機的な状況にある可能性が高い。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

南砺市。

生態・生息環境

山地の陰地の林縁に下垂して生育している。県内の群落では結実は確認されていない。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、道路工事、園芸目的の採取。

保全対策

生育地の保護、採取の抑制。



撮影：太田 道人



(文責：大原 隆明)

ビロードトラノオ (オオバコ科)

Veronica ovata Nakai subsp. *miyabei* (Nakai et Honda) Albach var. *villosa* (Furumi) Albach

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類

環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が極めて限られており個体数も著しく少ない。花が美しいために山野草として採取されるおそれがある。近年の生育情報が得られていないことから絶滅が懸念される。

国内の分布状況

本州（富山県・山形県）。

県内の分布状況

富山市南部。

生態・生息環境

山地の岩の多い斜面に生育する多年草。花期は8～9月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、園芸採取。

保全対策

生育地の保全、採取の規制。



(文責：鈴木 浩司)



ノタヌキモ (タヌキモ科)

Utricularia aurea Lour.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類

環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

2011年まで文献記録のみであったが、県内の生育が確認された。生育地の環境変化によって、絶滅する恐れがある。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

射水市中南部。

生態・生息環境

ため池や湖沼に生育する多年生の浮遊植物。花期は8～10月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、生育地の開発、水質汚染、水位変動、園芸採取。

保全対策

生育地の保全、ため池の水質・水量の維持。

特記事項

能登半島国定公園特別地域の指定植物。



撮影：太原 隆明

(文責：東 義詔、川住 清貴)



2012年以降の記録をもとに作成

ミミカキグサ (タヌキモ科) *Utricularia bifida* L.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では産地、個体数が限られていたのに加え、樹木による被陰や湿原への立入りによる生育環境の悪化、湿地の開発により減少しつつある。また、食虫植物であり、花も美しいため、園芸用の採取も関係している。

国内の分布状況

本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

上市町南西部（文献）、富山市中部、射水市南部（文献）。

生態・生息環境

湿地の泥やミズゴケ上に生育する多年草。花期は8~10月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、樹木による被陰、湿原への立入り、湿原の開発、園芸採取。

保全対策

生育地の保全、樹木の刈り払いや立ち入り規制による湿原の保全、園芸用採取の抑制。

特記事項

能登半島国定公園特別地域内指定植物。

(文責：川住 清貴)



撮影：若杉 美仁



ホザキノミミカキグサ (タヌキモ科) *Utricularia caerulea* L.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

もともと県内の産地や個体数が限られているが、開発によって湿地が減少し、また樹木による被陰や湿原への立入りにより生育環境が悪化している。食虫植物であり、花も美しいため、園芸目的で採取されている。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

朝日町中部、富山市南部。

生態・生息環境

湿った土やミズゴケに生える多年草。花期は6~10月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、樹木による被陰、湿原への立入り、湿原の開発、園芸採取。

保全対策

生育地の保護、樹木の刈り払いや立ち入り規制による湿原の保全、採取の抑制。

特記事項

能登半島国定公園特別地域の指定植物。

(文責：孫田 佳奈)



撮影：石澤 岩央



ムラサキミミカキグサ (タヌキモ科) *Utricularia uliginosa* Vahl

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

もともと県内では産地や個体数が限られているのに加え、樹木による被陰や湿原への立入りによる生育環境の悪化、湿地の開発により減少しつつある。また、食虫植物であり、花も美しいために園芸用の採取も行われる。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町北西部（文献）、黒部市西部（文献）、富山市中～南部、射水市南部（文献）、小矢部市東部。

生態・生息環境

湿地の泥やミズゴケ上に生育する多年草。花期は8～9月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、樹木による被陰、湿地への立入り、湿地の開発、園芸採取。

保全対策

生育地の保全、樹木の刈り払いや立ち入り規制による湿地の保全、採取の抑制。

特記事項

能登半島国定公園特別地域内指定植物。

(文責：川住 清貴)



ミズネコノオ (シソ科) *Pogostemon stellatus* (Lour.) Kuntze

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

生育地が限られ、個体数も少ない。水田の乾田化や除草剤の使用により生育環境が減少しているため、絶滅が懸念される。

国内の分布状況

本州、四国、九州、奄美。

県内の分布状況

富山市北東部。

生態・生息環境

低地の湿地や水田に生育する一年草。花期は8～10月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、湿地開発、水田の乾田化、除草剤の使用。

保全対策

生育地の保全、除草剤使用の抑制。

特記事項

水田を深耕することで埋土種子が発芽することもある。

(文責：川住 清貴)



ミゾコウジュ (シソ科) *Salvia plebeia* R.Br.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

生育地が極めて限られている。現在確実な生育地が確認されておらず、絶滅の危機に瀕している。

国内の分布状況

本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

射水市、南砺市(一部目撃)。

生態・生息環境

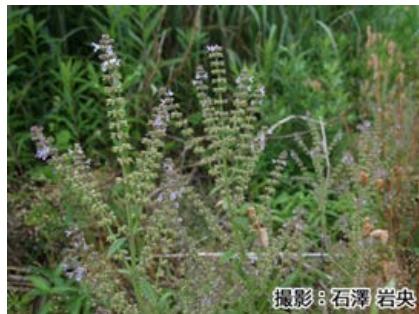
やや湿った道ばたや水田の畦に生える越年草。花期は5~6月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、路傍の整備、湿地開発・乾燥化。

保全対策

生育地の保護。



(文責：石澤 岩央)



ティネニガクサ (シソ科) *Teucrium teinense* Kudô

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

生育地が1カ所のみで個体数もわずかあり、採取や工事・災害などの環境変化で容易に絶滅するおそれがある。

国内の分布状況

北海道、本州（兵庫県氷ノ山以北）。

県内の分布状況

富山市。

生態・生息環境

山地落葉樹林下・林縁に生育する多年草で、匍匐する地下茎を伸ばす。花期は7~9月。

生存への脅威（減少の要因）

道路工事、自然災害、園芸採取。

保全対策

生育地の保全、採取の抑制。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



(文責：石澤 岩央)

カリガネソウ (シソ科) *Tripora divaricata* (Maxim.) P.D.Cantino

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

1927 年に黒部峡谷で採集された標本があるだけで、その後の生育情報が全くない。既に絶滅しているおそれがある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。広く分布するが、生育地は限られている。

県内の分布状況

黒部市南部（黒部峡谷）

生態・生息環境

山地の林縁や日当たりの良い土砂堆積地などに生える多年草。花期は 8 月頃で独特の匂いを放つ。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、道路改良工事。

保全対策

発見された場合には、生育地の保全。



(文責：太田 道人)



オニク (ハマウツボ科) *Boschniakia rossica* (Cham. et Schleld.) B.Fedtsch.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が限られ、個体数が極めて少ない。採取の対象となりやすく、絶滅する恐れがある。

国内の分布状況

北海道、本州（中部以北）。

県内の分布状況

朝日町南部、黒部市南東部、立山町東部、富山市南部・南西部。

生態・生息環境

亜高山、高山のミヤマハンノキの根に寄生する植物。花期は 7~8 月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、薬草採取。

保全対策

ミヤマハンノキ林の保全、採取の抑制。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物、朝日・有峰・白木水無県立自然公園の指定植物。

(文責：東 義詔)



収蔵：富山市科学博物館



キキョウ (キキョウ科) *Platycodon grandiflorus* (Jacq.) A.DC.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

かつては丘陵地の草地に広く分布していたが、花が美しいため観賞用の山野草として乱獲されたり、開発により生育条件が悪化したりして、個体数の減少が極めて著しく、県下全域で消滅の危機にさらされている。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州、奄美。

県内の分布状況

入善町南部、黒部市北西部、上市町南部、富山市南西部、射水市南部、高岡市北部、砺波市東部、南砺市北西部。

生態・生息環境

丘陵地の草地・林縁に生育する多年草。花期は7~8月。

生存への脅威（減少の要因）

草地開発、園芸採取、里山の管理放棄と二次遷移。

保全対策

丘陵地の保全、採取の抑制。

特記事項

中部山岳国立公園・能登半島国定公園特別地域内指定植物。

(文責：孫田 佳奈)



撮影：太田 道人



ガガブタ (ミツガシワ科) *Nymphoides indica* (L.) Kuntze

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

かつては黒部市、氷見市などに広く分布していたが、絶滅したと思われていた。2003年に再発見されたが、生育地が極めて限定されている。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市北部(絶滅)、射水町南部、氷見市南東・南部。

生態・生息環境

池沼やため池などに生育する多年生の浮葉植物。花期は7~9月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、池沼開発、水質汚染、ため池の管理放棄。

保全対策

生育地の保全、ため池の水質・水量の維持。

(文責：川住 清貴)



撮影：鈴木 浩司



アサザ (ミツガシワ科)
Nymphoides peltata (S.G.Gmel.) Kuntze

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

水深の浅い岸辺を持つ湿地がほとんど残されていないため、個体数が著しく減少しており、信頼できる自生地は 1 カ所しかなく、個体数も少ない。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市（北部）、氷見市北部。

生態・生息環境

丘陵地および低地の池沼の岸辺。花期は 6 月。

生存への脅威（減少の要因）

湿地開発、水田の乾田化。

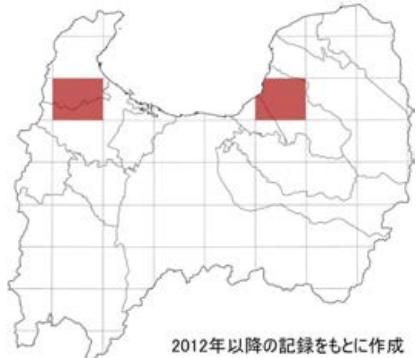
保全対策

生育環境の保護管理。生息域外保全。



撮影：中田 政司

(文責：中田 政司)



2012年以降の記録をもとに作成

オゼミズギク (キク科)
Inula ciliaris (Miq.) Maxim. var. *glandulosa* Kitam.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が 1 カ所に限られており、近年この生育地の環境変化で個体数が大幅に減少した。分布の西限である。

地域特有の形態

母種ミズギクの変種で、茎の中部以上の葉の裏に腺点が多いもの。本県のものは、これに加え、茎葉、茎、総苞に下部の膨れた長毛を密生し、葉裏の腺には短柄のあるものも交ざることで、オクノミズギク var. *pubescens* Sugim. (分布：青森県、岩手県、尾瀬) にも近い。今後検討を要する。

国内の分布状況

本州（中部以北の冷温帯）。

県内の分布状況

富山市南東部。

生態・生息環境

亜高山帯下部の湿地に生育する多年草。花期は 6~9 月。

生存への脅威（減少の要因）

ダム湖の水位上昇、開発（特に湿地開発を伴うもの）、園芸採取、植生遷移。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

有峰県立自然公園の指定植物。



撮影：太田 道人

(文責：太田 道人)



2012年以降の記録なし

ミヤコアザミ (キク科) *Saussurea maximowiczii* Herder

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が限られ、個体数も少ない。生育環境が植生遷移により悪化しつつあり、絶滅の危機に瀕している。

国内の分布状況

本州（岩手県以南）、四国、九州。

県内の分布状況

富山市西部、射水市南部、南砺市南部、小矢部市西部。

生態・生息環境

山地の湿原や落葉広葉樹林の林縁に生育する多年草。花期は9～10月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、湿地の植生遷移。

保全対策

生育地の保全。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



撮影：早瀬 裕也



ホタルサイコ (セリ科)

Bupleurum longiradiatum Turcz. var. *elatius* (Koso-Pol.) Kitag.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類

環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が極めて少なく個体数も限られる。観賞用の山野草として採取されて個体数が減少している。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市南東部、富山市南部、南砺市南東部。

生態・生息環境

山地の日当たりのよい草地や林縁に生育する多年草。花期は7～9月。

生存への脅威（減少の要因）

森林伐採、園芸採取。

保全対策

生育地の保全、乱獲の抑制。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



撮影：大原 隆明



(文責：長井 幸雄)

ミズスキ (ヒカゲノカズラ科) *Lycopodiella cernua* (L.) Pic.Serm.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では生育地が極めて限定され、丘陵地帯の開発などによる生育地の消失や個体数が減少する可能性がある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

魚津市中部、上市町北部、富山市西部、射水市南部、高岡市北部、氷見市南部、砺波市東部、南砺市西部。

生態・生息環境

暖地の陽湿地に生育する常緑性のシダ植物。県内では水がしみ出る日当たりのよい土質の崖などに生育。

生存への脅威（減少の要因）

開発（特に丘陵地帯で湿地の改変を伴うもの）、道路整備等による法面の改変、遷移進行。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



撮影：石須秀知

(文責：石須秀知)

ヤシャゼンマイ (ゼンマイ科) *Osmunda lancea* Thunb.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が1水系の一部に限られており、生育個体数は近年著しく少なくなっている。葉が美しいため観賞用に採取される。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市南部。

生態・生息環境

出水時に冠水する峡谷の崖や岩地に生育するシダ植物。胞子葉は4月に伸びる。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、冠水頻度の減少、園芸採取。

保全対策

生育地の保護管理。



撮影：富山市科学博物館

(文責：太田道人)

ウチワゴケ (コケシノブ科) *Crepidomanes minutum* (Blume) K.Iwats.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では生育地が極めて限定されている。この10年で絶滅した産地や現状不明の産地があるほか、現存を確認している生育地でも状態が悪く個体数は著しく少なく、絶滅のおそれがある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

富山市(一部文献)、氷見市(一部絶滅)。

生態・生息環境

暖帯～温帯下部に多く、しばしば岩上や樹幹上に群落をつくる、常緑性のシダ植物。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限。乾燥、崩落。

保全対策

生育地の保護。



撮影：水上令子

(文責：石澤岩央)

オオアカウキクサ (サンショウモ科) *Azolla japonica* (Franch. et Sav.) Franch. et Sav. ex Nakai

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 II 類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 IB 類

選定理由

生育地の乾田化等により生育条件が後退し、個体数が減少している。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

魚津市、富山市、射水市、高岡市、氷見市。

生態・生息環境

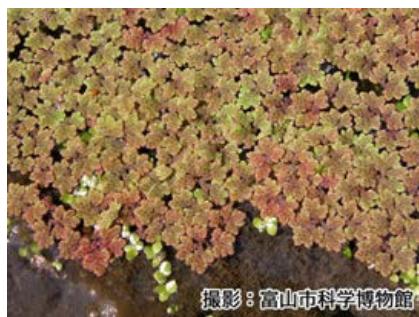
水田や水路、溝などに生育する多年生の浮葉植物で 5~7 月に胞子嚢(ほうしのう)を形成する。

生存への脅威（減少の要因）

土地開発、水田の乾田化。

保全対策

生育地の保護。



撮影：富山市科学博物館

(文責：中田 政司)

オオフジシダ (コバノイシカグマ科) *Monachosorum nipponicum* Makino

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 II 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内で確認されている生育地は 1 ヶ所のみで、生育個体数も極めて限られている。開発や踏みつけにより生育条件が悪化する危険がある。本県は北限(新潟県付近)に近く、また周辺の県でも生育地は少なく分布が不連続。葉先に子株を作り栄養繁殖するため、孤立した生育地では遺伝的多様性が低い可能性がある。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

魚津市南部。

生態・生息環境

山地林床の湿度の高い岩陰などに生育する常緑性シダ。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、開発（特に森林伐採を伴うもの）、踏みつけ。

保全対策

生育地の保護。



撮影：石須秀知

(文責：石須 秀知)

ハコネシダ (イノモトソウ科) *Adiantum monochlamys* D.C.Eaton

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 II 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が極めて限定されている。生育地が消滅または災害対応中であるなど、確認できる個体数は著しく少なくなっています、絶滅のおそれがある。

国内の分布状況

本州（太平洋側に多い）、四国、九州（最南端を除く）。

県内の分布状況

上市町、立山町、富山市（絶滅）。

生態・生息環境

やや乾いた林中の岩上や河川上流岸のやや乾いた岩などに生育する、常緑性のシダ植物。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、災害による崩落、園芸採取。

保全対策

生育地の保護、採取の抑制。



撮影：石須秀知

(文責：石澤 岩央)

ヤマヒメワラビ (ナヨシダ科) *Cystopteris sudetica* A.Braun et Milde

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が極めて限定されており個体数も少ない。生育地の環境変化により絶滅するおそれがある。長期間にわたり生育確認がないが奥深い国立公園内の高山帯にあることを考慮した。

国内の分布状況

本州（中央部）。

県内の分布状況

富山市。

生態・生息環境

亜高山のやや湿った林床、高山の湿った岩上や砂礫草地などに生育する、夏緑性のシダ植物。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、乾燥または豪雨による生育地の環境変化。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

(文責：石澤 岩央)

イワヤシダ (イワヤシダ科) *Diplaziopsis cavaleriana* (Christ) C.Chr.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

現存する生育地、個体数とも極めて限られており、自然遷移や山林の放置などの環境変化により絶滅するおそれがある。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市(絶滅)、上市町、立山町、富山市。

生態・生息環境

山地のやや陰湿な林下に生育する、夏緑性のシダ植物。

生存への脅威（減少の要因）

自然遷移、山林の放置、自然災害。

保全対策

生育地の保護。



(文責：石澤 岩央)

サキモリイヌワラビ (メシダ科) *Athyrium oblitescens* Sa.Kurata

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地、個体数ともに極めて少ない。近年確実な生育が確認されておらず、絶滅のおそれがある。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

高岡市(写真)、氷見市。

生態・生息環境

山地のやや明るい林床に生育する、常緑性のシダ植物。

生存への脅威（減少の要因）

自然災害、自然遷移。

保全対策

生育地の保護管理。



(文責：石澤 岩央)

ミヤマノコギリシダ (メシダ科) *Diplazium mettenianum* (Miq.) C.Chr.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が極めて限定され、生育面積も著しく小さい。生育地は、除草等の人為が加わる神社林等であるため、本種の生存は管理環境に左右されている。富山県は本種の分布の北限に近い。

国内の分布状況

本州（新潟県・伊豆半島以西）、四国、九州、琉球列島。

県内の分布状況

砺波市東部、富山市南部。

生態・生息環境

丘陵地の常緑樹林内に生える常緑性のシダ。地下茎と胞子で増える。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限。神社林等の管理方法が変更された場合には減少する可能性がある。

保全対策

地域住民と連携した生育環境の確保と保護管理。



撮影：太田道人

（文責：太田道人）

ヒメノキシノブ (ウラボシ科) *Lepisorus onoei* (Franch. et Sav.) Ching

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地、個体数ともに極めて少ない。近年確認できたものは岩に着生しており、この岩の崩落等により絶滅するおそれがある。

国内の分布状況

北海道（南部）、本州、四国、九州。

県内の分布状況

立山町、富山市（文献）、氷見市。

生態・生息環境

温帯の樹幹や岩のコケ上に着生する、常緑性のシダ植物。

生存への脅威（減少の要因）

着生している岩や樹木の生育環境の乾燥、崩落。

保全対策

生育地の保護管理。



撮影：太田道人（富山県にて）

（文責：石澤岩央）

イワオモダカ (ウラボシ科) *Pyrrosia hastata* (Houtt.) Ching

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が極めて限定されており、個体数も少ない。環境変化で容易に消滅するおそれがある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

立山町南東部、富山市南部、南砺市南部。

生態・生息環境

深山のやや陰地の岩上や樹木に着生する常緑性のシダ植物。葉は乾燥するところから内側に巻き込む。繁殖は根茎と胞子による。

生存への脅威（減少の要因）

園芸採取。

保全対策

生育地の保全、採取の抑制。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物、五箇山・白木水無県立自然公園の指定植物。



撮影：太田道人

（文責：長井幸雄）

ヒツジグサ (スイレン科) *Nymphaea tetragona* Georgi

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地がため池などに限られ、人為の影響を受けやすく、ため池の改修などで生育地が減少している。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

上市町、富山市、高岡市、南砺市、氷見市。

生態・生息環境

池や沼に生育する多年草。

生存への脅威（減少の要因）

ため池の管理、管理放棄、水質汚染、鯉などの飼育。

保全対策

ため池の水位、水質の維持。鯉などをため池に放さない。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



撮影：中田 政司

(文責：中田 政司)

ハンゲショウ (ドクダミ科) *Saururus chinensis* (Lour.) Baill

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では生育地が少なくかつ極めて限定されているにもかかわらず、河川改修や湿地の乾燥化等により減少しつつある。

国内の分布状況

本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

富山市中部、高岡市北部、氷見市南部。

生態・生息環境

小川、水溝、湿地に生育する多年草。花期は6~8月。

生存への脅威（減少の要因）

小川や水溝、ため池の整備改修による生育地の減少、湿地などの管理放棄。

保全対策

生育地の保護。



撮影：加藤 治好

(文責：早瀬 裕也)

マルバウマノスズクサ (ウマノスズクサ科) *Aristolochia contorta* Bunge

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧II類

選定理由

既知産地は1箇所のみであるが、近年の情報がなく現状不明。

国内の分布状況

本州（山形県～島根県の日本海側）。

県内の分布状況

上市町中南部。

生態・生息環境

林縁や道路脇などに出現する多年生のつる植物で、花期は7~8月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

(文責：早瀬 裕也)

アギナシ (オモダカ科) *Sagittaria aginashi* Makino

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

かつて水田雑草として広く分布していたが、水田圃場整備や除草剤散布により生育地と個体数が激減した。また池沼の整備によって生育条件が悪化している。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町南部（絶滅か）、入善町西部（絶滅か）、黒部市中部、魚津市東部、富山市北西部、射水市南部（絶滅か）、氷見市南部、南砺市。

生態・生息環境

ため池の上流側の緩流地や池沼の浅い泥地などに生える多年生の抽水植物。花期は8~9月。秋に水面下の葉柄基部の内側に多数の球芽をつける。

生存への脅威（減少の要因）

ため池・水田圃場の整備、除草剤散布、湿地開発。

保全対策

湿地の保護。



撮影：太田 道人

(文責：太田 道人)

ヤマトウミヒルモ (トチカガミ科) *Halophila nipponica* J.Kuo

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

富山湾沿岸の生育地が限られている。生育に適した波浪の穏やかな環境が減少している。これまで県内でウミヒルモ *Halophila ovalis* (R.Br.) Hook.f. とされていた植物は、ヤマトウミヒルモである。本種を含む海草（ウミクサ）は、陸生植物に比べて、その生育状態の確認が困難である。

国内の分布状況

本州（陸奥湾以南）、四国、九州。

県内の分布状況

魚津市北西部、氷見市東部。

生態・生息環境

水深0.5~23mの砂地や泥地に生育する。

生存への脅威（減少の要因）

護岸の整備、浅海域の埋め立て、海水の汚濁、海底の汚染。

保全対策

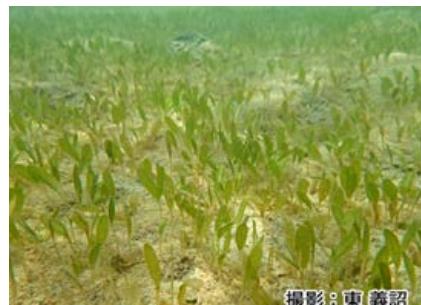
生育地の保全。

特記事項

Kuo, Jら (2006) が新種として記載した。

文献

60), 73), 74)



撮影：東 義詔

(文責：東 義詔)

クロモ（二倍体） (トチカガミ科) *Hydrilla verticillata* (L.f.) Royle

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

三倍体は県西部各地の河川、用水路、ため池に普通に分布するが、二倍体は魚津市のため池に生育が限られている。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

[二倍体] 魚津市（南部）。

[三倍体] 滑川市、富山市、射水市、高岡市、氷見市、小矢部市。

生態・生息環境

河川や池に生育する沈水植物。花期は8~10月で、秋に越冬芽をつくり、水底で冬を越す多年草である。雌雄異株と雌雄同株の系統がある。三倍体が流れのある水路にも生育するのに対し、二倍体はため池にのみ見られる。

生存への脅威（減少の要因）

ため池の管理。外来水草のオオカナダモ、コカナダモの繁茂により生育環境が奪われるおそれがある。

保全対策

ため池の水の維持、外来水草の侵入防止。



撮影：石須秀知

(文責：中田 政司)

イトモ (ヒルムシロ科) *Potamogeton berchtoldii* Fieber

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

文献、標本でホソバミズヒキモと混同されていることが多く、確実な自生地は県西部のため池数ヶ所に限定されている。

国内の分布状況

日本各地に分布するが、西日本には少ない。

県内の分布状況

富山市、射水市、砺波市、高岡市、南砺市、小矢部市、氷見市。

生態・生息環境

池沼、ため池、用水路などに生育する沈水生の多年草。秋には枝の先端に越冬芽（殖芽（しょくが））を形成する。

生存への脅威（減少の要因）

池沼開発、水質汚濁、ため池の管理。

保全対策

生育地であるため池の保護と水質・水量の維持。



撮影：中田 政司

(文責：中田 政司)

センニンモ (ヒルムシロ科) *Potamogeton maackianus* A.Benn.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

今まで唯一知られていた自生地の水路では絶滅し、下流での切れ藻繁殖も確認できていない。現在生息域外保全されている射水市鴨川系統が採集された場所では、その後再発見されていない。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

氷見市（絶滅）、黒部市（北部）、射水市（西部）。

生態・生息環境

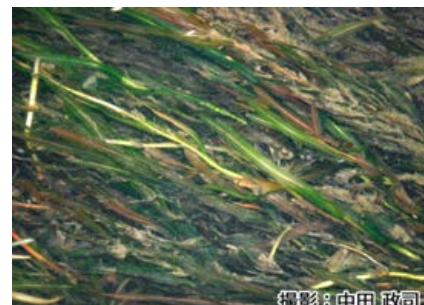
池沼や河川に生育する沈水性の多年草。花期は7~8月。

生存への脅威（減少の要因）

水路の改修、水位低下、水質汚染。外来水草との生育地競合。

保全対策

水路の水環境の維持（再発見された場合）、生息域外保全。



撮影：中田 政司

(文責：中田 政司)

アマナ (ユリ科) *Amana edulis* (Miq.) Honda

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が限られており個体数も少ない。里地・里山が利用されなくなったことにより遷移が進行し生育地が減少しており、絶滅するおそれがある。

国内の分布状況

本州（東北中部以南）、四国、九州。

県内の分布状況

富山市（一部絶滅）、高岡市（写真）、氷見市（一部絶滅）。

生態・生息環境

草地の日当たりの良いところに生育する多年草。花期は3~4月。

生存への脅威（減少の要因）

田畠・里山放棄、草地開発、園芸採取。

保全対策

田畠等の放置防止、生育環境の保護管理、採取の抑制。



撮影：太田道人

（文責：石澤 岩央）

キンセイラン (ラン科) *Calanthe nipponica* Makino

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧II類

選定理由

生育地が極めて限られ個体数も著しく少ない。自然災害や園芸目的の採取などにより絶滅するおそれがある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

魚津市、立山町、富山市（目撃）、南砺市（目撃）。

生態・生息環境

深い山地の林床などに生育する多年草。花期は7月。

生存への脅威（減少の要因）

自然災害（土砂崩れ等）、開発（特に森林伐採を伴うもの）、園芸採取。

保全対策

生育地の保護、採取の抑制。



撮影：石須秀知

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物、朝日・僧ヶ岳県立自然公園の指定植物。

（文責：石澤 岩央）

キンラン (ラン科) *Cephalanthera falcata* (Thunb.) Blume

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧II類

選定理由

全生育地で生育個体数が限られている。花が美しいために観賞用の山野草として採取され、個体数が減少している。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町、入善町、黒部市、魚津市、滑川市、上市町、富山市、射水市、高岡市、氷見市、小矢部市、砺波市、南砺市。

生態・生息環境

山地の落葉樹林内に生える多年草。花期は4~6月。

生存への脅威（減少の要因）

園芸採取、生育地の開発、管理放棄による遷移進行。

保全対策

生育地の保護管理、乱獲の抑制。



撮影：太田道人

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物、能登半島国定公園特別地域の指定植物、朝日・僧ヶ岳・医王山県立自然公園の指定植物。

（文責：石須秀知）

ユウシュンラン (ラン科) *Cephalanthera subaphylla* Miyabe et Kudô

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧II類

選定理由

生育地が極めて限られており個体数も限られている。園芸採取、道路管理の改変、自然遷移により絶滅するおそれがある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

魚津市、富山市(写真、目撃)、南砺市(文献)。

生態・生息環境

山地のやや湿った林内・林縁、道路沿いの腐葉土に生える多年草。花期は5~6月。

生存への脅威（減少の要因）

園芸採取、道路工事、自然遷移。

保全対策

採取の抑制、生育環境の保護管理。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



撮影：石澤 岩央

(文責：石澤 岩央)

クマガイソウ (ラン科) *Cypripedium japonicum* Thunb.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧II類

選定理由

花が美しいために観賞用の山野草として採取され、個体数が減少している。全生育地で生育個体数が限られている。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町南部、黒部市中部、魚津市南部、上市町東部、立山町東部、富山市南部、南砺市中部。

生態・生息環境

丘陵や山地のスギ林の林床に生育する多年草。花期は4~5月。

生存への脅威（減少の要因）

園芸採取、土地開発。

保全対策

生育地の保護、生育環境の保全。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物、能登半島国定公園特別地域の指定植物、朝日・僧ヶ岳・有峰・五箇山・白木水無・医王山県立自然公園の指定植物。



撮影：大田 道人

(文責：鈴木 浩司)

アオチドリ (ラン科) *Dactylorhiza viridis* (L.) R.M.Bateman, A.M.Pridgeton et M.W.Chase

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

全生育地で生育個体数が限られ、開発、踏みつけによる生育条件の悪化や観賞用の山野草としての採取などにより、各地で個体数が減少している。

国内の分布状況

北海道、本州（北・中部）、四国の高山。

県内の分布状況

黒部市、魚津市、立山町、富山市。

生態・生息環境

山地～高山帯の湿地、湿性の林床に生育する多年草。花期は5~6月。

生存への脅威（減少の要因）

開発（特に森林伐採や湿地の改変を伴うもの）、踏みつけ、園芸採取。

保全対策

生育地の保護、採取の抑制。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物、僧ヶ岳県立自然公園の指定植物。



撮影：石澤 岩央

(文責：石須 秀知)

イチヨウラン (ラン科) *Dactylostalix ringens* Rchb.f.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が極めて限定され、生育環境の変化、園芸目的の採取などにより個体数が減少しており、絶滅のおそれがある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市、魚津市、上市町、立山町、富山市。

生態・生息環境

山地帯上部～亜高山帯の落葉広葉樹林や針葉樹林の林床等に生育する多年草。花期は5～6月。

生存への脅威（減少の要因）

園芸採取、登山道の放置、豪雨による登山道沿いの浸食・崩壊。

保全対策

採取の抑制、生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物、朝日・僧ヶ岳・有峰県立自然公園の指定植物。

(文責：石澤 岩央)



撮影：太田道人

タカネイチヨウラン (ラン科) *Dactylostalix uniflora* (Finet) Suetsugu

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が極めて限られており個体数も少ない。園芸目的の採取や踏みつけ、登山道等の管理方法の変更等によって絶滅するおそれがある。イチヨウラン *Dactylostalix ringens* Rchb.f.とされてきたもの一部がこの種とされたもので個体数は著しく少ない。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

立山町、上市町、富山市。

生態・生息環境

林床・林縁、登山道脇などやや明るい冷涼な場所に生育する地生の多年草。花期は5～6月。イチヨウランより高所に生育するのが一般的だが、一部逆転することもある。

生存への脅威（減少の要因）

園芸採取、踏みつけ、登山道等の管理方法の変更・放置、豪雨による登山道沿いの浸食・崩壊。

保全対策

採取の抑制、生育地の保護管理、登山道等の維持管理

文献

207)



撮影：野原真紀子

(文責：石澤 岩央)

キリガミネアサヒラン (ラン科)

Eleorchis japonica (A.Gray) F.Maek. var. *conformis* (F.Maek.) F.Maek. ex H.Hara et M.Mizush.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 IB 類

選定理由

県内では生育地が極めて限定されている上に、遷移による乾燥化が進んでいる。園芸採取されることもあるため、絶滅する恐れがある。

国内の分布状況

本州中部の亜高山帯。

県内の分布状況

立山町東部、富山市南東部。

生態・生息環境

亜高山帯の湿地に生える多年草で、地表近くに偽球茎をもつ。花期は7~8月。

生存への脅威（減少の要因）

湿原の乾燥化、園芸採取。

保全対策

生育地の保護、採取の抑制。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



収藏：富山市科学博物館

(文責：鈴木 浩司)

エゾスズラン (ラン科)

Epipactis papillosa Franch. et Sav.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では生育地が極めて限定され、個体数も非常に限られている。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市南東部、南砺市南東部。

生態・生息環境

深山の林内に孤立して生える多年草、花期は7~8月。

生存への脅威（減少の要因）

園芸採取、産地局限、スキー場開発。

保全対策

採取の抑制、生育地の確保と保護管理。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



(文責：早瀬 裕也)

ヒメミヤマウズラ (ラン科)

Goodyera repens (L.) R.Br.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内の生育地、個体数は極めて限られており、採取や踏みつけなどにより個体数が減少している。

国内の分布状況

北海道、本州（中北部および大台ヶ原山）。

県内の分布状況

朝日町南東部、立山町南東部、富山市南東部。

生態・生息環境

針葉樹林下に生育する多年草。花期は7~8月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、採取、踏みつけ。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物、有峰県立自然公園の指定植物。



収藏：富山市科学博物館

(文責：鈴木 浩司)

ミヤマモジズリ (ラン科) *Hemipilia cucullata* (L.) Y.Tang, H.Peng et T.Yukawa

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が限定され、個体数も少ない。また園芸採取されることもあるため、絶滅するおそれがある。

国内の分布状況

北海道、本州（中部地方以北）、四国。

県内の分布状況

富山市東部、南砺市南東部。

生態・生息環境

低山帯上部から亜高山帯の針葉樹林や林縁、湿った岩上に生える多年草。花期は7~9月。

生存への脅威（減少の要因）

森林開発、園芸採取。

保全対策

生育地の保全、採取の抑制。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



(文責:長井 幸雄)

ウチョウラン (ラン科) *Hemipilia graminifolia* (Rchb.f.) Y.Tang, H.Peng et T.Yukawa var. *graminifolia*

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧II類

選定理由

生育場所が限られた環境のため、生育箇所・個体数ともに少ないが、園芸目的の採取や自然遷移による蔽化、自然災害などにより個体数が激減しており、絶滅のおそれがある。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町、黒部市、魚津市、立山町、富山市(文献・写真)、南砺市、氷見市。

生態・生息環境

温帯域の渓谷の湿った崖などに生育する多年草。花期は6~8月。

生存への脅威（減少の要因）

園芸採取、自然遷移による蔽化。

保全対策

採取の抑制、生育環境の保全。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物、朝日・僧ヶ岳・白木水無・医王山県立自然公園の指定植物。



(文責:石澤 岩央)

ニヨホウチドリ (ラン科) *Hemipilia joo-iokiana* (Makino) Y.Tang, H.Peng et T.Yukawa

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

生育地がごく一部に限定されている。花が美しいために観賞用の山野草として採取され、個体数が減少している。

国内の分布状況

本州（東北地方南部～中部地方）。

県内の分布状況

黒部市中部、魚津市東部、富山市南東部。

生態・生息環境

亜高山帯の草原に生育する多年草。花期は8月。

生存への脅威（減少の要因）

生育地の踏み荒らし、園芸採取。

保全対策

生育地の保護管理。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物、僧ヶ岳・有峰県立自然公園の指定植物。



(文責:孫田 佳奈)

ホクリクムヨウラン (ラン科) *Lecanorchis hokurikuensis* Masam.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が限定され、生育個体数が限られている。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町、上市町、富山市、射水市、砺波市、小矢部市、氷見市。

生態・生息環境

薄暗い常緑カシ林やコナラ林などの林床に生える菌従属栄養植物で、花期は6~7月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、樹木伐採。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

能登半島国定公園特別地域の指定植物、朝日県立自然公園の指定植物。



撮影：中田 政司

(文責：中田 政司)

ムヨウラン (ラン科) *Lecanorchis japonica* Blume

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育環境が限定され、もともと個体数は多くない。場所によってはホクリクムヨウランと混生しており、誤認されている可能性がある。

国内の分布状況

本州（東北地方南部以南）、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町、上市町、富山市、射水市、砺波市、氷見市。

生態・生息環境

常緑カシ林やコナラ混交林の林床に生える菌従属栄養植物。花期は5~6月。

生存への脅威（減少の要因）

森林伐採、間伐による環境変化。

保全対策

森林環境の維持。



撮影：中田 政司

(文責：中田 政司)

ギボウシラン (ラン科) *Liparis auriculata* Blume ex Miq.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧IB類

選定理由

県内ではごく限られた数地点で確認されているに過ぎず、園芸採取の危険性が非常に大きいと考えられる。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市、入善町、上市町、立山町、富山市、南砺市。

生態・生息環境

落葉樹林中および湿地に生育する多年草。花期は7~8月。

生存への脅威（減少の要因）

園芸採取、開発（特に森林伐採を伴うもの）、遷移進行。

保全対策

乱獲の抑制、生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



撮影：石澤 岩央

(文責：早瀬 裕也)

フガクスズムシソウ (ラン科) *Liparis fujisanensis* F.Maek. ex F.Konta et S.Matsumoto

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧II類

選定理由

生育地が局限されている上に個体数もわずかで、園芸目的の採取や生育環境の悪化などにより絶滅のおそれがある。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市（南部）。

生態・生息環境

ブナの樹上にコケなどと共に着生する多年草。花期は6～7月。

生存への脅威（減少の要因）

園芸目的の採取、生育環境の悪化（乾燥）。

保全対策

乱獲の抑制、生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



撮影：若杉 美仁

（文責：中田 政司）

アキタスズムシソウ (ラン科) *Liparis longiracemosa* Tsutsumi, T.Yukawa et M.Kato

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が限定されており個体数も少ない。現状不明の生育地も多く園芸目的の採取や自然遷移により絶滅のおそれがある。これまで県内でセイタカスズムシソウ *Liparis makinoana* Schltr.と考えられてきたもののうち多くがこの種に該当する。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町、魚津市南部、富山市、南砺市。

生態・生息環境

山地の林内の暗すぎない地上または樹木（倒木を含む）上に生育する多年草。花期は5～6月。

生存への脅威（減少の要因）

園芸採取、自然遷移（藪化、乾燥）。

保全対策

採取の抑制、生育地環境の保護管理。

文献 229)



撮影：石須 秀知

（文責：石澤 岩央）

セイタカズムシソウ (ラン科) *Liparis makinoana* Schltr.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が限られており個体数も著しく少ない。絶滅した生育地もあり、園芸用の採取、自然遷移等により絶滅のおそれがある。これまでセイタカズムシソウとされていたもの多くが新種アキタズムシソウ *Liparis longiracemosa* Tsutsumi, T.Yukawa et M.Kato とされ、セイタカズムシソウは少なくなった。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

上市町(絶滅)、富山市。

生態・生息環境

山地の林内に暗すぎない地上または倒木上等に生育する多年草。花期は5~7月。

生存への脅威（減少の要因）

園芸採取、自然遷移、産地局限。

保全対策

採取の抑制、生育環境の保護管理。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物、朝日・僧ヶ岳・白木水無県立自然公園の指定植物。

文献

229)

(文責：石澤 岩央)

アオフタバラン (ラン科) *Neottia makinoana* (Ohwi) Szlach.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では生育地が極めて限定され、生育個体数も限られている。観賞用の山野草としての採取や開発(森林伐採を伴うもの)などにより生育個体数が減少している。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

魚津市、立山町。

生態・生息環境

山地の林床に生育する多年草。花期は7~8月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、園芸採取、開発(特に森林伐採を伴うもの)、踏みつけ。

保全対策

乱獲の抑制、生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



(文責：石須 秀知)

アリドオシラン (ラン科) *Odontochilus japonicus* (Rchb.f.) T.Yukawa

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

全生育地で生育個体数が限られており、一部では登山者の踏みつけなどによって減少している。

国内の分布状況

北海道、本州(近畿以北)、四国。

県内の分布状況

黒部市、魚津市、富山市。

生態・生息環境

山地～亜高山帯のブナ林やオオシラビソ林などの林床に生育する多年草。花期は7~8月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、踏みつけ、園芸採取。

保全対策

生育地の保護、採取の抑制。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物、僧ヶ岳・有峰県立自然公園の指定植物。



(文責：石須 秀知)

ハクウンラン (ラン科) *Odontochilus nakaianus* (F.Maek.) T.Yukawa

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が限られている。園芸採取や踏みつけにより個体数が減少している。

地域特有の形態

従来、伊豆諸島固有と考えられていたオオハクウンラン *O. fissus* (F.Maek.) T.Yukawa (染色体数 $2n=40$) は、2017年に長野県にも産することが報告された。一方で、本州や九州の山地に生育する個体は、ハクウンラン (染色体数 $2n=26$) とする見解もある。県内の個体はハクウンランとし、細胞分類学的な研究を進める。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

魚津市南東部、上市町東部、立山町。

生態・生息環境

山地の落ち葉が堆積した柔らかい林床に生育する多年草。花期は7~8月。

生存への脅威（減少の要因）

園芸採取、踏みつけ。

保全対策

生育地の保全、採集の抑制。

特記事項

僧ヶ岳県立自然公園の指定植物。

文献

92)



撮影：石澤 岩央

(文責：早瀬 裕也・東 義詔)

タカネトンボ (ラン科) *Platanthera chorisiana* (Cham.) Rchb.f.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧II類

選定理由

生育地および個体数が極めて限られており、園芸目的の採取などにより個体数が減少している。

国内の分布状況

北海道、本州（北・中部）。

県内の分布状況

朝日町南東部、立山町南東部、富山市南東部。

生態・生息環境

高山の湿性草地に生育する多年草。花期は7~8月。

生存への脅威（減少の要因）

園芸採取。

保全対策

採取の抑制。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



撮影：太田 道人

(文責：太田 道人)

ジンバイソウ (ラン科) *Platanthera florentii* Franch. et Sav.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内の生育地は少なく群落によっては個体数が不安定であり生育数も少ない。園芸目的の採取、踏みつけなどによる生育環境の変化により絶滅するおそれがある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町、黒部市、上市町(文献)、立山町、富山市、砺波市、南砺市、小矢部市(文献)。

生態・生息環境

ブナ帯の森林樹下に生育する多年草。花期は8~9月。

生存への脅威（減少の要因）

園芸採取、開発、踏みつけ、生育地の乾燥化。

保全対策

乱獲の抑制、生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物、朝日・僧ヶ岳・医王山県立自然公園の指定植物。



撮影：大原 隆明

(文責：石澤 岩央)

ツレサギソウ (ラン科) *Platanthera japonica* (Thunb.) Lindl.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が限られている。園芸用の山野草として採取され、個体数が減少している。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町北西部、魚津市北東部・南東部、富山市南東部・南部、氷見市北西部。

生態・生息環境

山地の日当たりの良い草原や湿った林下に生育する多年草。花期は5~6月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、園芸採取。

保全対策

生育地の保全、採取の抑制。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物、朝日・僧ヶ岳・医王山県立自然公園の指定植物。



撮影：石澤 岩央

(文責：東 義詔)

タカネサギソウ (ラン科) *Platanthera mandarinorum* Rchb.f. subsp. *maximowicziana* (Schltr.) K.Inoue var. *maximowicziana*

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内の生育地が極めて限られており、採取や踏みつけなどにより個体数が減少し絶滅するおそれがある。

国内の分布状況

北海道、本州中北部。

県内の分布状況

朝日町、黒部市、立山町(文献・写真)。

生態・生息環境

高山帯の多雪地のやや湿った草原に生育する多年草。花期は7~8月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、採取、踏みつけ。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物、僧ヶ岳県立自然公園の指定植物。



撮影：太田 道人

(文責：石澤 岩央)

トキソウ (ラン科) *Pogonia japonica* Rchb.f.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

現存する生育地が限られ個体数も極めて少ない。絶滅または現状不明の生育地が多く、園芸用の採取や、生育地の乾燥化などにより絶滅のおそれがある。これまでトキソウとされてきたもののうち多くがミヤマトキソウ *Pogonia subalpina* T.Yukawa et Y.Yamashita とされ著しく少なくなった。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

入善町、黒部市(文献)、魚津市、上市町(一部絶滅)、富山市(一部絶滅)、南砺市(一部絶滅)、小矢部市(文献：絶滅)。

生態・生息環境

湿原に生育する多年草。花期は5~7月。

生存への脅威（減少の要因）

園芸目的の強い採取圧、自然遷移（乾燥、藪化）、開発（特に湿地の改変を伴うもの）。

保全対策

採取の抑制強化、生育地の保護管理。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物、能登半島国定公園特別地域の指定植物、有峰・五箇山・白木水無県立自然公園の指定植物。

(文責：石澤 岩央)



撮影：若杉 美仁

ヒトツボクロ (ラン科) *Tipularia japonica* Matsum.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

全生育地で生育個体数が著しく限られており、主な生育環境であるアカマツ林の衰退が進行している。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町、黒部市、魚津市、上市町、立山町、富山市、射水市、高岡市、氷見市、砺波市、南砺市。

生態・生息環境

アカマツ林のようなやや乾いた林床に見られる多年草。丘陵地のアカマツ林が、マツ枯れや里山の管理放棄により植生遷移が進行し衰退している。

生存への脅威（減少の要因）

里山の管理放棄、松食い虫によるマツ枯れの拡大、園芸採取、自然遷移。

保全対策

生育環境の保護管理、採取の抑制。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物、朝日・僧ヶ岳・医王山県立自然公園の指定植物。

(文責：石須 秀知)



撮影：石須 秀知

カキツバタ (アヤメ科) *Iris laevigata* Fisch.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

もともと県内では生育地、個体数が多くないと考えられるうえに、湿地の開発や盗掘などにより減少している。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州

県内の分布状況

朝日町北西部、富山市南部・西部、氷見市中西部、砺波市、南砺市中部。

生態・生息環境

日当たりのよい水湿地に生育する多年草。花期は5~6月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、湿地の開発、水質汚濁、自然遷移の進行、園芸採取。

保全対策

湿地の開発の抑制、水質汚濁の防止、自生地の保護、採取の抑制。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

(文責：早瀬 裕也)



撮影：太田 道人

ヤマトミクリ (ガマ科) *Sparganium fallax* Graebn.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 II 類
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

県内では生育地が極めて限定されており、生育個体数も少ない。古い水路の改修などによって生育地が減少している。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市、上市町、富山市南西部（一部絶滅）、射水市南部、小矢部市。

生態・生息環境

水路のよどみ、ため池、池沼などに生育する多年生の抽水植物。花期は7～9月。

生存への脅威（減少の要因）

水路の改修、ため池の改修、埋め立て。

保全対策

生育環境の保護管理、水路等改修時の事前調査と保全対策。



撮影：太田 道人

（文責：太田 道人）

ミコシガヤ (カヤツリグサ科) *Carex neurocarpa* Maxim.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 II 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

2004年に県内でははじめて富山市で生育が確認され、最近、小矢部市でも新たな生育地が発見された。主に太平洋側に分布する本種の日本海側の生育地として貴重である。各生育地は企業団地に隣接した立地および河川敷であり、将来的に環境変化の可能性がある。

国内の分布状況

本州（東北地方～中国地方）。

県内の分布状況

富山市、小矢部市。

生態・生息環境

平地や河川の縁などの湿った草地に生育する多年草。種子は5～6月に熟す。

生存への脅威（減少の要因）

工場建設、河川敷の改変、遷移進行。

保全対策

生育地の保全、開発の抑制、定期的な攪乱による遷移進行の抑制。

特記事項

県内では類似した外来種のアメリカミコシガヤ、ナガバアメリカミコシガヤも侵入しており、同定には注意を要する。

（文責：大原 隆明）



国土交通省 富山河川国道事務所 提供

カラフトイワスグ (カヤツリグサ科) *Carex rupestris* Bellardi ex All.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 II 類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 IB 類

選定理由

県内の生育地は限られており生育面積もかなり狭いが、うち1カ所での個体数は少なくない。国立公園特別保護地区など複数の保護がかかっているが、分布の南限に近く温暖化などの環境変化によって絶滅するおそれも考えられる。

国内の分布状況

北海道、本州（中部の高山）。

県内の分布状況

朝日町南部、黒部市南部。

生態・生息環境

高山帯の砂礫地に生育する多年草。果実は7～8月に熟す。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、気候変動。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



撮影：石澤 岩央

（文責：大原 隆明）

オノエスグ (カヤツリグサ科) *Carex tenuiformis* H.Lév. et Vaniot.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧II類

選定理由

県内では生育地が極めて限定されており、個体数も多くないため、環境変化によって絶滅するおそれがある。

国内の分布状況

北海道、本州（中部以北）。

県内の分布状況

朝日町。

生態・生息環境

高山帯の草原や砂礫地に生育する多年草。果実は7~8月に熟す。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、登山者による踏みつけ、気候変動。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



収蔵：富山市科学博物館

（文責：大原 隆明）

モエギスグ (カヤツリグサ科) *Carex tristachya* Thunb. var. *tristachya*

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

本県は本分類群の日本海側における分布東限に当たり、現在知られる生育地は射水市の2カ所のみである。個体数は少なくはないものの、これらの産地は住宅街に近接する丘陵地の二次林縁であり、将来的に開発される恐れもある。

国内の分布状況

本州（関東以西）、四国、九州、琉球。

県内の分布状況

射水市。

生態・生息環境

低地の乾燥した草地や明るい二次林縁などに生育する多年草。

生存への脅威（減少の要因）

産地極限、生育地の開発、遷移進行。

保全対策

開発の抑制、生育地の保全。



収蔵：富山県中央植物園

（文責：大原 隆明）

マイオスグ (カヤツリグサ科) *Carex vanheurckii* Müll.Arg.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧II類

選定理由

県内では生育地が限定されており、生育面積、個体数ともに少ない。登山道周辺に生育することが多く、踏みつけなどの環境変化によって絶滅するおそれがある。産地はいずれも冷涼な高山地域であり、温暖化の影響も受けやすいと推定される。

国内の分布状況

北海道、本州（北中部）。

県内の分布状況

朝日町、黒部市、立山町、富山市。

生態・生息環境

高山帯の丈の低い草原や岩礫地に生育する多年草。果実は7~8月に熟す。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、気候変動、踏みつけなどによる環境変化。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



撮影：石澤 岩央

（文責：大原 隆明）

コアゼンツキ (カヤツリグサ科) *Fimbristylis aestivalis* (Retz.) Vahl

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 II 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

過去には数ヵ所の記録があったが、多くはヒメヒラテンツキの誤同定であることが判明し、実際の県内の生育地は 2 カ所のみである。生育地は改変が行われやすい水湿地であるため、将来的に絶滅する可能性も考えられる。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市、南砺市。

生態・生息環境

水湿地や湖沼畔に生育する小形の一年草。花期は 8~10 月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、湿地開発、環境改変、植生遷移。

保全対策

生育地の保全。



(文責：大原 隆明)

アオテンツキ (カヤツリグサ科)

Fimbristylis dipsacea (Rottb.) C.B.Clarke var. *verrucifera* (Maxim.) T.Koyama

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内での確実な生育は射水市で 2004 年に初記録され、その後 2017 年に氷見市でも新産地が確認されたが、翌年には埋め立てにより消失した。本種は埋土種子を多数作ることから緊急性は低いものの、生育地が 1 カ所だけなので絶滅の危険性はあると考えられる。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

射水市、氷見市。

生態・生息環境

平地の湿地に生育する。

生存への脅威（減少の要因）

ため池の埋め立て。

保全対策

ため池の維持。



(文責：大原 隆明)

ロツカクイ (カヤツリグサ科)

Schoenoplectiella mucronata (L.) J.Jung et H.K.Choi var. *ishizawae* (K.Kohno, Iokawa et Daigobo) Hayasaka

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 IB 類

選定理由

本県では 2013 年に朝日町の川沿いで生育が初確認され、その翌年に上市町の山地湿地でも新たな産地が発見された。産地は 2 カ所と少なく、生育面積、個体数ともに非常に限られている。特に上市町の山地は林道に隣接する狭い湿地であり、道路管理工事や乾燥化の影響を受ける可能性が高い。

国内の分布状況

本州、九州、琉球。

県内の分布状況

朝日町、上市町。

生態・生息環境

山地の日当たりの良い湿地に生育する多年草。結実期は 8~10 月。

生存への脅威（減少の要因）

産地極限、林道工事、湿地の乾燥化。

保全対策

生育地の保全、工事の抑制。



(文責：大原 隆明)

フトイ (カヤツリグサ科) *Schoenoplectus tabernaemontani* (C.C.Gmel.) Palla

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育条件が池沼開発により悪化しつつあり、個体数が減少している。生花用として採取の対象ともなっている。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

富山市南西部（文献）、射水市北部、高岡市北部（文献）・高岡市西部、南砺市北部、小矢部市、氷見市。

生態・生息環境

平地や丘陵地の池沼、川岸の浅水中に生育する多年生の抽水植物。花期は6～9月。

生存への脅威（減少の要因）

池沼開発、遷移進行、園芸採取。

保全対策

生育地の保全、ため池の水質・水量の維持。採取の抑制。



撮影：太田 道人

（文責：川住 清貴）

コシンジュガヤ (カヤツリグサ科) *Scleria parvula* Steud.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が著しく少なく、ため池の改修や湿地の開発、自然遷移により生育環境が失われつつある。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

入善町北西部（絶滅）、黒部市北西部（絶滅）、魚津市中部、射水市南部、南砺市中部。

生態・生息環境

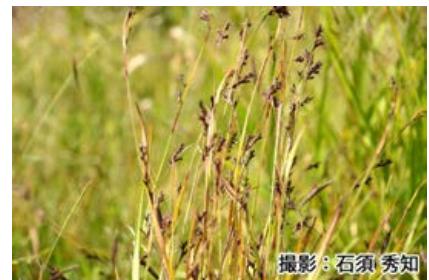
湿地に生育する一年草。花期は7～9月。

生存への脅威（減少の要因）

ため池改修による生育地の減少、湿地の開発、自然遷移。

保全対策

湿地の開発の抑制、生育地の保護。



撮影：石須 秀知

（文責：石須 秀知）

オガルカヤ (イネ科) *Cymbopogon tortilis* (J.Presl) A.Camus var. *goeringii* (Steud.) Hand.-Mazz.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

かつては、定期的な伐採や草刈り等が行われる里山や水田脇に生育していたが、近年は河川の堤防法面の一部に限られている。現存地も管理変更によって容易に絶滅するおそれがある。

国内の分布状況

本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

入善町（絶滅）、魚津市、黒部市、富山市北部（現状不明）、射水市南部・東部、高岡市東部、氷見市（現状不明）。

生態・生息環境

低地のやや湿性の草地に生育する多年草。花期は8～11月。

生存への脅威（減少の要因）

生育地の開発、管理放棄による遷移進行、外来種との競合。

保全対策

開発の抑制、生育地の保全。



撮影：石須 秀知

（文責：太田 道人）

ウキガヤ (イネ科)

Glyceria depauperata Ohwi var. *infirma* (Ohwi) Ohwi

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が限られており、生育個体数も少ない。ため池や水路の改修により消滅するおそれがある。

国内の分布状況

北海道、本州。

県内の分布状況

上市町南部、高岡市北部の丘陵地湿地。

生態・生息環境

丘陵地のため池や水路などに生える多年草。茎の基部は水底を這い、節間から根を出す。上部は水面に浮いて伸びる。花期は5~7月。

生存への脅威（減少の要因）

湿地開発、水路のコンクリート化。

保全対策

生育環境の管理保全。



撮影：太田 道人（北海道にて）

(文責：太田 道人)

テンキグサ (イネ科)

Leymus mollis (Trin. ex Spreng.) Pilg.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内数カ所で確認されているが、生育地の砂浜海岸が開発などにより、生育面積が狭くなっている。

国内の分布状況

北海道、本州、九州北部。

県内の分布状況

魚津市北西部、富山市北西部、射水市北東部、高岡市北東部、氷見市南東部。

生態・生息環境

海岸砂質地に生育する多年草。花期は6~7月。

生存への脅威（減少の要因）

海岸の開発。

保全対策

生育地の保護、生育環境の保全。



撮影：石須 秀知

(文責：鈴木 浩司)

タカネタチイチゴツナギ (イネ科)

Poa glauca Vahl var. *glauca*

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

国内における分布地域が限られており、県内でも生育地が極めて限られている。個体数も少なく、環境変化によって絶滅するおそれがある。

国内の分布状況

本州（中部）。

県内の分布状況

朝日町、立山町。

生態・生息環境

高山の岩礫地や草地に生育する多年草。花期は7~8月。

生存への脅威（減少の要因）

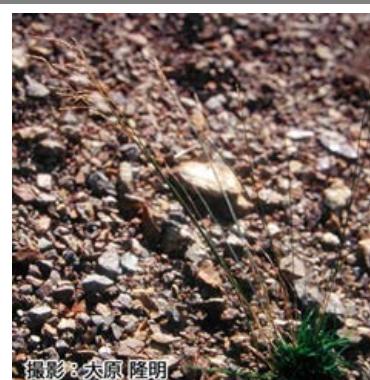
産地局限、気候変動、登山者による踏みつけ。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



撮影：大原 隆明

(文責：大原 隆明)

メガルカヤ (イネ科) *Themedea barbata* (Desf.) Veldkamp

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

古い標本と文献記録のみで、最近の確認例がない。生育地は限られており、さらなる情報収集が必要である。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市中西部、射水市南東部（文献）。

生態・生息環境

丘陵地の草地に生育する多年草。花期は9～10月。

生存への脅威（減少の要因）

生育地の開発、遷移進行。

保全対策

生育地の保全。



撮影：石須秀知（埼玉県にて）

（文責：東 義詔）

マツモ (マツモ科) *Ceratophyllum demersum* L.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

現存する生育地は数ヶ所で、水質悪化や水位変動などの環境変化で絶滅する危険性がある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

滑川市北部、富山市北部・西部、射水市北部・南部、高岡市南部、氷見市北部・中部、砺波市東部。いくつかの地点は記録が古く環境変化により絶滅していると考えられる。

生態・生息環境

湿地やため池、川に生える沈水性の水草。夏緑性。花期は6～8月。果実と茎の先端にできる越冬芽で増える。

生存への脅威（減少の要因）

湿地開発、ため池の管理、産地局限。

保全対策

生育地の保護管理、休眠種子から再生できる環境の復元。



撮影：石須秀知

（文責：石須秀知）

ナガミノツルケマン (ケシ科) *Corydalis raddeana* Regel

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内での生育地点が局限されている。植生遷移に伴って消滅しつつある。

国内の分布状況

北海道、本州、九州。

県内の分布状況

入善町南東部、富山市南部。

生態・生息環境

山中の半日影地に生える一年草～越年草。花期は7～10月。

生存への脅威（減少の要因）

山林周辺の開発、遷移の進行。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



撮影：太田道人

（文責：石須秀知）

フクジュソウ (キンポウゲ科) *Adonis ramosa* Franch.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が限られており、採取により減少する恐れがあるが、自生環境は比較的安定している。近年、二次遷移で周囲部から他の植物の進入が顕著に見られ、このため生育域が狭められ、個体数が減少している。また、花が美しいために観賞用の山野草として採取される。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市南部、南砺市中部。



撮影：太田 道人

生態・生息環境

落葉樹林の明るい林床や開放地に生育する多年草で、しばしば群生する。花期は3~4月。周囲の植物が茂るころにはほぼ活動を終える。

生存への脅威（減少の要因）

園芸採取、遷移進行（周辺部からのササやススキ、低木の侵入）。

保全対策

生育地の保護管理。

特記事項

南砺市の自生地は、県の天然記念物に指定されている。

(文責：佐藤 卓)

クモマキンポウゲ (キンポウゲ科) *Ranunculus pygmaeus* Wahlenb.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 IA 類

選定理由

確実な自生地がごく限られ、観賞用の山野草としての採取や踏みつけに環境の変化に伴う個体数の減少が懸念される。

国内の分布状況

本州（中部）。

県内の分布状況

黒部市南東部。

生態・生息環境

高山の岩礫地・雪田に生育する多年草。花期は7~9月。

生存への脅威（減少の要因）

園芸採取、踏みつけ、温暖化の進行に伴う環境の変化。

保全対策

採取の抑制、生育地の保護。

特記事項

「種の保存法」国内希少野生動植物種。



撮影：早瀬 裕也

(文責：早瀬 裕也)

マンセンカラマツ (キンポウゲ科) *Thalictrum aquilegiifolium* L. var. *sibiricum* Regel et Tiling

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 IB 類

選定理由

生育地が限られ、個体数も少ない。河川の護岸整備により生育地が減少している。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

高岡市、小矢部市。

生態・生息環境

開けた草地や河原に生える多年草。花期は4~6月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、草地開発、河川の護岸整備。

保全対策

河原の草地の保全。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



撮影：太田 道人（長野県にて）

(文責：太田 道人)

シキンカラマツ (キンポウゲ科) *Thalictrum rohebrunianum* Franch. et Sav.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内の生育地が極めて限られており、個体数も少ない。生育環境のわずかな変化によって容易に消滅するおそれがある。

国内の分布状況

本州（中部）。

県内の分布状況

朝日町東部、立山町東部。

生態・生息環境

山地の林縁に生える多年草。花期は7~8月。

生存への脅威（減少の要因）

道路工事、踏みつけ。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

朝日・僧ヶ岳県立自然公園の指定植物、中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

収蔵：富山市科学博物館



(文責：孫田 佳奈)

ザリコミ (スグリ科) *Ribes maximowiczianum* Kom.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が極めて少なく個体数も少ない。生育地一帯の道路・法面工事のほか自然災害、自然遷移などにより絶滅するおそれがある。

国内の分布状況

本州、四国。

県内の分布状況

富山市。

生態・生息環境

やや明るい林縁・林床などに生育する落葉低木。花期は5~6月。枝に刺は無く雌雄異株。本県の生育地は道路横の急傾斜地の林縁である。



撮影：太田 道人（長野県にて）

生存への脅威（減少の要因）

道路・法面工事、自然災害、自然遷移。

保全対策

生育地域の保全。

(文責：石澤 岩央)

タテヤマイワブキ (ユキノシタ科) *Micranthes nelsoniana* (D.Don) Small var. *tateyamensis* (H.Ohba) S.Akiyama et H.Ohba

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内での生育地が2ヶ所に限られており、個体数が著しく少ない。立山町の剣岳がタイプ産地である。



撮影：安田 祥子

国内の分布状況

本州（富山県のみ）。

県内の分布状況

立山町南部、黒部市南東部の高山帯。

生態・生息環境

高山の岩上に生育する多年草。花期は7月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限。

保全対策

生育環境の保護管理。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

(文責：太田 道人)

ムカゴユキノシタ (ユキノシタ科) *Saxifraga cernua* L.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地および個体数が極めて限定されており、わずかの環境変化で消滅するおそれがあり。

国内の分布状況

本州（北アルプス、南アルプス、八ヶ岳）。

県内の分布状況

朝日町南東部、黒部市東部。

生態・生息環境

高山のやや湿った岩礫地に生育する多年草。花期は7~8月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、気候変動。

保全対策

生育地の保全。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



収蔵：富山市科学博物館

（文責：長井 幸雄）

エツチュウミセバヤ (ベンケイソウ科)

Hylotelephium sieboldii (Sweet ex Hook.) H.Ohba var. *ettyuense* (Tomida) H.Ohba

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類

環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧II類

選定理由

富山県の固有植物で、生育地が極めて限定されている。タイプ産地はダム建設により水没したが、その周囲や似た環境の場所に少数の個体群がある。人の手の届かない場所に生育することから、乱獲による絶滅のおそれは少ないが、遷移の進行による減少がみられる。

国内の分布状況

富山県固有種。

県内の分布状況

立山町(西部)、富山市(中部)。

生態・生息環境

渓谷の切り立った崖や道路法面の露出した集塊岩上に生える多年草で、花期は10月。

生存への脅威（減少の要因）

開発（河川改修、道路拡幅、ダム建設）、園芸採取、環境の変化（遷移進行、岩盤の崩落）、産地局限。

保全対策

自生地の保護、生息域外保全。



撮影：中田 政司

（文責：中田 政司）

イヌハギ (マメ科)

Lespedeza tomentosa (Thunb.) Siebold ex Maxim.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類

環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧II類

選定理由

生育地が1地域に限られており、個体数も少ない。生育環境は、定期除草等の河川敷管理に依存している。

国内の分布状況

本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

朝日町東部（近年の記録はない）、富山市東部。

生態・生息環境

海岸林の林縁や河川敷など、日当たりの良い草地に生える。花期は7~9月。通常の花のほか、葉腋（ようえき）に閉鎖花もつける。

生存への脅威（減少の要因）

河川敷の樹林化、河川工事。

保全対策

河川敷環境管理の継続。

特記事項

朝日県立自然公園の指定植物。



撮影：太田 道人
(熊本県にて)

（文責：太田 道人）

チョウセンキンミズヒキ (バラ科) *Cleistogenes hakeleii* (Honda) Honda

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧II類

選定理由

生育地が少なく、個体数も少ない。生育地が開発の対象となりやすく生育条件の悪化が懸念される。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

滑川市南部。

生態・生息環境

山地や草原にまれに見られる。花期は7~8月。

生存への脅威（減少の要因）

里山の管理放棄、開発。

保全対策

生育地の保全、生育環境の保全。



撮影：鈴木 浩司

(文責：鈴木 浩司)

ミツモトソウ (バラ科) *Potentilla cryptotaeniae* Maxim.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

1990年頃までは数カ所の生育地が知られていたが、その後の生育確認情報が少ないのである。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

上市町南部、富山市南東部、南砺市南東部。

生態・生息環境

山地の落葉広葉樹林の林縁湿地に生育する多年草で花期は7~9月。

生存への脅威（減少の要因）

分布の局限。生育地の乾燥化。

保全対策

生育地の保護。



撮影：太田 道人

(文責：佐藤 卓)

ハマナス (バラ科) *Rosa rugosa* Thunb.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では護岸堤建設などの海岸整備により生育可能地が減少し、野生状態で生育するものが極めて少ない。

国内の分布状況

北海道、本州（鳥取県以東）。

県内の分布状況

朝日町北部、黒部市北部、魚津市北部、富山市北部、射水市北部、高岡市北部、氷見市東部。ただし氷見市虻ヶ島は絶滅。

生態・生息環境

海岸の砂地に生育する。花期は6~7月。

生存への脅威（減少の要因）

海岸整備、園芸採取。

保全対策

過去の生育地の保護、生育環境の保全。

特記事項

能登半島国定公園特別地域の指定植物。

一時、県内では自生株は絶滅したと考えられていたが、海岸において、自生と見られる株が確認されている。ただし、植栽か自生かの判別は難しい。



撮影：長井 真隆

(文責：鈴木 浩司)

サナギイチゴ (バラ科)

Rubus pungens Camb. var. *oldhamii* (Miq.) Maxim.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類

環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧II類

選定理由

県内では生育地が極めて限定されており、個体数が著しく少ない。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

入善町北部、富山市南西部。

生態・生息環境

山地の岩場、林縁、疎林下、石灰岩の山地に多い。花期は5~6月で果実期は6~7月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、林道整備等による環境改変。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物、白木水無県立自然公園の指定植物。



撮影：石須 秀知

(文責：石須 秀知)

ヨコグラノキ (クロウメモドキ科)

Berchemiella berchemiifolia (Makino) Nakai

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類

環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が限られており、個体数もわずかである。新たな生育地が見つかる一方で、既知の生育地では再確認ができなくなっている。

国内の分布状況

本州、四国、九州にまれ。

県内の分布状況

朝日町北部、黒部市南部、立山町西部、富山市西部。

生態・生息環境

山地のやや崩壊しやすい斜面に生育する落葉高木。花期は6月。

生存への脅威（減少の要因）

産地極限、森林伐採、斜面安定化工事。

保全対策

生育地の保護。



(文責：太田 道人)

ニオウヤブマオ (サイカイヤブマオ)

Boehmeria holosericea Blume

(イラクサ科)

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類

環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

海岸の開発により個体数が減少している。本種は、2024年に新潟県から報告されたゲンカイヤブマオ *B. nakashimae* Yahara と形態的に類似し、今後の分類学的検討が必要である。

国内の分布状況

本州（日本海側）、九州。

県内の分布状況

高岡市北部、氷見市北東部・東部。

生態・生息環境

海岸の日当たりのよい岩場に生育する多年草。花期は8~9月。

生存への脅威（減少の要因）

海岸の開発。

保全対策

生育地の保全。

文献

235)



撮影：大原 隆明

(文責：東 義詔・早瀬 裕也)

ヒゴスマリ (スミレ科)

Viola chaerophylloides (Regel) W.Becker var. *sieboldiana* (Maxim.) Makino

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類

環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

過去の確実な標本はあるが、1981年以後、確実な生育情報がない。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

魚津市北部（1981年標本、栽培逸出の可能性あり）、富山市（1970年標本）。

生態・生息環境

山地の日当たりのよい所にはえる多年草。花期は4～5月。

生存への脅威（減少の要因）

開発、遷移、園芸採取。

保全対策

生育地の保護、採取の抑制。



撮影：石澤 岩央（県内産を栽培）

（文責：佐藤 卓）

エイザンスマリ (スミレ科)

Viola eizanensis (Makino) Makino

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類

環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が限定され個体数も少ない。1990年以前の情報のみであり、絶滅のおそれがある。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

魚津市、上市町(文献)、立山町(文献)、富山市。

生態・生息環境

山地の木陰にはえる多年草。花期は4～5月。

生存への脅威（減少の要因）

開発、遷移、園芸採取。

保全対策

生育地の保護、採取の抑制。



撮影：太田 道人（長野県にて）

（文責：石澤 岩央）

マルバスミレ (スミレ科)

Viola keiskei Miq.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類

環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が限られている。個体数が減少している。

国内の分布状況

北海道（道南地方）、本州、九州。

県内の分布状況

魚津市南部、上市町北部。

生態・生息環境

山野の日当たりの良い場所に生育する。

生存への脅威（減少の要因）

園芸採取、道路工事。

保全対策

生育環境の管理、採集の抑制。



撮影：石須 秀知

（文責：東 義詔）

アカネスミレ (スミレ科) *Viola phalacrocarpa* Maxim.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

古い標本と文献記録があるが、近年の情報がない。生育環境であった里山のアカマツ林の消滅に伴い絶滅に近づいている恐れがある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町北西部（1962年標本）、立山町中北部（1965年標本と文献記録）、射水市東部（1974年文献記録）。他に富山市、高岡市、砺波市、南砺市に文献記録などがある。

生態・生息環境

低地、丘陵地のアカマツ林内や日当たりの良い草地などのやや乾燥しやすい土地に生える多年草。花期は4月。

生存への脅威（減少の要因）

植生遷移、園芸採取。

保全対策

生育地の保護、採取の抑制。



収蔵：富山市科学博物館

（文責：太田 道人）

ヒカゲスミレ (スミレ科) *Viola yezoensis* Maxim.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が少なく、個体数も限られている。いくつかの生育記録地には、現存していない。

国内の分布状況

北海道（西南部）、本州、四国、九州。

県内の分布状況

上市町西部、立山町北部、富山市東部、魚津市南西部。

生態・生息環境

落葉樹の林内に生える多年草。花期は4～5月。種子と地下匐枝で増え、群生することもある。

生存への脅威（減少の要因）

里山の管理放棄、自然遷移。

保全対策

生育環境の保護管理、二次林の下草刈り。



撮影：石須 秀知

（文責：佐藤 卓）

ムクゲアカバナ (アカバナ科) *Epilobium parviflorum* Schreb.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では2002年に射水市平野部の湿草地で初めて生育が確認され、その後も産地はこの1カ所のみである。個体数は少なくないが生育地は局限されており、環境改変の可能性が高い場所であるため、近い将来絶滅する可能性もかなり高い。

国内の分布状況

本州（茨城県、千葉県、富山県、石川県）。

県内の分布状況

射水市。

生態・生息環境

湿草地にはえる多年草。花期は6～9月。

生存への脅威（減少の要因）

産地極限、湿草地の開発、湿草地の乾燥化など。

保全対策

湿草地の開発と乾燥化の抑制、生育地の保護。

特記事項

本種は帰化種と扱う説もあるが、環境省版レッドリストに掲載のあるオオアカバナと同様、本県のものは水鳥に付着して分布を広げた可能性が高いため、自生種として取り扱った。



撮影：太田 道人

（文責：大原 隆明）

タチスズシロソウ (アブラナ科)

Arabidopsis kamchatica (DC.) K.Shimizu et Kudoh subsp. *kawasakiana* (Makino) K.Shimizu et Kudoh

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 IB 類

選定理由

生育地が限定され、生育個体数も少ない。海岸護岸工事の進行に伴い砂浜後背地の砂の移動が少なくなっており生育環境が減少している。

国内の分布状況

本州（東海・近畿）、四国。

県内の分布状況

立山町北部、富山市北部、高岡市北部。

生態・生息環境

海岸の砂地や低地の河川敷の砂地、時に公園の芝生内に生える越年草。花期は5月。

生存への脅威（減少の要因）

管理放棄による植生の遷移、海岸護岸工事。

保全対策

管理地においては従来行っている除草等の維持管理継続。

特記事項

生育地では、コンクリート構造物の目地にたまる砂上にも生えることがある。



撮影：太田道人

(文責：鈴木 浩司)

ミズタガラシ (アブラナ科)

Cardamine lyrata Bunge

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

かつては水田雑草の一つであったが、近年の乾田化や用水路の改修、除草剤の使用、休耕田の遷移進行で生育環境が極端に衰退し生育地が急減した。ただし、水田を深耕すると再生することもある。

国内の分布状況

本州（日本海側は新潟県以西）、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町北西部、黒部市北部、滑川市北部、上市町中西部、富山市北部・中部・西部、高岡市北部、小矢部市北部。

生態・生息環境

水田や土の用水路、沼地など水湿のある場所に生育する多年草。花期は4~6月。

生存への脅威（減少の要因）

水田の乾田化、用水改修、除草剤の使用、遷移進行。

保全対策

生育環境の確保と保護管理。



撮影：石須秀知

(文責：石須秀知)

クモマナズナ (アブラナ科)

Draba sakuraii Makino var. *nipponica* (Makino) Takeda

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

本州中部に分布地が限られ、県内でも生育地および個体数が極めて限定されているため、環境変化によって絶滅するおそれがある。

国内の分布状況

本州中部。

県内の分布状況

朝日町南部、黒部市南東部、立山町北部。

生態・生息環境

高山の岩上に生育する多年草。花期は6~7月。

生存への脅威（減少の要因）

気候変動、産地局限。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



撮影：吉岡賀

(文責：早瀬裕也)

ミヤマツチトリモチ (ツチトリモチ科) *Balanophora nipponica* Makino

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧II類

選定理由

生育地が少なく、個体数も限られている。特殊な生態的特性をもつことから環境の変化を受けやすい。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市南東部、魚津市南東部、上市町東部、立山町東部、富山市南東部、南砺市南部。

生態・生息環境

山地の落葉広葉樹林に生育しカエデ属、シデ属の根に寄生する多年草。花期は7~8月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限。

保全対策

生育地の保全。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物、僧ヶ岳・有峰県立自然公園の指定植物。

撮影：太田 道人（岐阜県にて）

（文責：長井 幸雄）

マツグミ (オオバヤドリギ科) *Taxillus kaempferi* (DC.) Danser

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では生育地が限定されている。宿主となるアカマツの自然減により、生育できる環境自体が少なくなっている。社寺林、庭園樹に着生している個体は、それらの管理に依存している。本県は分布の北限に近い。

国内の分布状況

本州（関東地方・新潟県以西）、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市東部、魚津市西部、上市町西部、滑川市中部。

生態・生息環境

アカマツ、モミなどの針葉樹の枝に寄生する。花期は7~8月で、果実は翌年3~5月に赤く熟す。

生存への脅威（減少の要因）

宿主（特にアカマツ）の衰退、産地局限、植生遷移、庭園等管理の変更。

保全対策

生育地の保護（宿主の保護）。

特記事項

朝日・僧ヶ岳県立自然公園の指定植物。

撮影：太田 道人

（文責：太田 道人）

ヌカボタデ (タデ科) *Persicaria taquetii* (H.Lév.) Koidz.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧II類

選定理由

県内では生育地が極めて限定されており、生育個体数も少ない。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市北東部、高岡市北部。

生態・生息環境

丘陵地のため池縁などの水湿地に生育する一年草。ため池の水位が下がって陸化したところに出る。花期は9~11月。

生存への脅威（減少の要因）

道路工事、ため池の改修、里山の管理放棄。

保全対策

生育環境の保護管理。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



収藏：富山市科学博物館

（文責：石須 秀知）

マダイオウ (タデ科) *Rumex madaio* Makino

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が限られ、個体数も少ない。また、里山谷頭部の水田の周辺湿地に生育するものは、水田放棄によって生育環境が遷移して消滅するおそれがある。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

魚津市南西部、上市町北部、富山市西部・南部、南砺市東部・北西部、氷見市南部。

生態・生息環境

山の斜面と平地との境界部にできる水湿地に生える多年草。花期は6~7月。

生存への脅威（減少の要因）

里山谷頭部の水田放棄に伴う周辺湿地の植生遷移、ダム建設。

保全対策

生育環境の保護管理。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



撮影：石須 秀知

(文責：早瀬 裕也)

ミヤマハナシノブ (ハナシノブ科)

Polemonium caeruleum L. subsp. *yezoense* (Miyabe et Kudô) H.Hara var. *nipponicum* (Kitam.) Koji Ito

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類

環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧II類

選定理由

生育地が極めて限られており、また個体数も極めて少ない。花が美しいことや希少であるため採取の対象となりやすい。生育地に登山道が通っているため、登山者の踏みつけなどにより生育環境が悪化している。

国内の分布状況

本州（北アルプス、南アルプス）。

県内の分布状況

朝日町南部、黒部市南東部。

生態・生息環境

高山のやや湿り気のある日当たりのよい草原に生育する多年草。花期は7~8月。

生存への脅威（減少の要因）

園芸採取、登山者による踏みつけ。

保全対策

生育地の保全、採取の抑制、登山道整備時の生育環境への配慮。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



撮影：早瀬 裕也

(文責：長井 幸雄)

ハイハマボッス (サクラソウ科)

Samolus valerandi L.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類

環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

生育地が限られ、個体数が少ない。絶滅する恐れがある。

国内の分布状況

北海道、本州。

県内の分布状況

富山市中南部、南砺市中部。

生態・生息環境

海岸の近くの湿地に生育する多年草。花期は6~7月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、湿地開発、遷移進行。

保全対策

生育地の保全。



撮影：石澤 岩央

(文責：東 義詔)

マルバノイチヤクソウ (ツツジ科) *Pyrola nephrophylla* (Andres) Andres

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内の現存生育地が数ヶ所のみで個体数が著しく少ない。自然遷移が進行することで消滅する恐れがある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

魚津市東部、氷見市北部、南砺市中部。

生態・生息環境

アカマツ林、あるいはスギ植林とコナラ林の境目などに生育する多年草。開けていた環境が徐々に遷移し空間が閉鎖されていく過程で出てくる植物のようである。深山にも生える。2001年、氷見市の小個体群では、開花は見られたものの結実しなかった。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、自然遷移、園芸採取。

保全対策

生育環境の確保と保護管理。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



撮影：石澤 岩央

(文責：孫田 佳奈)

オノエリンドウ (リンドウ科) *Gentianella amarella* (L.) Börner subsp. *takedae* (Kitag.) Toyok.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 IB 類

選定理由

県内では生育地が極めて限定され、観賞用の山野草としての採取や登山者による踏み付けなどにより、生育環境が悪化している。

国内の分布状況

北海道（南部）、本州（中部）。

県内の分布状況

朝日町南部、黒部市東部、立山町南東部。

生態・生息環境

高山の草地に生育する越年草。花期は8~9月。

生存への脅威（減少の要因）

園芸採取、踏みつけ。

保全対策

採取の抑制、生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



撮影：石須 秀知

(文責：孫田 佳奈)

イヌセンブリ (リンドウ科) *Swertia tosaensis* Makino

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

生育地が極めて限られ個体数もごく少ない。近年大きな生育地が絶滅し現状不明の生育地もあることから、確認できる個体数はさらに少なくなっている。絶滅のおそれがある。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

上市町(目撃)、富山市、射水市(一部絶滅)。

生態・生息環境

日当たりの良い山野の湿地に生育する一年草または越年草。花期は10~11月。

生存への脅威（減少の要因）

自然遷移、生育環境の人為的改变

保全対策

生育地の保護。



撮影：石澤 岩央

(文責：石澤 岩央)

スナビキソウ (ムラサキ科) *Heliotropium japonicum* A.Gray

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

全生育地で個体数が限られ、海岸整備により徐々に減少している。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町、射水市北部、高岡市北部、氷見市東部。

生態・生息環境

海岸の砂地に生える多年草。花期は5~8月。

生存への脅威（減少の要因）

海岸整備、遷移進行、ゴミの放棄。

保全対策

生育地の保護、生育環境の保全。



撮影：松浦 雄三

(文責：鈴木 浩司)

ホタルカズラ (ムラサキ科) *Lithospermum zollingeri* A.DC.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

花が美しいため観賞用の山野草として採取の対象となるほか、生育地が限られ、生育個体数も極めて少ない。生育地が開発改変によって消失する危険性がある。園芸的に栽培もされ、地域在来系統との交雑による遺伝的搅乱の可能性も考慮する必要がある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

魚津市北西部（絶滅）、滑川市北部（絶滅）、富山市南部、高岡市北西部。

生態・生息環境

平地や丘陵地の乾いた草地や林縁に生育する多年草。花期は4~5月。花後に走出枝を出し新しい株をつくる。

生存への脅威（減少の要因）

森林伐採、草地開発、園芸採取、栽培系統との交雑。

保全対策

里山の保全、草地の保護、採取の抑制。



撮影：石須 秀知

(文責：石須 秀知)

アブノメ (オオバコ科) *Dopatrium junceum* (Roxb.) Buch.-Ham. ex Benth.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育環境が水田の乾田化や農薬の散布により悪化した。

国内の分布状況

本州（東北地方以南）、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

朝日町北中部、富山市北部・中部、射水市西部。氷見市北東部では絶滅した。

生態・生息環境

水田や湿地に生育する一年草。花期は8~9月。茎の中部の葉腋（ようえき）には閉鎖花がつく。

生存への脅威（減少の要因）

湿地開発、水田の乾田化、除草剤の使用。

保全対策

生育地の保全、除草剤使用の抑制。



撮影：川住 清貴

(文責：東 義詔)

シソクサ (オオバコ科)

Limnophila chinensis (Osbeck) Merr. subsp. *aromatica* (Lam.) T.Yamaz.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類

環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

本県は、日本海側における分布の北限にあたる。生育地が限られ、個体数も少ない。水田の乾田化や除草剤の使用などによって生育地が減少し、絶滅の危険が増大している。

国内の分布状況

本州（関東地方以西）、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

入善町北西部、黒部市北西部（文献）、魚津市北西部（文献）、富山市、氷見市南西部。

生態・生息環境

低地の湿地や水田に生育する一年草。花期は9~10月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、湿地開発、水田の乾田化、除草剤の使用。

保全対策

生育地の保全、除草剤使用の抑制。

特記事項

水田を深耕することで埋土種子が発芽することもある。



撮影：石澤 岩央

(文責：川住 清貴)

エチゴトラノオ (オオバコ科)

Veronica ovata Nakai subsp. *maritima* (Nakai) Albach

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類

環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内の生育地が極めて限られ個体数も少なく、この数年間生育確認がなされておらず絶滅のおそれが増大している。

国内の分布状況

本州（東北から北陸の日本海側）。

県内の分布状況

朝日町。

生態・生息環境

海岸草地に生育する多年草。花期は8~9月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、園芸採取、海岸防風林の伐採・除草、自然災害、防災工事。

保全対策

生育地の保護、採取の抑制。

特記事項

朝日県立自然公園の指定植物。



撮影：石澤 岩央

(文責：石澤 岩央)

イヌノフグリ (オオバコ科)

Veronica polita Fr. var. *lilacina* (T.Yamaz.) T.Yamaz.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類

環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧II類

選定理由

もともと県内では生育地が少ないと加え、人里近くに生育する越年草であるために環境変化の影響を受けやすい。個体数も多くはなく、生育基盤が脆弱である。

国内の分布状況

本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

射水市（目撃）、高岡市（目撃）、氷見市。

生態・生息環境

人家付近の道端や畑、石垣などに生える越年草。花期は3~4月。

生存への脅威（減少の要因）

環境変化、農薬（除草剤）散布、帰化競合。

保全対策

生育環境の保全。農薬（除草剤）散布の抑制。外来種の駆除。



撮影：石澤 岩央

(文責：大原 隆明)

カワヂシャ (オオバコ科) *Veronica undulata* Wall.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

生育地が限られ、開発や環境変化によって個体数が減少するおそれがある。最近、特定外来種のオオカワヂシャが県内に侵入・増殖しており、生育地が奪われたり、雑種が生じるおそれがある。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

入善町西部、黒部市北部、魚津市北部、富山市北東部（文献）・富山市西部（文献）、射水市北部、高岡市北西部、氷見市東部。

生態・生息環境

川岸や水路、水田に生育する一～二年草。花期は5～6月。

生存への脅威（減少の要因）

生育地の開発（特に河川改修を伴うもの）、特定外来種オオカワヂシャの侵入。

保全対策

生育地の保全、オオカワヂシャの駆除。

文献

50)



撮影：富山市科学博物館

（文責：川住 清貴）

エゾヒナノウツボ (ゴマノハグサ科) *Scrophularia alata* A.Gray

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では虻ヶ島などの岩礁海岸に生育し、個体数は極めて少ない。また、分布は主に福井県以北の日本海側に偏っている。

国内の分布状況

北海道、本州（青森県～福井県、太平洋側は岩手県北部・青森県）。

県内の分布状況

氷見市東部。

生態・生息環境

海岸の日当たりのよい岩礫地に生育する多年草。花期は6～7月。

生存への脅威（減少の要因）

園芸採取、踏み荒らし、鳥の営巣による糞害。

保全対策

生育地の保護。



撮影：石澤 岩央

（文責：鈴木 浩司）

ヒロハスズメノトウガラシ (アゼナ科) *Bonnaya antipoda* (L.) Druce

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が極めて限られており個体数も少ないが、今後新たな生育地が見つかる可能性もあり、絶滅の危険性はここまで低くない。

国内の分布状況

本州（岩手県以南）、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

富山市中部。

生態・生息環境

水田の周辺部や畦に生える一年草。花期は8～10月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、農薬散布。

保全対策

生育地の保護。



撮影：大原 隆明

（文責：孫田 佳奈）

キセワタ (シソ科) *Leonurus macranthus* Maxim.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧II類

選定理由

生育地が県西北部の一部に限られており、個体数も著しく少ない。里山の管理放棄に伴い減少している。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

高岡市西北部、氷見市北部。

生態・生息環境

丘陵地斜面林縁の草地に生える多年草。花期は9~10月。

生存への脅威（減少の要因）

草地開発、道路拡幅、里山管理放棄。

保全対策

生育環境の保護管理。



撮影：太田 道人

(文責：太田 道人)

ミズトラノオ (シソ科) *Pogostemon yatabeanus* (Makino) Press

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧II類

選定理由

生育地が極めて限られ、個体数も少ない。絶滅の危険が増大している。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市北部・北東部。

生態・生息環境

低地の湿地や水田に生育する多年草。地下茎で殖える。花期は8~10月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、湿地開発、水田の乾田化、除草剤の使用。

保全対策

生育地の保全、除草剤使用の抑制。

特記事項

水田を深耕することで埋土種子が発芽することもある。



撮影：中田 政司

(文責：川住 清貴)

ヒメナミキ (シソ科) *Scutellaria dependens* Maxim.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育個体数が限られており、生育環境が河川改修や道路造成により消失しつつあり、絶滅の危険が増大している。

国内の分布状況

北海道、本州、九州。

県内の分布状況

朝日町東部、入善町、富山市北部、射水市北部、砺波市南東部、南砺市南部。

生態・生息環境

湿った草地、湿地に生育する多年草。花期は6~9月。

生存への脅威（減少の要因）

湿地の開発。

保全対策

生育地の保全。



撮影：太田 道人

(文責：長井 幸雄)

スズメノハコベ (ハエドクソウ科) *Microcarpaea minima* (K.D.Koenig ex Retz.) Merr.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧II類

選定理由

本県は、日本海側で明らかになっている数少ない生育地であり、分布のほぼ北限にあたる。生育地が限られ、個体数も少ない。水田の乾田化や圃場整備、除草剤の使用により、生育環境が消失しつつあり、絶滅の危険が増大している。

国内の分布状況

本州（関東地方以西）、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

入善町北西部、滑川市南西部、富山市北部。

生態・生息環境

低地の湿地や水田に生育する一年草。花期は7~10月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、湿地開発、水田の乾田化、除草剤の使用。

保全対策

生育地の保全、除草剤使用の抑制。

特記事項

水田を深耕することで埋土種子が発芽することもある。



撮影：大原 隆明

(文責：川住 清貴)

ハマウツボ (ハマウツボ科) *Orobanche coerulescens* Stephan ex Willd.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧II類

選定理由

生育地が極めて限られ、個体数も極めて少ない。生育地が開発されやすく、絶滅が危惧される。また特異な形態から乱獲されやすい。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

朝日町東部、入善町南部、魚津市北部、氷見市。

生態・生息環境

海岸や川原の砂地や砂礫地に生育する一年草。カワラヨモギやオトコヨモギに寄生する。花期は5~7月。

生存への脅威（減少の要因）

海岸改修、河川改修、物珍しさによる採取。

保全対策

海岸の保全、川原の保全、採取の抑制。

特記事項

能登半島国定公園特別地域の指定植物。



撮影：石須秀知

(文責：鈴木 浩司)

キヨスミウツボ (ハマウツボ科) *Phacellanthus tubiflorus* Siebold et Zucc.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が限られ、発生頻度も著しく低い。減少していると推定される。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

南砺市南部。

生態・生息環境

カシ類、アジサイ類などの根に寄生する。花は5~7月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、森林伐採。

保全対策

生育地の保全。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



撮影：三浦憲人（栃木県にて）

(文責：東 義詔)

サワギキョウ (キキョウ科) *Lobelia sessilifolia* Lamb.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

湿地の消失、園芸採取により生育地や個体数が減少し、絶滅のおそれがあり。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町、入善町、黒部市、上市町、富山市、射水市、南砺市、小矢部市。

生態・生息環境

山野の湿った草地や湿地に生育する多年草。花期は8~9月。

生存への脅威（減少の要因）

湿地開発、園芸採取。

保全対策

生育地の保全、園芸採取の規制。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物、能登半島国定公園特別地域の指定植物、朝日・医王山県立自然公園の指定植物。

(文責：長井 幸雄)



撮影：太田 道人

シマカンギク（六倍体） (キク科) *Chrysanthemum indicum* L.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

レッドデータブックとやま 2002 で絶滅危惧種とされた氷見市のサンインギク *C. x aphrodite* Kitam. は、六倍体野生種シマカンギクとキク（=園芸菊）との雑種個体群であることがわかり、2012年版では削除され、代わって六倍体シマカンギクが情報不足として掲載された。自生地ではキクとの交雑が進行しているが、野生種シマカンギクに似た形態の個体が少數あることから、遺伝的な調査が必要。

国内の分布状況

本州（近畿地方以西）、九州北部。

県内の分布状況

氷見市（東部）。

生態・生息環境

日当たりのよい山麓にはえる多年草。花期は10~12月。

生存への脅威（減少の要因）

園芸菊との交雑。

保全対策

野生種の存在が確認された場合、現地では遺伝的汚染のおそれがあるため、自生地外保全する必要がある。

特記事項

能登半島国定公園特別地域の指定植物（サンインギクとして）。



撮影：中田 政司

(文責：中田 政司)

オオイワインチン (キク科) *Chrysanthemum pallasianum* (Fisch. ex Besser) Kom.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧II類

選定理由

染色体数の算定から、黒部峡谷産の個体がオオイワインチンであることが確認された。生育地が限られることから、環境の変化により個体数が減少するおそれがある。

国内の分布状況

本州中部、特に日本海側の高山。

県内の分布状況

立山町（東部）。

生態・生息環境

高山の岩場、渓谷の崖などに生育する多年草。花期は9～10月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、遷移による生育環境の変化、園芸採取。

保全対策

生育地の保全、乱獲の抑制。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

撮影：中田 政司・藤本 誠



(文責：中田 政司)

ヒダキセルアザミ (キク科) *Cirsium hidapaludosum* Kadota et Nagase

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

本県は分布の北限に位置する。生育地の湿原の乾燥が原因で、絶滅する恐れがある。

国内の分布状況

本州（富山市南東部、岐阜県中北部）。

県内の分布状況

富山市南東部。

生態・生息環境

山地帯の湿地に生育する。花期は8～9月。

生存への脅威（減少の要因）

湿地開発、遷移進行。

保全対策

生育地の保全。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物、有峰県立自然公園の指定植物。



撮影：早瀬 裕也（岐阜県にて）

(文責：東 義詔)

ヒダアザミ (キク科) *Cirsium tashiroi* Kitam. var. *hidaense* (Kitam.) Kadota

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧II類

選定理由

本県は分布の北限に位置する。生育地が限られており、絶滅する恐れがある。分類学的問題がヒダアザミとワタムキアザミ *C. tashiroi* Kitam.に存在し、再検討が必要である。

国内の分布状況

本州（中部地方の温帶）。

県内の分布状況

上市町西部。

生態・生息環境

山地帯の林縁や林内に生育する。花期は9～10月。

生存への脅威（減少の要因）

森林伐採、遷移進行。

保全対策

生育地の保全。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



撮影：東 義詔（岐阜県にて）

(文責：東 義詔)

タカサブロウ (キク科) *Eclipta thermalis* Bunge

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内の湿地などに広く生育していたが、近縁の外来種アメリカカタカサブロウ *Eclipta alba* (L.) Hassk.が 1965 年に県内で初確認され、これとの交雑が見られるようになった。生育地がアメリカカタカサブロウに置き換わった例も多数報告されている。

国内の分布状況

本州、四国、九州、沖縄、小笠原。

県内の分布状況

本県のほぼ全市町村(朝日町を除く)に標本などの記録がある。この 10 年の文献記録では富山市中部、射水市北部・西部、高岡市東部がある。

生態・生息環境

水田、湿地、小河川岸、街の溝など陽光湿地に生育する一年草。花期は 7~9 月。

生存への脅威（減少の要因）

外来種との交雫、外来種への置き換わり。

保全対策

生育地の保護管理、外来種の除去。

(文責：石澤 岩央)

オグルマ (キク科) *Inula britannica* L. subsp. *japonica* (Thunb.) Kitam.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地の湿地が減少しており、個体数も少ないうえ生育環境の変化による絶滅のおそれがある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町、入善町、黒部市、魚津市、立山町、富山市、射水市、高岡市、氷見市、南砺市南部。

生態・生息環境

湿地や水田の縁、川岸などに生育する多年草。花期は 7~10 月。

生存への脅威（減少の要因）

湿地・放棄水田の埋め立て、除草剤散布、植生遷移。

保全対策

生育地の保全、除草剤散布の抑制。



撮影：石澤 岩央

(文責：長井 幸雄)

ノニガナ (キク科) *Ixeris polyccephala* Cass.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が極めて限られ、個体数も少ないとから、容易に絶滅する危険性がある。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

魚津市中西部、富山市中部・南部。

生態・生息環境

田の畦や農道に生える一年草。荒地の遷移初期にも出現し、消長が激しい。花期は 4~5 月。

生存への脅威（減少の要因）

農薬（除草剤）の散布、農道・林道等の整備による環境変更、遷移の進行。

保全対策

生育地の保護。



撮影：石須 秀知

(文責：石須 秀知)

アキノハハコグサ (キク科) *Pseudognaphalium hypoleucum* (DC.) Hilliard et B.L.Burtt

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 II 類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 IB 類

選定理由

県内で過去に確認された生育地が 3 例しかなく、近年採取されていない。現在の生育は極めて限定的であると考えられ、わずかの環境変化で消滅するおそれがある。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町、小矢部市。

生態・生息環境

やや乾いた山地に生育する一年草。花期は 9~11 月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、植生遷移。

保全対策

生育環境の保護管理。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

収蔵：富山市科学博物館



(文責：大原 隆明)

オナモミ (キク科)

Xanthium strumarium L. subsp. *sibiricum* (Patrin ex Widder) Greuter

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

かつては海岸や河川敷などに見られたが、その生育地がオオオナモミに取って替わられたため減少が著しい。近年の生育状況は不明である。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

富山市（西部）、射水市（西部）。

生態・生息環境

道ばたや草地の陽光地に生える一年草。花期は 8~10 月。

生存への脅威（減少の要因）

外来種競合、河川開発、海岸開発、草地開発、土地造成、道路工事。

保全対策

生育状況の把握、生育地の保護。

(文責：中田 政司)

レンプクソウ (ガマズミ科)

Adoxa moschatellina L.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内の生育地は数カ所あるが、いずれの場所でも生育面積が小さい。花の形態が珍しいために観賞用の山野草として採取されることがある。踏みつけにあうと、容易に消滅する。

国内の分布状況

北海道、本州（近畿以北）。

県内の分布状況

朝日町西部、上市町南部、富山市、高岡市中部、南砺市南部。

生態・生息環境

落葉樹林の林床に生える多年草。花期は 4~5 月。白色の細長い地下茎を伸ばし、先端に球茎を作つて増える。

生存への脅威（減少の要因）

園芸採取、産地局限、ダム工事、森林伐採。

保全対策

生育環境の保護管理。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



撮影：中田 政司

(文責：太田 道人)

ナベナ (スイカズラ科) *Dipsacus japonicus* Miq.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

過去の記録が著しく少なく、現存する生育地は3ヶ所程度しか知らない。山地溪流沿いの崩壊性土壌に生育することから、砂防工事の進行と共に減少する傾向にある。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町北部（絶滅）、入善町南部、魚津市南西部。

生態・生息環境

山地の湿った岩屑の堆積地に生える2年草。花期は8月。上部の頭花から先に咲き始め、順次下の頭花が開花する。果期は10~11月。

生存への脅威（減少の要因）

砂防堰堤工事、ダム開発、道路工事、法面安定化工事。

保全対策

生育地の保護、生育環境の保護管理。



撮影：太田道人

(文責：早瀬 裕也)

クロミノウグイスカグラ (スイカズラ科)

Lonicera caerulea L. subsp. *edulis* (Regel) Hultén var. *emphyllocalyx* (Maxim.) Nakai

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類

環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が極めて限定されており、個体数もわずかである。踏みつけなどによる生育条件の悪化により絶滅するおそれがある。

国内の分布状況

北海道、本州（中部以北）。

県内の分布状況

朝日町南部の山岳。

生態・生息環境

亜高山～高山の陽地に生育する落葉低木。花期は7月。

生存への脅威（減少の要因）

踏みつけ、園芸採取。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



撮影：石澤 岩央

(文責：太田道人)

ダイセンヒヨウタンボク (スイカズラ科)

Lonicera strophiophora Franch. var. *glabra* Nakai

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類

環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が極めて限られ個体数も著しく少ない。自然災害、自然遷移などにより絶滅のおそれがある。

国内の分布状況

本州。

県内の分布状況

立山町、富山市。

生態・生息環境

やや明るい林縁に生育する落葉低木。花期は5~6月。子房・花柱に毛が無い。

生存への脅威（減少の要因）

自然災害（土砂災害）、自然遷移。

保全対策

生育環境の保全。



撮影：石澤 岩央

(文責：石澤 岩央)

アラゲヒヨウタンボク (スイカズラ科) *Lonicera strophiophora* Franch. var. *strophiophora*

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 II 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が県内で 1 か所のみであり個体数も少ない。自然遷移、自然災害などで絶滅のおそれがある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国。

県内の分布状況

南砺市。

生態・生息環境

やや明るい林縁に生育する落葉低木。花期は 5~6 月。子房（時に花柱にも）に毛または腺毛がある。

生存への脅威（減少の要因）

法面工事、自然災害、自然遷移。

保全対策

生育環境の保全



撮影：大原 隆明

(文責：石澤 岩央)

オミナエシ (スイカズラ科) *Patrinia scabiosifolia* Link

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 II 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

過去の生育地の報告は多数あったが、丘陵地のススキ草地等の開発、自然遷移による喪失とともに減少が進み、過去 10 年でも大きな群落が里山の管理放棄で消滅し、各生育地の個体数も著しく少くなり、絶滅のおそれがある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町(文献)、黒部市(一部絶滅)、魚津市、上市町(文献)、富山市(一部絶滅)、射水市(一部絶滅)、高岡市、南砺市(一部絶滅)、氷見市(一部絶滅)、小矢部市(文献、目撃：絶滅)。

生態・生息環境

山野の日当たりの良い草原に生える多年草。花期は 8~10 月。

生存への脅威（減少の要因）

草地開発・土地造成、里地・里山の放置による自然遷移、園芸採取。

保全対策

生育環境の保護管理、採取の抑制。



撮影：太田 道人

(文責：石澤 岩央)

ハマウド (セリ科) *Angelica japonica* A.Gray

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 II 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では生育地が氷見市を中心とした一部の海岸に限定され、個体数も少ない。また、富山県は日本海側の分布の北限に位置している。

国内の分布状況

本州（太平洋側は千葉県以西、日本海側は富山県以西）、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

高岡市北部、氷見市東部。

生態・生息環境

海岸に生育する大型の多年草で、しばしば群生する。花期は 4~6 月。

生存への脅威（減少の要因）

海岸侵食、海岸工事、鳥の営巣による糞害。

保全対策

生育地の保護管理、生育環境の保全。



撮影：泉 治夫

(文責：鈴木 浩司)

スギラン (ヒカゲノカズラ科) *Phlegmariurus cryptomerinus* (Maxim.) Satou

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

県内ではごくまれに生育が確認されており、園芸採取や工事によって減少するおそれがある。

国内の分布状況

北海道（南部）、本州、四国、九州（奄美まで）。

県内の分布状況

黒部市中部、魚津市南部（文献記録）、南砺市西部（文献記録で既に絶滅か）。

生態・生息環境

山地帯から亜高山帯の老樹の幹に着生する。

生存への脅威（減少の要因）

園芸採取、奥山での砂防工事。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域内指定植物。



撮影：太田道人

（文責：太田道人）

ヒメハナワラビ (ハナヤスリ科) *Botrychium lunaria* (L.) Sw.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

生育地が高山帯のごく一部に限定されており、個体数も少ない。登山者の踏みつけなどにより、個体数が減少する危険性がある。

国内の分布状況

北海道、本州（中部以北、鳥取県）。

県内の分布状況

黒部市南東部、立山町南部。

生態・生息環境

高山の陽当たりの良い草原や岩場に生じる夏緑性の多年草。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、登山者の踏みつけ。

保全対策

登山道整備時の環境保全への配慮。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



撮影：太田道人

（文責：太田道人）

コヒロハナヤスリ (ハナヤスリ科) *Ophioglossum petiolatum* Hook.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が少なく、生育地の環境が変化し易いために個体数が不安定である。生育を確認するも数年内に消滅していることもあるれば、その後また生育を確認できることもある。

国内の分布状況

本州（東北地方南部以南）、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

魚津市北部、富山市中部、射水市中部、砺波市東部、高岡市中部（目撃）。

生態・生息環境

丘陵地道路横や、畦、植え込みなどの草地に生える、夏緑性の小型のシダ植物。本県の場合、工事車両等が通行する道路横、芝生の植え込み内、街中・駐車場の植え込み内など人為的な環境が多い。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、自然遷移。

保全対策

生育地の保全。



撮影：石澤岩央

（文責：石澤岩央）

ヒロハハナヤスリ (ハナヤスリ科) *Ophioglossum vulgatum* L.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が限られており、個体数も少ない。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

魚津市北西部、上市町西部、富山市東部・南部、南砺市中部・西部。

生態・生息環境

丘陵地～山地の林床や林縁のやや湿った陽地に生えるシダ。春に栄養葉と胞子葉を展開し、夏には地上部が枯れる。地下茎と胞子で増える。

生存への脅威（減少の要因）

自然遷移、開発。

保全対策

生育環境の保護管理。

特記事項

朝日県立自然公園の指定植物。



撮影：石須 秀知

(文責：石須 秀知)

ナヨシダ (ナヨシダ科) *Cystopteris fragilis* (L.) Bernh.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では生育地、個体数とともに極めて少なく、地上生のものでは目立たないため、踏みつけにより生育地が荒廃するおそれがある。

国内の分布状況

北海道、本州（中央部）、四国。

県内の分布状況

朝日町南東部(文献)、黒部市南東部、富山市南東部(文献)。

生態・生息環境

深山～高山の岩場に生育する、夏緑性のシダ植物。

生存への脅威（減少の要因）

岩場の環境変化、地上生の場合は踏みつけ。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



撮影：石須 秀知

(文責：石澤 岩央)

イチョウシダ (チャセンシダ科) *Asplenium ruta-muraria* L.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

石灰岩地に特異的に生育するため県内では生育地が限定され、個体数も少ない。一部では、岩壁の崩壊などにより個体数が著しく減少している。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市中部、魚津市南東部、上市町南東部、富山市南東部・南西部、南砺市南部。

生態・生息環境

常緑性のシダ。石灰岩地で、崖や林中の裸出した岩隙などに生育する。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、開発や林道改修等による崖地の改変。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物、僧ヶ岳・有峰・白木水無県立自然公園の指定植物。



撮影：石須 秀知

(文責：石須 秀知)

タチヒメワラビ (ヒメシダ科) *Thelypteris bukoensis* (Tagawa) Ching

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が限られており、生育個体数も少ない。山地の溪畔林に生育するものは、堰堤工事で失われることが多い。

国内の分布状況

本州（中部以北）、四国（徳島県、高知県）、九州（熊本県）。

県内の分布状況

富山市南西部、南砺市南東部の山地帯。

生態・生息環境

山地の溪畔林や、湿った草地に生える夏緑性のシダ植物。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、堰堤工事、森林伐採を伴う開発。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物、白木水無県立自然公園の指定植物。



収蔵：
富山市科学博物館

(文責：太田 道人)

トガクシデンダ (イワデンダ科) *Woodsia glabella* R.Br.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では生育地、個体数とともに極めて少なく、地上生のものでは目立たないため踏みつけにより生育地が荒廃するおそれがある。

国内の分布状況

北海道、本州（中部）、四国。

県内の分布状況

黒部市南東部、立山町南東部。

生態・生息環境

深山～高山の石灰岩の隙間等に生育する、夏緑性のシダ植物。

生存への脅威（減少の要因）

分布の局限、岩上・地上生の場合は踏みつけ。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



撮影：太田道人

(文責：石澤 岩央)

テバコワラビ (メンダ科) *Athyrium atkinsonii* Bedd.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

生育地が限定されており、人が除草等の管理を行う遊歩道・道路沿いのため、本種の生存は人による環境整備に左右され、その在り方によっては消滅するおそれがある。

国内の分布状況

本州（関東地方、中部地方、近畿北部及び中国地方西部）、四国、九州（中部）。

県内の分布状況

富山市南東部。

生態・生息環境

山地の林床、遊歩道沿い等に生育する、夏緑性のシダ植物。

生存への脅威（減少の要因）

遊歩道等の整備方法の変更、管理中止。

保全対策

生育地の環境整備の継続。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



撮影：石澤 岩央

(文責：石澤 岩央)

シロウマイタチシダ (オシダ科) *Dryopteris shiromensis* Sa.Kurata et Nakam.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

県内では生育地が極めて限定され個体数も少なく、自然災害や自然遷移等により個体数が減少するおそれがある。

国内の分布状況

本州（東北地方南部～中部地方以北の主に日本海側）。

県内の分布状況

立山町東部、富山市南東部。

生態・生息環境

山地帯上部の林床に生育する、夏緑性のシダ植物。

生存への脅威（減少の要因）

自然災害（土砂災害）、自然遷移。

保全対策

生育環境の保全。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



撮影：石澤 岩央

(文責：石澤 岩央)

ジュンサイ (ジュンサイ科) *Brasenia schreberi* J.F.Gmel.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では生育地が限られており、ため池の改修などによって個体数が減少している。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

魚津市西部（文献）、富山市中部、射水市南部（文献）、南砺市北～南部、小矢部市南東部、氷見市中西部。

生態・生息環境

浅い池沼に生育する多年生の浮葉植物で、秋に厚い寒天質に包まれた殖芽（しょくが）ができる。花期は6～8月。

生存への脅威（減少の要因）

池沼開発、水質汚染、ため池の管理放棄。

保全対策

生育地の保全、ため池の水質・水量の維持。



撮影：太田 道人

(文責：川住 清貴)

ミヤマアオイ (ウマノスズクサ科) *Asarum faurieri* Franch. var. *nakaianum* (F.Maek.) Ohwi ex T.Sugaw.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧II類

選定理由

生育地が限定され、個体数も限られている。園芸目的の採取により生育地が失われるおそれがあり。

国内の分布状況

本州中部（富山県、岐阜県、長野県、新潟県）。

県内の分布状況

魚津市南東部、立山町東部、富山市南部・南東部、南砺市南部。

生態・生息環境

山地の落葉広葉樹林、針葉樹林に生育する多年草。花期は4～5月。

生存への脅威（減少の要因）

森林開発、園芸採取。

保全対策

生育地の保全。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



撮影：早瀬 裕也

(文責：長井 幸雄)

スズカマムシグサ (サトイモ科) *Arisaema pseudoangustatum* Seriz. var. *suzukaense* Seriz.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

自生地数・個体数共に少なく、県内の自生地は標高 600 m 以上の山地帯の石灰岩地域に限局される。マニアによる観賞用の採集が懸念される。

国内の分布状況

本州中部（三重県・滋賀県・岐阜県・福井県・石川県・富山県）。

県内の分布状況

富山市南部、南砺市南部。

生態・生息環境

花期は 5 月下旬～6 月上旬。

生存への脅威（減少の要因）

園芸採取、道路法面・登山道の草刈りや踏みつけ。

保全対策

生育環境の保護。

特記事項

富山県は生育北限。



撮影：早瀬 裕也

（文責：早瀬 裕也）

ナベクラザゼンソウ (サトイモ科) *Symplocarpus nabekuraensis* Otsuka et K.Inoue

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

生育地が限られており、個体数も少ない。山地の湿地開発や林道拡幅などで減少している。

国内の分布状況

本州（東北地方～北陸地方）。

県内の分布状況

黒部市中部（絶滅）、富山市南部、砺波市南部、南砺市南部。

生態・生息環境

多雪地の樹林下の沢地に生育する多年草。花期は 6 月後半～7 月前半。

生存への脅威（減少の要因）

湿地の開発、里山放棄、遷移進行、道路工事。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物、朝日・僧ヶ岳・有峰・五箇山・白木水無・医王山県立自然公園の指定植物。

（文責：太田 道人）



撮影：長井 幸雄

ヒメザゼンソウ (サトイモ科) *Symplocarpus nipponicus* Makino

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が少なく、これまでに複数の生育地が消滅したまたは現状不明であり、個体数が著しく減少している。

国内の分布状況

北海道、本州（中部以西は日本海側に分布が多い）。

県内の分布状況

黒部市北部（文献：絶滅）、滑川市南部、上市町中部（絶滅）、立山町中部（一部文献）、富山市中部（文献）・西部（文献・写真）・南西部、高岡市中部（絶滅）、南砺市中南部、小矢部市南部（絶滅）。



撮影：太田道人

生態・生息環境

山麓や道端などの湿った場所、小河川の川岸等に生育する多年草。花期は5～6月。花序はザゼンソウと異なり開葉後に開花する。

生存への脅威（減少の要因）

土地開発、河川改修、里山の管理放棄、自然遷移。

保全対策

生育地の保全、管理の維持。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物、能登半島国定公園特別地域の指定植物、朝日・有峰・白木水無県立自然公園の指定植物。

（文責：石澤 岩央）

ハナゼキショウ (チシマゼキショウ科) *Tofieldia nuda* Maxim. var. *nuda*

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

過去に一部の生育地がダム開発等で消滅した。数カ所の生育地があるが、園芸目的の採取も懸念される。

国内の分布状況

本州（関東以西）、九州。

県内の分布状況

黒部市南東部、上市町東部、立山町南部。

生態・生息環境

山地渓谷の岩壁に生育する小型の多年草。花期は7～8月。

生存への脅威（減少の要因）

園芸採取、ダム開発。

保全対策

生育地の保護、採取の抑制。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



（文責：早瀬 裕也）

スズタ (トチカガミ科) *Blyxa echinisperma* (C.B.Clarke) Hook.f.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧II類

選定理由

水田の乾田化や用水路の改修で生育環境が減少し、生育地や生育個体数が限られている。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町北部、富山市北～南東部、射水市南部、砺波市東部、南砺市中部、氷見市北部。

生態・生息環境

水田、ため池、水路などに生育する一年生の沈水植物。花期は8～10月。

生存への脅威（減少の要因）

湿地開発、水田の乾田化、水質汚染、除草剤の使用、遷移進行。

保全対策

生育地の保全、水質汚染の防止、除草剤使用の抑制。



撮影：富山市科学博物館

（文責：川住 清貴）

ヤナギスブタ (トチカガミ科) *Blyxa japonica* (Miq.) Maxim. ex Asch. et Gürke

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

水田の乾田化や用水路の改修で生育環境が極端に後退し、生育地や生育個体数が減少している。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

魚津市北西部、射水市南部、砺波市東部、南砺市中部、小矢部市北西部、氷見市北部・南東部。

生態・生息環境

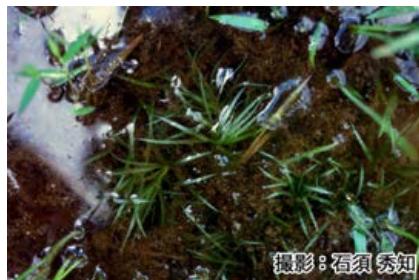
水田、ため池、水路などに生育する一年生の沈水植物。花期は7～10月。

生存への脅威（減少の要因）

水田や水路の開発、水質汚染、除草剤の使用、遷移進行。

保全対策

生育地の保全、水質汚染の防止、除草剤使用の抑制。



撮影：石須秀知

(文責：川住 清貴)

イトトリゲモ (トチカガミ科) *Najas gracillima* (A.Braun ex Engelm.) Magnus

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

県内各地に生育し、新池や泥土が攪乱された池に一時的に繁茂し、数年後に消える生態を示すことから、絶滅の危険性はやや低いものと判定した。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市、砺波市、高岡市、小矢部市、氷見市。

生態・生息環境

水田、ため池、湖沼などに一時的に群生する一年生の沈水植物。花期は6～9月。

生存への脅威（減少の要因）

開発（特に池沼の改変を伴うもの）、管理放棄（ため池、休耕田等）、水質汚濁、除草剤の使用。

保全対策

生育地の保護、水質汚濁の防止、除草剤使用の抑制。

(文責：中田 政司)



撮影：中田 政司（石川県産）



撮影：中田 政司

ホツヌモ (トチカガミ科) *Najas graminea* Delile

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

ため池の周囲の浅瀬や水田、水路などに生育するため、水位の低下や水質の汚染、埋め立てにより個体群が減少するおそれがある。

国内の分布状況

本州、四国、九州、琉球。

県内の分布状況

富山市、射水市、砺波市、高岡市、小矢部市、氷見市。

生態・生息環境

湖沼やため池、水田や水路などに生育する沈水性の一年草。花期は7～9月。

生存への脅威（減少の要因）

ため池や水路の管理放棄、水田の乾田化、埋め立て、水質汚染。

保全対策

ため池の水位、水質の維持。水田や水路の管理。



撮影：富山市科学博物館

(文責：中田 政司)

ミズオオバコ (トチカガミ科) *Ottelia alismoides* (L.) Pers.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

水田の乾田化や用水路の改修で生育環境が極端に悪化し、生育地や生育個体数が限られている。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市北東部、魚津市西部、富山市北部、射水市南部、砺波市東部、南砺市、小矢部市南西部、氷見市北～南部。

生態・生息環境

水田や池沼、用水路に生育する一年生の沈水植物。花期は8～10月。

生存への脅威（減少の要因）

水田や水路の開発、水質汚染、除草剤の使用、遷移進行。

保全対策

生育地の保全、水質汚染の防止、除草剤使用の抑制。



撮影：石須 秀知

(文責：川住 清貴)

セキショウモ (トチカガミ科) *Vallisneria natans* (Lour.) H.Hara

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

自生地が限られており、開発や水質汚濁による影響を受けやすい。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

舟橋村、富山市、砺波市、南砺市、高岡市、氷見市、小矢部市。

生態・生息環境

やや水質の良い池や河川、用水路などに生える沈水生の多年草。

生存への脅威（減少の要因）

河川や用水路の改修、水質汚濁。

保全対策

生育地の保護、水質汚濁の防止。



(文責：中田 政司)

コアマモ (アマモ科) *Zostera japonica* Asch. et Graebn.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

富山湾沿岸の生育地が限られている。生育に適した波浪の穏やかな環境が減少している。本種を含む海草（ウミクサ）は、陸生植物に比べて、その生育状態の確認が困難である。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

魚津市北西部、氷見市東部。

生態・生息環境

水深1～8mの砂泥地に生育する。

生存への脅威（減少の要因）

護岸の整備、浅海域の埋め立て、海水の汚濁、海底の汚染。

保全対策

生育地の保全。

文献

73), 74)



撮影：東 義詔

(文責：東 義詔)

アマモ (アマモ科) *Zostera marina* L.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

富山湾沿岸の生育地が限られている。生育に適した波浪の穏やかな環境が減少している。近年、生育地の群落が除去される開発が行われた。本種を含む海草（ウミクサ）は、陸生植物に比べて、その生育状態の確認が困難である。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町北部、魚津市北西部、氷見市東部。

生態・生息環境

水深1~21mの砂泥地に生育する。

生存への脅威（減少の要因）

護岸の整備、浅海域の埋め立て、海水の汚濁、海底の汚染。

保全対策

生育地の保全。

文献

1), 3), 73), 74)



撮影：東 義詔

(文責：東 義詔)

ミヤマエンレイソウ（シロバナエンレイソウ）（シユロソウ科） *Trillium tschonoskii* Maxim.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内で確認されている生育地は2ヶ所のみで個体数も少ない。うち1ヶ所が開発により失われるおそれがある。残る1ヶ所の環境は安定している。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

立山町南部、南砺市西部。

生態・生息環境

山地の明るい林内に生える多年草。花期は5~6月。

生存への脅威（減少の要因）

ダム開発、園芸採取。

保全対策

生育地の確保と保護管理。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



撮影：長井 幸雄

(文責：太田 道人)

マルバサンキライ (サルトリイバラ科) *Smilax stans* Maxim.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

石灰岩地帯などの特殊環境に生育し、生育地点および個体数が限られているため、開発等により一旦生育地が失われると復元する見込みがない。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市中部、魚津市南東部、立山町西部、富山市南部、南砺市西部。

生態・生息環境

山地の石灰岩地周辺で比較的明るい林床、林縁に生育する。花期は3~4月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限（石灰岩地等）、開発（特に崖地の改変や森林伐採を伴うもの）。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物、僧ヶ岳・有峰・医王山県立自然公園の指定植物。

撮影：石須秀知



(文責：石須秀知)

ヤマジノホトトギス (ユリ科) *Tricyrtis affinis* Makino

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では生育地が極めて限定されている。また、花が美しいので園芸用に採取される。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

氷見市北部・西部、高岡市北西部、富山市西部。

生態・生息環境

丘陵地の明るく、やや乾いた落葉樹林や林縁に生育する多年草。花期は8~10月。

生存への脅威（減少の要因）

園芸採取、植生遷移。

保全対策

生育地の保全、採取の抑制。

撮影：長井幸雄



(文責：長井幸雄)

エビネ (ラン科) *Calanthe discolor* Lindl.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

生育地の改変のほか、花が美しくまた個体変異が珍重されるため観賞用の山野草として採取され、各地域で絶滅するなど、個体数は激減している。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町、入善町、黒部市、魚津市、滑川市、上市町、立山町、富山市、高岡市、氷見市、砺波市、南砺市。いくつかの地点では、既に絶滅している。

生態・生息環境

旧堤防・旧河道・山麓などの林下に生育する多年草。花期は4~5月。

生存への脅威（減少の要因）

土地開発、園芸採取。

保全対策

生育地の保護、採取の抑制。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物、能登半島国定公園特別地域の指定植物、朝日・僧ヶ岳・有峰・五箇山・白木水無・医王山県立自然公園の指定植物。

撮影：藤田将人・太田道人



(文責：石須秀知)

サルメンエビネ (ラン科) *Calanthe tricarinata* Lindl.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

全生育地で生育個体数が限られている。花が美しいために観賞用の山野草として採取されることがある。近年新たな生育地も見つかっている。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町南部、黒部市、上市町、立山町、富山市南部、南砺市南部。

生態・生息環境

ブナ林の林床などに生える多年草。花期は4~5月。

生存への脅威（減少の要因）

園芸採取。

保全対策

森林開発、乱獲の抑制。

特記事項

朝日・有峰・五箇山・白木水無・医王山・僧ヶ岳県立自然公園の指定植物、中部山岳国立公園特別地域の指定植物。
(文責：佐藤 卓)



撮影：中田 政司

ギンラン (ラン科) *Cephalanthera erecta* (Thunb.) Blume

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

花が美しいために観賞用の山野草として採取され、全生育地で生育個体数が限られている。また、里山の管理放棄で遷移が進行し、生育環境が失われている。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町、入善町、黒部市、魚津市、立山町、富山市、射水市、高岡市、氷見市、砺波市。

生態・生息環境

平野部や丘陵地の明るい林床に生育する多年草。花期は5~6月。

生存への脅威（減少の要因）

園芸採取、土地開発、里山の管理放棄による遷移進行。

保全対策

採取の抑制、生育地の保護管理。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物、能登半島国定公園特別地域の指定植物、朝日・僧ヶ岳・白木水無・医王山県立自然公園の指定植物。

(文責：石須 秀知)



撮影：石須 秀知

力キラン (ラン科) *Epipactis thunbergii* A.Gray

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

花が美しいために観賞用の山野草として採取され、個体数が減少している。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州

県内の分布状況

朝日町北部、黒部市中部、魚津市南部、上市町東部、立山町中部、富山市、射水市南部、南砺市。

生態・生息環境

山地の雑木林や日当たりの良い湿地に生育する多年草。花期は6~8月。

生存への脅威（減少の要因）

園芸採取。

保全対策

乱獲の抑制。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物、能登半島国定公園特別地域の指定植物、朝日・僧ヶ岳・有峰・五箇山・白木水無・医王山県立自然公園の指定植物。

(文責：早瀬 裕也)



撮影：太田 道人

クロヤツシロラン (ラン科) *Gastrodia pubilabiata* Y.Sawa

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地、個体数ともに少なく、採取等により減少するおそれがある。その一方で、全国的に発見が相次いでおり、県内でも新たな生育地が確認されている。

国内の分布状況

本州(中部以西)、四国、九州。

県内の分布状況

富山市、射水市、砺波市。

生態・生息環境

スギの混じった竹林などに生育。花期は9~10月。

生存への脅威（減少の要因）

竹林の整備、伐採。

保全対策

竹林の安定維持。



撮影：中田 政司

(文責：中田 政司)

ジガバチソウ (ラン科) *Liparis krameri* Franch. et Sav. var. *krameri*

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では数ヶ所で生育が確認されているが、採集圧や生育地の開発等による個体数減少の危険性がある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市、魚津市、上市町、立山町、富山市、南砺市。

生態・生息環境

山地樹林下または林縁部に生育する多年草。花期は5~7月。

生存への脅威（減少の要因）

園芸採取、開発（特に森林伐採を伴うもの）、遷移の進行。

保全対策

乱獲の抑制、生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物、僧ヶ岳・有峰県立自然公園の指定植物。



撮影：清水 海渡

(文責：石須 秀知)

シテンクモキリ (ラン科) *Liparis purpureovittata* Tsutsumi, T.Yukawa et M.Kato

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内の生育地は4地域程度に限られ、園芸目的の採取や工事等により個体数が減少する恐れがある。

国内の分布状況

北海道、本州（中部地方以北）

県内の分布状況

立山町南部、富山市南東部・南部。

生態・生息環境

やや湿り気のある明るい林床に生育する多年草。花期は6月頃。

生存への脅威（減少の要因）

園芸採取、林道改良工事、砂防工事。

保全対策

乱獲の抑制、生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物、有峰・白木水無県立自然公園の指定植物。



撮影：中田 政司

(文責：太田 道人)

ミヤマフタバラン (ラン科) *Neottia nipponica* (Makino) Szlach.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

全生育地で個体数が限られ、観賞用の山野草としての採取や踏みつけによる生育地の荒廃などによって個体数が減少するおそれがある。

国内の分布状況

北海道、本州（近畿地方以北）、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町南東部、黒部市南東部、立山町東部、富山市南東部。

生態・生息環境

亜高山帯の針葉樹林に生育する多年草。花期は7～8月。

生存への脅威（減少の要因）

森林開発、園芸採取、踏みつけ。

保全対策

生育地の保全、採取の抑制。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



撮影：太田 道人

(文責：長井 幸雄)

タカネフタバラン (ラン科) *Neottia puberula* (Maxim.) Szlach.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では生育地が極めて限定され、踏みつけなどによる生育条件の悪化や観賞用の山野草としての採取などにより、容易に上位カテゴリーに移行する危険がある。

国内の分布状況

北海道、本州（中部）。

県内の分布状況

立山町、富山市。

生態・生息環境

亜高山の針葉樹林の林床に生育する多年草で、花期は8～9月。

生存への脅威（減少の要因）

園芸採取、踏みつけ。

保全対策

採取の抑制、生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物、朝日・白木水無県立自然公園の指定植物。

(文責：早瀬 裕也)

シロウマチドリ (ラン科) *Platanthera convallariifolia* Lindl.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧II類

選定理由

県内では生育地が少なく、登山道付近では踏みつけや園芸採取などにより、個体数が減少するおそれがある。

国内の分布状況

北海道、本州（中部）

県内の分布状況

朝日町南東部、黒部市南東部、上市町南東部、立山町南東部、富山市南東部。

生態・生息環境

亜高山～高山のやや湿った草地に生育する多年草。花期は7～8月。

生存への脅威（減少の要因）

踏みつけ、園芸採取。

保全対策

生育地の保護、採取の抑制。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



撮影：石須 秀知

(文責：石澤 岩央)

ヤマサギソウ (ラン科)

Platanthera mandarinorum Rchb.f. subsp. *mandarinorum* var. *oreades* (Franch. et Sav.) Koidz.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧

環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が限られている。生育地の環境が急激に変化している。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市西部、魚津市東部、立山町、富山市東部・中南部。

生態・生息環境

日当たりの良い草地する多年草。花期は5~7月。

生存への脅威（減少の要因）

園芸採取、生育地の開発、遷移進行。

保全対策

園芸採取の抑制、生育地の保全。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物、僧ヶ岳・有峰・白木水無・医王山県立自然公園の指定植物。



撮影：太田 道人

(文責：東 義詔)

オオヤマサギソウ (ラン科)

Platanthera sachalinensis F.Schmidt

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧

環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では数カ所で分布が確認されているが、園芸目的の採集圧が高いため、今後容易に絶滅の危険性が高まるおそれがある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町南部、黒部市西部、魚津市東部、立山町南東部、富山市南東部、南砺市南部。

生態・生息環境

山地樹林下に生育する多年草。花期は7~8月。

生存への脅威（減少の要因）

園芸採取、砂防工事、森林開発。

保全対策

乱獲の抑制、生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物、朝日・僧ヶ岳・有峰・白木水無・医王山県立自然公園の指定植物。



撮影：石澤 岩央

(文責：太田 道人)

ミヤマトキソウ (ラン科) *Pogonia subalpina* T.Yukawa et Y.Yamashita

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が限られ個体数も少ない。人の踏みつけ・園芸目的の採取、工事等により個体数が減少するおそれがある。これまで県内ではトキソウ *Pogonia japonica* Rchb. f. に含めて考えられ、開花前においてはヤマトキソウ *Pogonia minor* (Makino) Makino と誤認されることもあった。

国内の分布状況

本州（中部地方以北）

県内の分布状況

朝日町、立山町、富山市

生態・生息環境

寒冷な深山、亜高山帯以上の湿地又は湿った草地に生育する多年草。花期は7月。

生存への脅威（減少の要因）

園芸目的の採取や踏みつけ、工事など。

保全対策

採取の抑制、生育地の保全。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

文献

254)

撮影：野原 真紀子



(文責：石澤 岩央)

ノハナショウブ (アヤメ科)

Iris ensata Thunb. var. *spontanea* (Makino) Nakai ex Makino et Nemoto

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧

環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

里山の放棄等により二次遷移が進行して生育環境が失われ、県内では生育地が極めて限定されている。また、花が美しいために観賞用の山野草として採取され個体数が減少している。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町北西部、入善町北部、黒部市北西部、魚津市中部、上市町中部、富山市、射水市南部、氷見市北部、砺波市北東部、南砺市南部。

生態・生息環境

山野の湿地、丘陵地の林縁、池沼の縁に生育する多年草。花期は6～7月。

生存への脅威（減少の要因）

湿地の開発、里山の管理放棄、遷移の進行、園芸採取。

保全対策

生育環境の保護管理。

特記事項

朝日・有峰・五箇山・医王山県立自然公園の指定植物。

撮影：石須 秀知



(文責：孫田 佳奈)

ヒメシャガ (アヤメ科) *Iris gracilipes* A.Gray

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

かつて県下全域の山地に広く分布していたが、花が美しいため観賞用の山野草として乱獲され、生育地の消滅と個体数の減少が著しい。

国内の分布状況

北海道（西南部）、本州、四国、九州（北部）。

県内の分布状況

朝日町南部、黒部市中部・南部、魚津市南部、上市町南部、富山市南部、南砺市。

生態・生息環境

山地の夏緑樹林のやや乾いた林床に生育する多年草。花期は5~6月。

生存への脅威（減少の要因）

森林伐採、道路工事、園芸採取。

保全対策

生育地の保護、道路工事の抑制、採取の抑制。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物、朝日・僧ヶ岳・有峰・五箇山・白木水無・医王山県立自然公園の指定植物。

(文責：鈴木 浩司)



撮影：太田 道人

ノカンゾウ (ワスレグサ科) *Hemerocallis fulva* L. var. *disticha* (Donn ex Ker Gawl.) M.Hotta

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

里山や山麓部の水田の管理放棄に伴い、適度に除草されていた草地が樹林等に遷移しているため、生育環境が徐々に消滅しつつある。

国内の分布状況

本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

魚津市北部、富山市、氷見市南東部、高岡市西部、小矢部市南部、南砺市西部。

生態・生息環境

用水路の土手や野原など、適度に除草されてやや水分のある場所に生育する多年草。花期は7~8月。

生存への脅威（減少の要因）

里山の管理放棄、山麓部の耕作放棄

保全対策

除草によって草地環境が維持されることが望まれるが、継続性の問題がつきまとう。

(文責：孫田 佳奈)



撮影：石須 秀知

ミズアオイ (ミズアオイ科) *Monochoria korsakowii* Regel et Maack

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

水田の乾田化や用水路の改修で生育環境が狭められ、生育個体数も限られている。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

入善町北東部、黒部市北東部、富山市北部、射水市、氷見市南東部。

生態・生息環境

沼や用水、水田などに生育する一年生の抽水～湿生植物。花期は9~10月。休耕田などで埋土種子が発芽し、群生することがある。

生存への脅威（減少の要因）

水田や水路の開発、除草剤の使用、遷移進行。

保全対策

生育地の保全（ただし種子の発芽には攪乱が必要）、除草剤使用の抑制。

特記事項

水田を深耕することで埋土種子が発芽することもある。

(文責：川住 清貴)



撮影：太田 道人

エゾミクリ (ガマ科) *Sparganium emersum* Rehmann

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

富山県が分布の南限で、生育地が限定されており、個体数も少ない。用水改修によって生育地が失われたり生育環境が悪化したりすることが続いている。

国内の分布状況

北海道、本州（富山県以北）。

県内の分布状況

黒部市北西部（絶滅）、上市町中部、富山市西部。

生態・生息環境

低地の用水路や池沼に生育する多年生の水生植物で、走出枝をのばして新しい株をつくる。花期は7～9月。

生存への脅威（減少の要因）

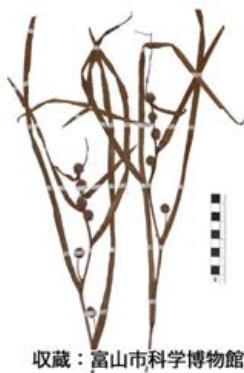
土地開発、用排水路の改修。

保全対策

生育地の保護管理、必要に応じて移植。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



収蔵：富山市科学博物館

(文責：太田 道人)

タマミクリ (ガマ科) *Sparganium glomeratum* (Beurl. ex Laest.) L.M.Newman

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

生育地が亜高山帯の池沼のごく一部に限定されている。生育株数は少なくない。前回はホソバタマミクリとして掲載していたが、母種のタマミクリからの識別が困難であることから、今回はタマミクリとした。

国内の分布状況

北海道、本州（中部地方以北）。

県内の分布状況

朝日町南部、魚津市南東部、上市町南部、富山市南東部。

生態・生息環境

亜高山帯の池沼に生育する多年草。細長い葉の一部が水面に浮いてたなびくように見える。花期は7～8月、結実はややまれ。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、地表変動・気候変転などによる池沼の乾燥化。

保全対策

生育地および生育環境の保護管理。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物、朝日・僧ヶ岳県立自然公園の指定植物。

(文責：太田 道人)



撮影：石須秀知

ヒメミクリ (ガマ科) *Sparganium subglobosum* Morong

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

生育地がやや少なく個体数が限られている。生育環境である湿地や池沼などは、開発される可能性が高い。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

入善町北部、黒部市北部、魚津市西部、滑川市北部、上市町、富山市、射水市、高岡市南部、氷見市南部。

生態・生息環境

ため池、湿地、湧水の流れる水路などに生える多年草。止水に生えるものは直立して花序をつけるが、流水中に生えるものは流れになびく形態となり花序をつけない。花期は8月、果期は9月。種子と地下茎で増える。

生存への脅威（減少の要因）

湿地開発、河川改修。

保全対策

生育環境の保護管理。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



撮影：長井幸雄

(文責：太田 道人)

ドロイ (イグサ科)

Juncus gracillimus (Buchenau) V.I.Krecz. et Gontsch.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧

環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が限定されており、生育面積も小さい。河川敷に生育する群落は短期間で消長を繰り返しているようである。なお、類似種と混同されていることもある。発見頻度が小さい。生育状況調査が必要である。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

入善町北部（文献記録）、立山町西部の河川敷、富山市北部の河川敷。

生態・生息環境

海岸近くまたは河川敷の日当たり良い浅い湿地に生育する多年草。花期は5~7月。

生存への脅威（減少の要因）

自然遷移。

保全対策

生育地の保護。

(文責：太田 道人)

エゾノミクリゼキショウ (イグサ科)

Juncus mertensianus Bong.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧

環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 IB 類

選定理由

生育地が限られ、個体数も少ない。湿地の乾燥化等の環境変化で減少するおそれがある。

国内の分布状況

北海道（大雪山）、本州（焼石岳、北アルプス北部）。

県内の分布状況

朝日町南東部の亜高山～高山。

生態・生息環境

高山の高層湿原や溪流沿いの湿地に生育する多年草。花期は8月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、遷移進行。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



(文責：早瀬 裕也)

イトハナビテンツキ (カヤツリグサ科)

Bulbostylis densa (Wall.) Hand.-Mazz. var. *densa*

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧

環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

もともと生育地が少なく、個体数は多いものの生育面積が狭いことや、一年草であり環境変化の影響を受けやすいことから、絶滅の危険性があると考えられる。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市（文献）、上市町、南砺市。

生態・生息環境

畑地や荒地など、日当たりの良い草地に生育する。花期は夏～秋で、一年草である。

生存への脅威（減少の要因）

草地の開発、農業形態の変化。

保全対策

開発の抑制、生育地の保護。

収蔵：富山市科学博物館



(文責：大原 隆明)

クロボスゲ (カヤツリグサ科)

Carex atrata L. subsp. *japonalpina* (T.Koyama) T.Koyama

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧

環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地は限定されるが、高山帯であることから、緊急性は低いものの絶滅のおそれがあると思われる。

国内の分布状況

本州中部。

県内の分布状況

朝日町、黒部市、立山町東部、富山市南東部

生態・生息環境

高山草原に生育。果実は7~8月に熟す。

生存への脅威（減少の要因）

登山者による踏みつけ。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



撮影：大原 隆明

(文責：早瀬 裕也)

チャシバスゲ (カヤツリグサ科)

Carex caryophyllea Latour. var. *microtricha* (Franch.) Kük.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧

環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

個体数はそれほど少くないものの、生育地が県東部の一部に限定されており、主な生育地は改変されやすい海岸草地である。緊急性は低いものの将来的に絶滅の恐れもあると考えられる。

国内の分布状況

北海道、本州（中北部）。

県内の分布状況

朝日町、入善町、黒部市。

生態・生息環境

日当たりの良い草地（本県では主に海岸）に生育。果実は5~7月に熟す。

生存への脅威（減少の要因）

海岸の開発、海岸砂地衰退などによる遷移進行。

保全対策

開発の抑制、生育地の保全。

(文責：大原 隆明)

ホスゲ (カヤツリグサ科)

Carex senanensis Ohwi

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧

環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

産地が比較的限られており個体数も少ない。県内の標本のほとんどは1970年代以前に採集されたものであり、高山の縦走登山路で記録されているが、近年では容易に発見することができない場所が多い。

国内の分布状況

本州（鳥取・兵庫県境の氷ノ山より北の日本海側）。日本固有。

県内の分布状況

朝日町、富山市、黒部市。

生態・生息環境

山地帯上部～高山の草地に生育する多年草。果実は6~7月に熟す。

生存への脅威（減少の要因）

登山道管理、登山者の踏みつけ。

保全対策

生育地の保全、登山者の踏みつけの抑制。

(文責：大原 隆明)

ヒロハノオオタマツリスゲ (カヤツリグサ科) *Carex rouyanus* Franch. var. *arakiana* Ohwi

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

本県では 2006 年に富山市南東部の山地で生育が確認され、その後、同市の別の地域でも新たな産地が発見された。個体数はそれほど少くないため緊急性は低いが、産地が少ないため、絶滅のおそれがあると考えられる。

国内の分布状況

本州（中部以西の日本海側）、九州（北部）。

県内の分布状況

富山市。

生態・生息環境

山地の林内や林縁に生育する多年草。果実は 5~7 月に熟す。

生存への脅威（減少の要因）

産地極限、林道工事、除草。

保全対策

生育地の保全。

(文責：大原 隆明)

タカネヤガミスゲ (カヤツリグサ科) *Carex lachenalii* Schkuhr

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

国内、県内ともに産地が限定されており、個体数もそれほど多くない。北アルプス中では比較的登山者は少ない地域であるが、環境変化によって減少する恐れがある。

国内の分布状況

北海道、本州（中北部）。

県内の分布状況

朝日町。

生態・生息環境

高山の岩礫の多い草地に生育する多年草。果実は 8~9 月に熟す。

生存への脅威（減少の要因）

気候変動。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

(文責：大原 隆明)

ダケスゲ (カヤツリグサ科) *Carex magellanica* Lam. subsp. *irrigua* (Wahlenb.) Hiitonen

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

県内東部の亜高山から高山帯の所々で確認されている。場所によっては乾燥化により絶滅のおそれはあるが、緊急性は低いと考えられる。

国内の分布状況

本州（中北部）。

県内の分布状況

朝日町、黒部市、立山町、富山市。

生態・生息環境

亜高山帯から高山帯の高層湿原に生育。果実は 7~8 月に熟す。

生存への脅威（減少の要因）

湿原の遷移進行による乾燥化。

保全対策

遷移の抑制、生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域内の指定植物。



撮影：太田 道人

(文責：大原 隆明)

ヒゲハリスゲ (カヤツリグサ科) *Carex myosuroides* Vill.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

県内の生育地は長野県および新潟県の県境付近の数カ所のみに限定されており、個体数も多くはない。しかし高山帯で人為の影響が小さく、目立たない植物であるため採集圧もないことなどから、緊急的な絶滅の危険性は低いものと思われる。

国内の分布状況

北海道、本州（中部の高山）。

県内の分布状況

朝日町、黒部市（文献）。

生態・生息環境

乾燥気味の高山草地に生育。果実は7~8月に熟す。

生存への脅威（減少の要因）

産地極限、登山者の踏みつけ、温暖化の進行。

保全対策

生育地の保護、登山者の踏みつけの抑制。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

（文責：大原 隆明）

オタルスゲ (カヤツリグサ科) *Carex otaruensis* Franch.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

確認された生育地は3カ所と少ない。うち1カ所では個体数はある程度の数が確認されているため緊急性は低いものの、道路わきであり、工事などが行われた場合には絶滅が危惧される。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日市、富山市、富山市（文献）。

生態・生息環境

水湿地に生育。果実は5~6月に熟す。

生存への脅威（減少の要因）

生育地の開発、環境変化。

保全対策

生育地の保護。



撮影：大原 隆明

（文責：大原 隆明）

タカネナルコ (カヤツリグサ科) *Carex siroumensis* Koidz.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧II類

選定理由

国内における生育地域が限られており、県内でも生育地が限定されている。個体数も少くないため、環境変化によって減少するおそれがある。

国内の分布状況

本州（中部）。

県内の分布状況

朝日町、黒部市、立山町。

生態・生息環境

高山帯の荒地や岩場に生育する多年草。果実は7~8月に熟す。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、気候変動。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



撮影：太田 道人

（文責：大原 隆明）

ヒメモエギスゲ (カヤツリグサ科) *Carex tristachya* Thunb. var. *pocilliformis* (Boott) Kük.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

本県は本分類群の日本海側における分布東限に当たり、標本および文献情報を合わせると 5 カ所の生育記録がある。しかし、黒部市や富山市の産地は近年の生育情報が得られていない。射水市の産地も生育数は少なくはないものの、市街地に近い丘陵地の二次林縁であり将来的に開発される恐れもある。

国内の分布状況

本州（関東以西）、四国、九州、琉球。

県内の分布状況

黒部市、富山市（文献）、射水市、氷見市。

生態・生息環境

低地の乾燥した草地や明るい二次林縁などに生育する多年草。

生存への脅威（減少の要因）

生育地の開発、遷移進行。

保全対策

開発の抑制、生育地の保全。



撮影：大原 隆明

（文責：大原 隆明）

ノテンツキ (カヤツリグサ科) *Fimbristylis complanata* (Retz.) Link f. *exaltata* T.Koyama

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

過去には県内各地の湿草地で採集された標本が残っているが、1990 年以降では数ヶ所しか生育が確認されていない。本分類群の生育環境である池の堤や水田周辺などの湿草地は環境変更の恐れが高く、将来的に絶滅の危険も考えられる。

国内の分布状況

本州、四国、九州、琉球。

県内の分布状況

入善町、黒部市、立山町、富山市、氷見市、小矢部市、南砺市中部。

生態・生息環境

主に平地の池の堤などの湿草地に生育する多年草。果実は 7~10 月に熟す。

生存への脅威（減少の要因）

湿草地の開発や遷移進行、ため池の廃止。

保全対策

開発の抑制、生育地の保全。



撮影：大原 隆明

（文責：大原 隆明）

タカラクロスゲ (カヤツリグサ科) *Scirpus maximowiczii* C.B.Clarke

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

県内でも生育地が極めて限定されており、環境変化によって著しく減少する恐れがある。

国内の分布状況

北海道、本州中部以北。

県内の分布状況

朝日町南東部、富山市南東部。

生態・生息環境

高山の湿った草地に生育する多年草。果実は 7~8 月に熟す。

生存への脅威（減少の要因）

気候変動。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

（文責：早瀬 裕也）

ハネガヤ (イネ科) *Achnatherum pekinense* (Hance) Ohwi

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では過去に 5 カ所の標本記録があるが、このうち魚津市では生育が確認できなかったため絶滅の可能性がある。その後の新たな確認記録はなく、主な生育地である湿草地は環境改変されやすいことを考慮すると、将来的には絶滅に向かう可能性がある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

魚津市、富山市、高岡市、南砺市。

生態・生息環境

丘陵地～山地のやや湿った草地や林縁に生育する多年草。花期は 8～9 月。

生存への脅威（減少の要因）

生育地の開発、遷移進行。

保全対策

開発の抑制、遷移の抑制。

(文責：大原 隆明)

ユキクラヌカボ (イネ科) *Agrostis hideoi* Ohwi

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 IB 類

選定理由

本県は本種の分布域西南限にあたり、県東部の深山渓谷を中心に複数個所で採集された標本や文献情報がある。近年の生育情報が得られておらず、個体数も多くはないと考えられるが、生育環境は開発や人為の影響が及びにくい場所であり、大きく減少したとは考えにくい。

国内の分布状況

本州（東北地方～中部地方の日本海側）。

県内の分布状況

朝日町、黒部市（文献）、立山町、富山市。

生態・生息環境

深山の岩場に生育する多年草。花期は 6～7 月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

(文責：大原 隆明)

フサガヤ (イネ科) *Cinna latifolia* (Trevir.) Griseb.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

1959 年の標本と近年旧大山町で採集された標本があるだけで、県内の分布の実態が不明であるが、緊急性は低いものの絶滅のおそれがあると考えられる。

国内の分布状況

北海道、本州（中部地方以北）。

県内の分布状況

富山市南東部、南砺市南部。

生態・生息環境

ブナ帯から亜高山帯にかけての林中に生える多年草。花期は 7～8 月。

生存への脅威（減少の要因）

開発（特に森林伐採を伴うもの）。

保全対策

生育地の保護。

(文責：早瀬 裕也)

ヒナザサ (イネ科) *Coelachne japonica* Hack.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

分布北限付近にあたり、県内では生育地が極めて限定されている。また、生育地が湿地や水辺であり、開発されて縮小している。

国内の分布状況

本州、四国、九州。日本固有種。

県内の分布状況

朝日町南部、射水市南部。

生態・生息環境

湿地や水辺にまれに生育する小型の一年草。花期は8~10月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、池沼開発、遷移進行。

保全対策

生育地の保全。

(文責：川住 清貴)

ヤマオオウシノケグサ (イネ科) *Festuca hondoensis* (Ohwi) Ohwi

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 IB 類

選定理由

国内、県内ともに産地が限定されており、個体数もそれほど多くない。北アルプス中では比較的登山者は少ない地域であるが、環境変化によって減少する恐れがある。

国内の分布状況

北海道（夕張岳）、本州（中部の高山）。

県内の分布状況

朝日町、黒部市。

生態・生息環境

亜高山帯～高山帯の砂礫地や岩場に生育する多年草。花期は7~8月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、気候変動。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



撮影：大原 隆明

(文責：大原 隆明)

タカネソモソモ (イネ科) *Festuca nuda* (Hack. ex Takeda) Koba, H.Ikeda et Yonek.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

分布地域が限定されており、県内でも生育地が極めて限定されている。個体数はそれほど少なくはないが、今後の環境変化によって減少するおそれがある。

国内の分布状況

本州（中部）。日本固有種。

県内の分布状況

朝日町、上市町、立山町。

生態・生息環境

高山帯の岩礫地に生育する多年草。花期は7~8月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、気候変動、登山者による踏みつけ。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



撮影：大田 道人

(文責：大原 隆明)

ヒロハノドジョウツナギ (イネ科) *Glyceria leptolepis* Ohwi

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では生育地が極めて限定されていることに加え、ダム開発や道路工事によって失われるおそれがある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

南砺市東部（文献）・南砺市南部。

生態・生息環境

山地の小さな沢や堰堤の土砂だまりなどにまれに生育する多年草。花期は8月。

生存への脅威（減少の要因）

ダム開発、道路工事。

保全対策

生育地の保全。



撮影：太田 道人

（文責：川住 清貴）

ハイチゴザサ (イネ科) *Isachne nipponensis* Ohwi

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では2011年に生育が初めて確認された。この生育地は登山道沿いの明るい林内で、生育面積が狭いことから、将来的には道路整備や偶発事故により絶滅のおそれがある。県内の他所から報告がないが、目立たない植物であるため今後の調査で新たな生育地が発見される可能性もある。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

滑川市。

生態・生息環境

低山のやや暗い林内や湿地に生育する小型の多年草。花期は9～10月。

生存への脅威（減少の要因）

産地極限、登山道の整備や除草。

保全対策

生育地の保全。



撮影：大原 隆明

（文責：大原 隆明）

力モノハシ (イネ科) *Ischaemum aristatum* L. var. *crassipes* (Steud.) Yonek.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では生育地が極めて限定されており、土地開発、土地改良により個体数が減少している。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町北部、入善町北部、黒部市北部、富山市西部、射水市南部、高岡市西部、氷見市中部、小矢部市南部、砺波市北東部、南砺市北西部・中部。

生態・生息環境

やや湿った草地に生育する多年草で、花期は7～11月である。

生存への脅威（減少の要因）

土地開発、土地改良、遷移。

保全対策

生育地の保護管理。



撮影：太田 道人

（文責：石須 秀知）

タツノヒゲ (イネ科) *Neomolinia japonica* (Franch. et Sav.) Prob.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では所々で生育が記録されているが、いずれも生育面積、個体数ともに少なく存続基盤が脆弱。生育場所は人為の影響を受けやすい車道法面が多いことから、絶滅の恐れがある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町、富山市、砺波市、南砺市。

生態・生息環境

山地の林縁や林中に生育する多年草。花期は8~9月。

生存への脅威（減少の要因）

開発（道路拡幅、改修工事）、除草。

保全対策

開発の抑制。



撮影：大原 隆明

(文責：大原 隆明)

イトイチゴツナギ (イネ科) *Poa matsumurae* Hack.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では生育地が極めて限定され、全国的にも分布西限にあたると考えられる。

国内の分布状況

本州（中部地方以北）。

県内の分布状況

朝日町、魚津市、立山町、富山市。

生態・生息環境

低地から高山にいたる川岸や湿草原に生育する。花期は夏で、多年草である。

生存への脅威（減少の要因）

開発（草地や河川の改修）、登山者による踏みつけ。

保全対策

開発の抑制、生育地の保護。



撮影：石須 秀知

(文責：大原 隆明)

ミヤマカニツリ（タカネカニツリ） (イネ科) *Trisetum koidzumianum* Ohwi

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧II類

選定理由

国内における分布域が限られており、県内でも産地が極めて限定されている。

国内の分布状況

本州（北アルプス、南アルプス、八ヶ岳）。

県内の分布状況

朝日町南東部、黒部市南東部。

生態・生息環境

高山の草原に生育する多年草。花期は7~8月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、気候変動。

保全対策

生育地の保全。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

(文責：長井 幸雄)

チシマカニツリ (イネ科) *Trisetum sibiricum* Rupr.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

50年以上前の標本記録はあるが、その後の確実な情報がない。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市東部、朝日町南東部。

生態・生息環境

亜高山から高山の湿地に生育する多年草。花期は7~8月。

生存への脅威（減少の要因）

気候変動。

保全対策

生育地の保護。

(文責：早瀬 裕也)

リシリカニツリ (イネ科) *Trisetum spicatum* (L.) K.Richt. subsp. *alascanum* (Nash) Hultén

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧II類

選定理由

国内における生育地域が限られており、県内でも産地が極めて限定されている。環境変化によって絶滅の危険性が高まるおそれがある。

国内の分布状況

北海道、本州（北アルプス、南アルプス、八ヶ岳）。

県内の分布状況

朝日町南東部、黒部市南東部、立山町南東部、富山市南東部などの高山帯。

生態・生息環境

高山の礫の多い草地や岩礫地に生育する多年草。花期は7~8月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、気候変動。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



撮影：太田 道人

(文責：太田 道人)

スナシバ (イネ科) *Zoysia x hondana* Ohwi

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内全域の砂浜に点在し、現在は個体数もそこまで少なくはない。しかし、富山湾内では砂浜海岸が衰退しており、開発や4輪駆動車の踏み荒らしだらみられることがから、将来的には絶滅のおそれがあると考えられる。なお、本分類群はオニシバとシバの交雑種とされることが多いが、県内ではオニシバは生育が確認されておらず、独立種である可能性が高いと思われる。

国内の分布状況

本州（中北部）。

県内の分布状況

朝日町、黒部市、富山市、氷見市。

生態・生息環境

海岸の砂浜に生育する多年草。花期は5~6月。

生存への脅威（減少の要因）

海岸の開発、4輪駆動車による踏みつけ。

保全対策

海岸開発の抑制、海岸への自動車立入り規制、生育地の保全。



撮影：大原 隆明

(文責：大原 隆明)

アズマレイジンソウ (キンポウゲ科) *Aconitum pterocaule* Koidz.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が限られ、生育個体数も少ない。花が美しいことから山野草として採取の対象となる。山地の自然林の伐採、道路造成により生育地の消失のおそれがある。

国内の分布状況

本州（中北部、日本海側）。

県内の分布状況

富山市南西部、南砺市中部。

生態・生息環境

夏緑樹林の林床、林縁に生育する多年草。花期は8~10月。

生存への脅威（減少の要因）

森林伐採、道路工事、園芸採取。

保全対策

自然林の保全、道路工事の抑制、採取の規制。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物



撮影：太田 道人

(文責：太田 道人)

アズマイチゲ (キンポウゲ科) *Anemone raddeana* Regel

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が限られており個体数も少ないうえ、生育環境の変化により減少している。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町北部、富山市南部、高岡市中部、南砺市東部・南部。

生態・生息環境

落葉樹林の林縁や林床、ときに草原にも生え、石灰岩地を好む多年草。花期は3~5月。

生存への脅威（減少の要因）

山林開発、遷移進行、園芸採取。

保全対策

生育地の保護、採取の抑制。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物、朝日・五箇山県立自然公園の指定植物。



撮影：高木 美奈子

(文責：石須 秀知)

シラネアオイ (キンポウゲ科) *Glaucidium palmatum* Siebold et Zucc.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では生育地が極めて限定されている上に、花が美しいために観賞用の山野草として採取される。

国内の分布状況

北海道、本州（中部以北）。

県内の分布状況

朝日町、黒部市、魚津市、富山市、立山町、上市町。

生態・生息環境

多雪地を好み、山地～亜高山帯の林縁や林の中、または雪渓や雪田のそばに生える多年草。花期は5~7月。

生存への脅威（減少の要因）

山林開発、園芸採取。

保全対策

生育地の保護、乱獲の抑制。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物、朝日・僧ヶ岳・有峰・五箇山・白木水無・医王山県立自然公園の指定植物。



撮影：太田 道人

(文責：孫田 佳奈)

ミスミソウ (キンポウゲ科) *Hepatica nobilis* Schreb. var. *japonica* Nakai

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

県内には品種ミスミソウ f. *japonica* (Nakai) Yonek. と品種オオミスミソウ f. *magna* (M. Hiroe) Kitam. が生育しており、いずれも生育地が少なく、個体数も一部を除き少ない。園芸用として採取されることが多いなど、減少している生育地もある。

国内の分布状況

本州、四国、九州（ミスミソウ広義として）。

県内の分布状況

品種ミスミソウは黒部市、魚津市、立山町、富山市に、品種オオミスミソウは富山市、砺波市、高岡市、南砺市に分布する。

生態・生息環境

山地の夏緑樹林の林床に生える常緑の多年草。花期は3~4月。

生存への脅威（減少の要因）

園芸採取、森林の放置による自然遷移、森林の伐採（生育環境の大幅な改変を伴うもの）。

保全対策

採取の抑制、生育地の保護。

特記事項

能登半島国定公園特別地域の指定植物。



撮影：石澤 岩央

(文責：石澤 岩央)

ツクモグサ (キンポウゲ科) *Pulsatilla nipponica* (Takeda) Ohwi

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 IB類

選定理由

生育地が極めて限定される。踏みつけや観賞用の山野草としての採取により個体数が減少するおそれがある。

国内の分布状況

北海道、本州（中部）。

県内の分布状況

朝日町南東部、黒部市北東部。

生態・生息環境

高山の乾いた草地に生える多年草。葉は花よりも遅く展開する。花期は6~7月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、踏みつけ、園芸採取。

保全対策

生育地の保護、採取の規制。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



撮影：孫田 佳奈

(文責：孫田 佳奈)

イブキキンポウゲ (キンポウゲ科) *Ranunculus japonicus* Thunb. var. *ibukiensis* Tamura

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が少なく、個体数も少ないとから、絶滅のおそれがある。

国内の分布状況

伊吹・鈴鹿両山脈を中心とする中部地方西部～近畿地方東部。

県内の分布状況

上市町南東部、立山町南部、富山市南部、富山市南西部、南砺市中南部。

生態・生息環境

日当たりのよい草地に生育する多年草。石灰岩地によく見られる。花期は4~5月。

生存への脅威（減少の要因）

草地開発、園芸採取。

保全対策

生育地の保全。

(文責：長井 幸雄)

ヤシャビシャク (スグリ科) *Ribes ambiguum* Maxim.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

全生育地で生育個体数が限られている。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町東部、黒部市南部、立山町南部、富山市南東部、南砺市南部。

生態・生息環境

落葉広葉樹林のブナやミズナラの大木の幹に着生する小低木。花期は5月で、果実は6~7月に熟す。

生存への脅威（減少の要因）

森林の伐採。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

朝日・有峰・白木水無・有峰・医王山・僧ヶ岳県立自然公園の指定植物、中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

(文責：佐藤 卓)



撮影：太田道人

ツメレンゲ (ベンケイソウ科) *Orostachys japonica* (Maxim.) A.Berger

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

生育地が限られており、個体数が少ない。また、観賞用の山野草として採取される。

国内の分布状況

本州（関東以西）、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市中部、富山市南部、南砺市中部、砺波市南部。

生態・生息環境

日当たりの良い岩上に生える多肉の多年草。開花・結実すると枯死する。花期は9~11月。

生存への脅威（減少の要因）

開発（河川改修、道路造成）、園芸採取。

保全対策

生育地の保護、乱獲の抑制。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物、僧ヶ岳・五箇山・白木水無・医王山県立自然公園の指定植物。

(文責：孫田 佳奈)



撮影：中田政司

タコノアシ (タコノアシ科) *Penthorum chinense* Pursh

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

河川改修や湿地の乾燥化による遷移進行により、生育適地が減少している。生育個体数も限られている。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

射水市北部、氷見市南東部、高岡市中部。

生態・生息環境

水位が変動する不安定な湿地や沼、河川敷、水田跡地など特殊環境に生育する多年草。花期は8~9月。

生存への脅威（減少の要因）

河川改修、湿地の乾燥化による遷移進行。

保全対策

生育地の保護。



撮影：太田道人

(文責：孫田 佳奈)

フサモ (アリノトウグサ科) *Myriophyllum verticillatum* L.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

氷見市から標本記録があるが、現在は自生が確認されてない。近隣の能登に自生があることから、生育している可能性がある。他のフサモ類と誤認されているおそれもある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

氷見市北部。

生態・生息環境

ため池、湖沼などに生育する多年生の沈水植物。花期は6~9月。

生存への脅威（減少の要因）

池沼開発、水質汚染、ため池の管理放棄。

保全対策

生育地の保全、ため池の水質・水量の維持。

(文責：川住 清貴)

リシリオウギ (マメ科) *Astragalus frigidus* (L.) A.Gray subsp. *parviflorus* (Turcz.) Hultén

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

県内では生育地が極めて限定され、踏みつけによる生育地の荒廃などによって個体数が著しく減少するおそれがある。

国内の分布状況

北海道、本州（中部）。

県内の分布状況

朝日町南東部、黒部市北東部。

生態・生息環境

高山の草原に生育する多年草。花期は7~9月。

生存への脅威（減少の要因）

踏みつけ。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



撮影：太田道人

(文責：孫田 佳奈)

ヒメハギ (ヒメハギ科) *Polygala japonica* Houtt.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

かつては普通の植物であったが、近年、発見される頻度が激減している。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

県内の人里に分布する。

生態・生息環境

乾いたやせ地や日当たりの良い芝地に生える常緑の多年草。花期は4月下旬。種子はアリに運ばれる。

生存への脅威（減少の要因）

草地管理の減少、里山放棄。

保全対策

草地管理の継続。



撮影：石澤 岩央

(文責：太田 道人)

ハゴロモグサ (バラ科) *Alchemilla japonica* Nakai et H.Hara

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

県内の生育地は極めて限定されており、個体数も少ないため、環境変化によって著しく減少するおそれがある。

国内の分布状況

北海道（夕張岳）、本州（中部）。

県内の分布状況

朝日町南部、黒部市北東部、富山市南東部。

生態・生息環境

高山の草地に生育する多年草。花期は7~8月。

生存への脅威（減少の要因）

登山道の踏みつけ。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



撮影：石須 秀知

(文責：孫田 佳奈)

イワキンバイ (バラ科)

Potentilla ancistrifolia Bunge var. *dickinsii* (Franch. et Sav.) Koidz.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧

環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内での生育地が限定されており、環境変化によって個体数が著しく減少する恐れがある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市南部、魚津市南東部、上市町東部、立山町南東部、富山市南東部、南砺市東部。

生態・生息環境

山地の崖地の岩などに生育する多年草。花期は6~7月。

生存への脅威（減少の要因）

開発や林道整備等による生育地(岩崖)の改変。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物、僧ヶ岳県立自然公園の指定植物。



撮影：石須 秀知

(文責：石須 秀知)

ウラジロキンバイ (バラ科)

Potentilla nivea L.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧

環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

県内では生育地が極めて限定されているため、環境変化によって著しく減少するおそれがある。

国内の分布状況

北海道、本州（東北・中部山岳・南アルプスなどの高山帯）。

県内の分布状況

朝日町東部、黒部市南東部、富山市東部。

生態・生息環境

高山の砂礫地や岩隙に生育する多年草。花期は7~8月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



撮影：石須 秀知

(文責：佐藤 卓)

コミヤマミズ (イラクサ科) *Pilea notata* C.H.Wright

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

確認されている生育地が 4 カ所程度と限られており、ダム開発等で一部の生育地が消滅する恐れがある。

国内の分布状況

本州（中部以西）、四国、九州。

県内の分布状況

上市町北西部、高岡市北部、氷見市北部。

生態・生息環境

山地のやや崩壊性の湿った場所に生える。水分が多くやや軟弱な多年草。雌雄同株。花期は 8~10 月。

生存への脅威（減少の要因）

生育地の局限、ダム開発。

保全対策

生育地の保護。



撮影：太田道人

(文責：石須秀知)

イワウメヅル (ニシキギ科) *Celastrus flagellaris* Rupr.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内の産地が限定されており、個体数も少ない。近年の発見例がない。

国内の分布状況

本州（関東地方以西）、四国、九州。

県内の分布状況

富山市南西部、南砺市南西部。

生態・生息環境

山地の岩礫地などに生える落葉性のつる植物。花期は 5~6 月。

生存への脅威（減少の要因）

開発（特に森林伐採を伴うもの）。園芸採取、自然遷移。

保全対策

生育地の保護。

(文責：太田道人)

ウスバスミレ (スミレ科) *Viola blandiformis* Nakai

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育記録が 1 例しかなく生育地が著しく限られるが、環境は安定している。

国内の分布状況

北海道、本州（白山以東）。

県内の分布状況

富山市南東部。

生態・生息環境

針葉樹林下の湿った場所に生える。花期は 6~7 月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

(文責：石須秀知)

コマイワヤナギ (ヤナギ科) *Salix rupifraga* Koidz.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

県内では 3 地域で確認されているが、いずれの生育地も変化しやすい不安定な立地である。富山市と立山町にまたがる立山カルデラ内では個体数は少なくないが、砂防工事による改変もみられるなど、存続基盤が脆弱である。

国内の分布状況

本州（中部）。

県内の分布状況

立山町、富山市。

生態・生息環境

岩場や林縁に生育する小型の低木。花期は 4~6 月。

生存への脅威（減少の要因）

岩場環境の改変工事。

保全対策

生育地の保全。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

撮影：大原 隆明



(文責：大原 隆明)

ニシキソウ (トウダイグサ科) *Euphorbia humifusa* Willd. ex Schlechl.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

路傍、畑地の雑草群落に生育するが、産地が限定されている。管理方法の変更や放棄等、人為に大きく左右されるため全県的な生育状況がつかみづらい。注意して探せばもう少し生育地が見つかる可能性もある。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

魚津市北部、富山市北部、小矢部市東部、氷見市北東部。

生態・生息環境

畑地や路傍にはえる一年生の小型草本。花期は 6~10 月。

生存への脅威（減少の要因）

外来種との競合、除草剤の使用。

保全対策

外来種の駆除、除草剤使用の抑制。



撮影：太田 道人

(文責：孫田 佳奈)

ミツバフウロ (フウロソウ科) *Geranium wilfordii* Maxim.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地域が県内のごく一部に限られており、個体数も少ない。近年、登山道の整備や増水による生育地の改変により、生育環境が減少している。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

南砺市南東部。

生態・生息環境

山地の林縁などの湿潤な草地にはえる多年草。花期は 7~10 月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、生育地の改変、遷移進行。

保全対策

開発の抑制、生育地の保全。

特記事項

本県のものは太平洋側のものに比べ、花が大型で萼片や小花柄が長いなど、かなり印象が異なる。日本海側のものは他地域のものと形態や遺伝子に差異があるとの報告もあり（倉田ほか 2021）、分類学的な扱いについては今後の研究を待つ必要がある。

文献

69)

(文責：大原 隆明)

ミズマツバ (ミソハギ科) *Rotala mexicana* Cham. et Schleidl.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

除草剤の使用や圃場整備によって激減した水田雑草で、過去 20 年間で数カ所程度の確認記録しかない。発生時には大量に生育するものの数年で消えていくことが多い。

国内の分布状況

本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

富山市。

生態・生息環境

水田や湿地にはえる一年草。花期は 8~10 月。

生存への脅威（減少の要因）

湿地開発、水田の乾田化、除草剤の使用。

保全対策

生育地の保全、除草剤使用の抑制。

特記事項

水田を深耕することで埋土種子が発芽することもある。



撮影：大原 隆明

(文責：川住 清貴)

ホソバアカバナ (アカバナ科) *Epilobium palustre* L.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が限られ、個体数も非常に少ないものの、生育環境は比較的安定している。

国内の分布状況

北海道、本州中部以北。

県内の分布状況

黒部市東部、立山町東部、富山市東部。

生態・生息環境

湿原に生える多年草。花期は 6~9 月。

生存への脅威（減少の要因）

湿地・湿原の開発、植生遷移。

保全対策

生育地の保護。

(文責：孫田 佳奈)

カジカエデ (ムクロジ科) *Acer diabolicum* Blume ex K.Koch

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

日本海側の分布北限付近にあたり、全生育地で個体数が限られている。

国内の分布状況

本州（宮城県以南）、四国、九州。日本固有種。

県内の分布状況

入善町中部、立山町中部、富山市南西部、高岡市西部、氷見市南部。

生態・生息環境

山地の肥沃な谷間や緩傾斜地中腹に多い。花期は 4~5 月、葉が展開する前に開花する。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、道路工事、里山の管理放棄（竹林の分布拡大）。

保全対策

生育地の保護。



撮影：大原 隆明

(文責：早瀬 裕也)

カラコギカエデ (ムクロジ科) *Acer tataricum* L. subsp. *aidzunense* (Franch.) P.C.de Jong

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が不安定な湿地であることから、遷移の進行や開発されれば絶滅することもありうる。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

魚津市、滑川市、立山町、高岡市。

生態・生息環境

低山の湿地の林内に群生する落葉小高木。花期は5~6月。

生存への脅威（減少の要因）

森林開発。

保全対策

生育地の保全。

撮影：大原 隆明（長野県にて）



(文責：早瀬 裕也)

ナニワズ (ジンチョウゲ科) *Daphne jezoensis* Maxim.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では生育地が極めて限定されており、過去にはダム建設により大きな群生地が水没した。里山の管理放棄と園芸採取により減少しつつある。近年新たな自生地が見つかったが、草刈りによる人為的攪乱の影響を受けている。

国内の分布状況

北海道、本州（東北地方～北陸地方）。

県内の分布状況

高岡市・氷見市・砺波市。

生態・生息環境

低山の落葉樹林内に生育。花期は3~4月。

生存への脅威（減少の要因）

森林伐採と開発、里山の管理放棄と遷移進行、清掃、踏みつけ、道路脇の改変、園芸・観賞目的の採取。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

能登半島国定公園特別地域の指定植物。



撮影：泉 治夫

(文責：早瀬 裕也)

クモイナズナ (アブラナ科) *Arabis tanakana* Makino

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧II類

選定理由

本州中部のみに分布し、県内でも生育地が極めて限定されており、個体数も多くないため、環境変化によって著しく減少するおそれがある。

国内の分布状況

本州（中部）。日本固有種。

県内の分布状況

朝日町東南部、黒部市東部、立山町北東部。

生態・生息環境

高山帯の乾いた草原や砂礫地に生育する多年草。花期は7~8月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、気候変動。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。分布の西限。



撮影：大原 隆明

(文責：早瀬 裕也)

シロウマナズナ (アブラナ科) *Draba shiroumana* Makino

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 IB 類

選定理由

本州中部固有。県内でも生育地が極めて限定されているため、環境変化によって著しく減少するおそれがある。

国内の分布状況

本州中部。日本固有種。

県内の分布状況

朝日町南部・黒部市南東部。

生態・生息環境

高山の岩石地に生育する多年草。花期は7~8月。

生存への脅威（減少の要因）

気候変動、産地局限。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。白馬岳がタイプ産地。



撮影：早瀬 裕也

(文責：早瀬 裕也)

オオユリワサビ (アブラナ科) *Eutrema okinosimense* Taken.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では生育地が極めて限定されている。里山の管理放棄に伴い、生育地が他の高茎草に覆われるなどして、減少している。

国内の分布状況

本州（岩手県～島根県）、九州（福岡県）の主に日本海側。

県内の分布状況

氷見市北部。

生態・生息環境

丘陵地の林縁の湿った斜面に生育する多年草。花期は4~5月。

生存への脅威（減少の要因）

里山の管理放棄、道路造成。

保全対策

生育地の保全。

特記事項

本植物は、環境庁編「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物植物 I」には絶滅とされていたが、近年日本海側を中心に分布が確認されている。ユリワサビは本県には分布しない。



撮影：太田 道人

(文責：川住 清貴)

オオツルイタドリ (タデ科) *Fallopia dentata* (F.Schmidt) Holub

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

把握されている生育地が少なく、生育地が川岸や荒地などの不安定な環境である。

国内の分布状況

北海道、本州。

県内の分布状況

高岡市北部。

生態・生息環境

日当たりのよい川岸や荒地に生育するつる性の一年草。花期は8~10月。

生存への脅威（減少の要因）

河川開発、植生遷移。

保全対策

生育地の保全。

(文責：長井 幸雄)

ホソバノウナギツカミ (タデ科) *Persicaria praetermissa* (Hook.f.) H.Hara

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が限られており、開発や里山の管理放棄により生育環境が減少しつつある。生育地では群生するので、個体数は少なくない。

国内の分布状況

本州（関東地方以西）、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

入善町北部、富山市南西部、射水市南部、氷見市北部。

生態・生息環境

休耕水田やため池などの水湿地に生える一年草。花期は8~11月。

生存への脅威（減少の要因）

湿地開発、除草剤散布、植生遷移。

保全対策

生育地の保全、除草剤散布の抑制。



撮影：太田道人

(文責：長井 幸雄)

ホソバミミナグサ（タカネミミナグサ）(ナデシコ科) *Cerastium rubescens* Mattf. var. *koreanum* (Nakai) E.Miki

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

県内での生育地が限定されており、環境変化によって個体数が著しく減少する恐れがある。

国内の分布状況

北海道（西南部）、本州（中部地方）。

県内の分布状況

黒部市南東部、富山市南東部。

生態・生息環境

高山に生育する多年草。花期は7~8月。

生存への脅威（減少の要因）

気候変動。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

(文責：早瀬 裕也)

ハマナデシコ (ナデシコ科) *Dianthus japonicus* Thunb.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

海岸の改修工事に伴い生育地が減少しており、生育地での個体数が限られ、さらに園芸採取により個体数が減少している。

国内の分布状況

本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

富山市北部、氷見市北部。

生態・生息環境

海岸の岩場や砂浜などに生育する多年草。花期は6~11月。

生存への脅威（減少の要因）

海岸整備、園芸採取。

保全対策

生育地の保護、乱獲防止。

特記事項

能登半島国定公園特別地域の指定植物。市街地近くのものは自生か逸出品か要検討。



撮影：石須秀知（高知県にて）

(文責：鈴木 浩司)

フシグロセンノウ (ナデシコ科) *Lychnis miquelianana* Rohrb.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では生育地が極めて限定されているうえに、花が美しいために山野草として採取され、個体数が著しく減少している。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

上市町東部・富山市南部、南砺市中部・西部、高岡市北西部。

生態・生息環境

山地に生える多年草。花期は7~10月。

生存への脅威（減少の要因）

園芸採取。

保全対策

乱獲の抑制。



撮影：太田道人

(文責：鈴木 浩司)

チシマツメクサ (ナデシコ科) *Sagina saginoides* (L.) H.Karst.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 IA類

選定理由

本県は本種の分布の南限に当たり、生育地、個体数とともに極めて限られているため、環境変化によって減少するおそれがある。

国内の分布状況

北海道、本州（北アルプス北部）。

県内の分布状況

朝日町南東部、立山町南東部。

生態・生息環境

寒地、高山の砂礫地に生育する多年草。花期は7~8月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。分布の南限。



収蔵：富山県中央植物園

(文責：早瀬 裕也)

シコタンハコベ (ナデシコ科) *Stellaria ruscifolia* Willd. ex Schlehd.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II類

選定理由

県内では生育地が限定されており、踏みつけによる生育条件の悪化などにより個体数が減少する恐れがある。その一方で、立山黒部アルペンルート沿いの石積み法面では、少しずつ増えている。

国内の分布状況

北海道、本州（中部）。

県内の分布状況

朝日町南東部、上市町南東部、立山町南東部。

生態・生息環境

高山の岩礫地、岩崖などに生育する多年草。花期は7~8月。

生存への脅威（減少の要因）

踏みつけ、園芸採取。

保全対策

生育地の保護、採取の抑制。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



撮影：太田道人

(文責：太田道人)

ギンレイカ (サクラソウ科) *Lysimachia acroadenia* Maxim.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が極めて限られ、開発の対象となりやすい。近年の生育情報が得られていないことから、絶滅が懸念される。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

氷見市北部。

生態・生息環境

山地の湿った林内に生える多年草。花期は6~7月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、道路工事、河川工事、地滑り防止工事。

保全対策

生育地の保護、生育環境の保全。



撮影：大原 隆明

(文責：鈴木 浩司)

ヒメシャクナゲ (ツツジ科) *Andromeda polifolia* L.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地、生育個体数ともに限られており、登山道の崩壊進行、山野草としての採取などによって個体数が減少している。

国内の分布状況

北海道、本州（北・中部）。

県内の分布状況

富山市南部、南砺市南部。

生態・生息環境

山地～高山の湿原に生育する常緑の小低木。花期は6~7月。

生存への脅威（減少の要因）

園芸採取、踏みつけ。

保全対策

採取の抑制、生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物、有峰・白木水無県立自然公園の指定植物。



撮影：長井 幸雄

(文責：孫田 佳奈)

サラサドウダン (ツツジ科) *Enkianthus campanulatus* (Miq.) G.Nicholson

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では生育地が極めて限定されており個体数も少ない。園芸的価値が高く盗掘の危険性がある。

国内の分布状況

北海道（西南部）、本州（兵庫県以東）、四国（徳島県）。

県内の分布状況

立山町、南砺市南部。

生態・生息環境

山地の冷温帯上部から亜高山帯にかけての落葉広葉樹林の林縁部や岩場に生育する低木。花期は5~7月。

生存への脅威（減少の要因）

園芸採取。

保全対策

生育地の保護、乱獲防止。

特記事項

白木水無県立自然公園の指定植物、中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



撮影：太田 道人

(文責：佐藤 卓)

シャクジョウソウ (ツツジ科) *Hypopitys monotropa* Crantz

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

里山林の放棄による遷移の進行や病害虫によるマツ枯れ・ナラ枯れなどによる生育環境の悪化により個体数が減少している。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町北部、黒部市北部、魚津市北部、富山市南東部。

生態・生息環境

山地林内のやや暗い場所に生える。花期は6~8月。

生存への脅威（減少の要因）

二次林の自然遷移。

保全対策

里山の管理や保全。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物、朝日・僧ヶ岳・有峰・五箇山・白木水無・医王山県立自然公園の指定植物。

(文責：鈴木 浩司)



撮影：太田 道人

サツキ (ツツジ科) *Rhododendron indicum* (L.) Sweet

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が極めて限定されており、個体数も少ない。花が美しいために園芸用に採取されるおそれがある。富山県は本種の分布の北限である。

国内の分布状況

本州（神奈川県・富山県以西）、四国、九州。

県内の分布状況

富山市南部、砺波市南部（絶滅）、南砺市南部。

生態・生息環境

溪流岸の岩壁など、増水時に水没する特殊な環境に生育する半常緑性の低木。花期は6月。

生存への脅威（減少の要因）

河岸工事、砂防工事、園芸採取。

保全対策

生育地の保護管理。

特記事項

五箇山県立自然公園の指定植物。

(文責：太田 道人)



撮影：太田 道人

レンゲツツジ (ツツジ科) *Rhododendron molle* (Blume) G.Don subsp. *japonicum* (A.Gray) K.Kron

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地の湿地の減少に伴い、個体数が漸減している。花が美しいために観賞用の山野草として採取される。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町、黒部市、魚津市、上市町、立山町、富山市、射水市、砺波市、高岡市。

生態・生息環境

山地の林縁や草地などの日当たりの良い、やや湿った場所に生える落葉低木。花期は5~6月。

生存への脅威（減少の要因）

山林開発、遷移進行、園芸採取。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物、能登半島国定公園特別地域の指定植物、朝日・僧ヶ岳・有峰・五箇山・白木水無・医王山県立自然公園の指定植物。

(文責：太田 道人)



撮影：太田 道人

バイカツツジ (ツツジ科) *Rhododendron semibarbatum* Maxim.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地は 1 箇所に限られており、個体数も少ない。園芸採取や工事、災害などの環境変化により減少するおそれがある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

南砺市。

生態・生息環境

山地林縁に生育する落葉低木。花期は 6~7 月。

生存への脅威（減少の要因）

園芸採取、法面工事、自然災害。

保全対策

採取の抑制、生育地の保全。



撮影：大原 隆明

(文責：石澤 岩央)

チョウジコメツツジ (ツツジ科)

Rhododendron tschonoskii Maxim. var. *tetramerum* (Makino) Komatsu

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内の既知の産地は限定されており、個体数も少ないが、生育環境は比較的安定している。

国内の分布状況

本州中部の亜高山帯。

県内の分布状況

魚津市南東部、立山町東部、富山市南東部

生態・生息環境

亜高山帯の岩場に生育する半落葉低木。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、開発。

保全対策

生育地の保護。



撮影：石須 秀知

(文責：石須 秀知)

シロウマリンドウ (リンドウ科)

Gentianopsis yabei (Takeda et H.Hara) Ma ex Toyok.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

県内の生育地が極めて限定され、個体数が少ない。

国内の分布状況

本州中北部。白馬岳・清水岳に産する特産種。

県内の分布状況

黒部市東部、朝日町南東部。

生態・生息環境

高山帯に生える越年草。花期は 8~9 月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



撮影：石須 秀知

(文責：早瀬 裕也)

ハナイカリ (リンドウ科) *Halenia corniculata* (L.) Cornaz

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

高山帯の風衝地に稀に生育する。生育地が非常に限られており、個体数もわずかであるが、生育地の環境は安定しており、すぐに絶滅する危険性は低い。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町南部。富山市東部。

生態・生息環境

山地の日当たりのよい所にはえる一年草または越年草。花期は8~9月。

生存への脅威（減少の要因）

遷移の進行。

保全対策

生育地保全（遷移進行の抑制）。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域内指定植物。



撮影：太田道人（長野県にて）

(文責：孫田 佳奈)

ホソバノツルリンドウ (リンドウ科) *Pterygocalyx volubilis* Maxim.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧II類

選定理由

全国的に稀に生育する。県内でも生育地が極めて限定され、生育個体数も少ない。

国内の分布状況

北海道、本州、四国。

県内の分布状況

魚津市南部、黒部市東部、立山町、富山市南部。

生態・生息環境

山地の林縁に生育する一年生のつる草。花期は9~10月。

生存への脅威（減少の要因）

森林伐採、道路工事。

保全対策

自然林の保全、道路工事の抑制。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物、僧ヶ岳・白木水無県立自然公園の指定植物。



撮影：石須秀知

(文責：孫田 佳奈)

コイケマ (キヨウチクトウ科) *Cynanchum wilfordii* (Maxim.) Hook.f.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では3カ所で確認されているが、いずれの生育地も改変の可能性が考えられる路傍である。どの生育地も個体数は少なく、存続基盤が脆弱である。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市、砺波市。

生態・生息環境

林縁に生育するつる性の多年草。花期は7~8月。

生存への脅威（減少の要因）

環境改変、植生遷移。

保全対策

生育地の保全。



撮影：大原 隆明

(文責：大原 隆明)

マルバノホロシ (ナス科) *Solanum maximowiczii* Koidz.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地、個体数ともに少ない。人為の影響を受けやすい環境に生育しているため容易に消滅するおそれがある。

国内の分布状況

本州（関東地方以西）、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

朝日町北部、黒部市西部、富山市南東部・西部、射水市南部、高岡市北西部、氷見市北部、小矢部市西部。

生態・生息環境

日当たりのよい林縁や川岸などの草地に生育するつる性の多年草。花期は8～9月。

生存への脅威（減少の要因）

森林開発、河川改修、除草剤散布、植生遷移。

保全対策

生育地の保全、除草剤散布の抑制。



撮影：大原 隆明

(文責：長井 幸雄)

オオマルバノホロシ (ナス科) *Solanum megacarpum* Koidz.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

近年の記録が少なく、生育地となる湿地や河川敷の環境が不安定である。現在進行しつつある水田改変の影響を受けやすいと思われる。

国内の分布状況

北海道、本州（広島県以東）。

県内の分布状況

入善町、黒部市、富山市、射水市、高岡市、氷見市、小矢部市。

生態・生息環境

低地や山地の湿地や河川敷に生育する多年草。花期は8～9月。

生存への脅威（減少の要因）

湿地の開発、河川改修、遷移。

保全対策

生育環境の維持。



撮影：石須 秀知

(文責：大原 隆明)

マルバノサワトウガラシ (オオバコ科) *Deinostema adenocaulum* (Maxim.) T.Yamaz.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧II類

選定理由

生育地が限られ、個体数も少ない。水田の乾田化や圃場整備、除草剤の使用により、生育環境が消失しつつある。

国内の分布状況

本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

入善町北部、黒部市北西部、滑川市南西部、富山市。

生態・生息環境

低地の湿地や水田に生育する一年草。花期は8～10月。

生存への脅威（減少の要因）

湿地開発、水田の乾田化、除草剤の使用。

保全対策

生育地の保全、除草剤使用の抑制。

特記事項

水田を深耕することで埋土種子が発芽することもある。



撮影：大原 隆明

(文責：川住 清貴)

ヒナノウツツボ (ゴマノハグサ科) *Scrophularia duplicatoserrata* (Miq.) Makino

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が極めて限られ、個体数も少ないため絶滅のおそれがあり。

国内の分布状況

本州（東北地方南部以西）、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市東部、富山市南部、南砺市南部。

生態・生息環境

山地の林内や林縁のやや湿ったところに生育する多年草。花期は7～9月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、森林伐採。

保全対策

生育地の保全。



撮影：石須秀知

(文責：長井 幸雄)

イヌタヌキモ (タヌキモ科) *Utricularia australis* R.Br.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

生育地の記録は多いがその多くが絶滅または現状不明である。生育地であるため池・水路などの管理の在り方や自然災害などによって水質や水位などの環境が変化し、個体数がさらに減少する可能性が高く、今後の生育状況に注意を要する。

国内の分布状況

本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

入善町、黒部市、魚津市、上市町、立山町、富山市（一部絶滅）、射水市（一部絶滅）、南砺市、氷見市、小矢部市。

生態・生息環境

低地の池、特にため池などに生育する多年草。花期は8～9月。

生存への脅威（減少の要因）

池沼開発、水質汚染、ため池の管理放棄、除草剤の使用。

保全対策

生育地の保護、ため池の水質・水量の維持、除草剤使用の抑制。



撮影：石須秀知

(文責：石澤 岩央)

メハジキ (シソ科) *Leonurus japonicus* Houtt.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地と個体数が少ない。生育地が開発の対象となりやすい。

国内の分布状況

本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

入善町、魚津市西部、立山町、富山市北部・中部・南部・西部、南砺市東部・西部。

生態・生息環境

路傍草地や野原に生える越年草。花期は7～9月。

生存への脅威（減少の要因）

路傍の整備、宅地造成。

保全対策

生育地の保護。



撮影：石須秀知

(文責：石須秀知)

コバノタツナミ (シソ科) *Scutellaria indica* L. var. *parvifolia* (Makino) Makino

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が極めて限られ、個体数も少ない。また、生育環境も悪化していることから絶滅のおそれがあり。

国内の分布状況

本州（伊豆半島以西）、四国、九州。

県内の分布状況

富山市北部、南砺市西部。

生態・生息環境

海岸近くや丘陵地の林縁に生える多年草。花期は5～6月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、海岸開発、園芸採取。

保全対策

生育地の保護。



撮影：大原 隆明

(文責：孫田 佳奈)

デワノタツナミソウ (シソ科) *Scutellaria muramatsui* H.Hara

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地、個体数ともに少ない。園芸採取の対象となりやすく、群落が衰退している。

国内の分布状況

本州の日本海側。

県内の分布状況

黒部市、魚津市北部、立山町、富山市中南部・西部、高岡市北部、南砺市西部。

生態・生息環境

丘陵地、山地の林床や林縁に生育する多年草。しばしば群生する。花期は5～6月。

生存への脅威（減少の要因）

道路工事、森林伐採、園芸採取。

保全対策

生育地の保全、採集の抑制。



撮影：石須 秀知

(文責：東 義詔)

ナミキソウ (シソ科) *Scutellaria strigillosa* Hemsl.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

海岸整備により生育環境が縮小し、個体数も減っている。しかし、今後の砂浜攪乱後によっては個体群が再生する可能性もある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町北部、入善町北部、黒部市北部、富山市北部、氷見市南東部。

生態・生息環境

海岸の砂地に生える多年草。細長い地下茎で植える。花期は6～7月。

生存への脅威（減少の要因）

海岸整備による砂浜海岸の縮小。

保全対策

生育地の保護。



撮影：石澤 岩央

(文責：孫田 佳奈)

オニシオガマ (ハマウツボ科) *Pedicularis nipponica* Makino

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内での生育地が限定されており、環境変化によって個体数が減少する恐れがある。分布の西限に近い。

国内の分布状況

本州（青森県～石川県の日本海側）

県内の分布状況

朝日町南東部、黒部市南東部、南砺市南西部。

生態・生息環境

深山の湿った林縁谷間に生育する多年草。花期は8～9月。

生存への脅威（減少の要因）

道路工事、園芸採取、踏みつけ、産地局限。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物、朝日・五箇山・医王山県立自然公園の指定植物



撮影：長井 幸雄

(文責：太田 道人)

アサギリソウ (キク科) *Artemisia schmidtiana* Maxim.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では生育地が極めて限定されている。葉が美しく、観賞用の山野草、観葉植物として採取されることがあるため、著しく減少するおそれがある。

国内の分布状況

北海道、本州（北陸・東北地方）。

県内の分布状況

立山町（東部）。

生態・生息環境

亜高山、高山帯の岩場に生育する。花期は7～8月。

生存への脅威（減少の要因）

園芸採取。

保全対策

乱獲の抑制。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



撮影：早瀬 裕也（北海道にて）

(文責：中田 政司)

シュウブンソウ (キク科) *Aster verticillatus* (Reinw.) Brouillet, Semple et Y.L.Chen

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が限られており、個体数も減少している。

国内の分布状況

本州（関東以西）、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

富山市（中部）、氷見市（北部）。

生態・生息環境

山地の林床や林縁に生える多年草。花期は、8～10月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、里山の管理放棄。

保全対策

生育地の保全。



撮影：早瀬 裕也

(文責：中田 政司)

オケラ (キク科) *Actractylodes ovata* (Thunb.) DC.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

この十数年でさらに絶滅した箇所が複数確認されるなど生育地が徐々に少なくなっている。生育を確認している箇所でも個体数が減少しており、全体としての個体数は著しく減少している。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

上市町(文献)、立山町(文献)、富山市(一部絶滅)、射水市(一部絶滅)、高岡市、南砺市(文献、写真)、氷見市(一部絶滅)。

生態・生息環境

低山帯の明るい雑木林や、やや乾いた草地に生育する雌雄異株の多年草。花期は9~10月。

生存への脅威(減少の要因)

里山の管理放棄による自然遷移、園芸採取。

保全対策

里山等の管理維持、採取の抑制。



撮影：富山市科学博物館

(文責：石澤 岩央)

ホソバムカシヨモギ (キク科) *Erigeron acris* L. var. *linearifolius* (Koidz.) Kitam.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

県内の生育地が極めて限定されて、個体数も少ないため、生育環境の悪化により絶滅のおそれがある。

国内の分布状況

本州、四国。

県内の分布状況

魚津市南部、上市町東部、立山町。

生態・生息環境

山地のやや乾いた草地や砂礫地に生える多年草。花期は7~8月。

生存への脅威(減少の要因)

産地局限、自然遷移。

保全対策

生育環境の保護管理。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



撮影：石須 秀知

(文責：孫田 佳奈)

ヤナギタンポポ (キク科) *Hieracium umbellatum* L.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が限られ、個体数も少ないとから絶滅のおそれがある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国。

県内の分布状況

立山町東部、富山市南東部。

生態・生息環境

山地の湿地や湿った草原に生える多年草。花期は8~9月。

生存への脅威(減少の要因)

産地局限、湿地開発。

保全対策

生育地の保全。



撮影：大原 隆明

(文責：長井 幸雄)

オオニガナ (キク科)

Nabalus tanakae Franch. et Sav. ex Y.Tanaka et Ono

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧

環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

里山の管理放棄などで生育地の植生遷移が進行し、多くの生育地が消失しつつある。

国内の分布状況

本州（青森県～京都府）。

県内の分布状況

朝日町北西部、入善町北部、黒部市西部、魚津市北部、上市町中部、富山市南部・西部、射水市南部、氷見市南東部、小矢部市南東部、南砺市北部・中部・西部。

生態・生息環境

丘陵地の明るい湿地に生える多年草。花期は9～11月。

生存への脅威（減少の要因）

土地開発、管理放棄、自然遷移。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



撮影：太田道人

(文責：石須秀知)

ヤブレガサ (キク科)

Syneilesis palmata (Thunb.) Maxim.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧

環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が限られ、個体数も少ないとから、絶滅の危険が増大している。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市南部。

生態・生息環境

山林の斜面などに生える多年草。花期は7～10月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、山林開発、園芸採取。

保全対策

生育地の保護。



撮影：太田道人

(文責：佐藤卓)

タカネコウリンカ (キク科)

Tephroseris flammea (Turcz. ex DC.) Holub subsp. *flammea*

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧

環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

県内での生育地が限定されており、環境変化によって個体数が著しく減少する恐れがある。

国内の分布状況

本州（中部地方）。

県内の分布状況

朝日町、黒部市。

生態・生息環境

高山帯の草地に生育する多年草。花期は8月。

生存への脅威（減少の要因）

気候変動。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



撮影：長井幸雄

(文責：早瀬裕也)

サワオグルマ (キク科) *Tephroseris pierotii* (Miq.) Holub

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が少なく、個体数も少ない。生育地が開発の対象となりやすく生育条件の悪化が懸念される。

国内の分布状況

本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

富山市南西部、上市町南西部、氷見市、小矢部市南部。

生態・生息環境

山地の日当たりのよい湿地に生える多年草。花期は4~6月。

生存への脅威（減少の要因）

湿地開発、湿地の自然遷移。

保全対策

生育地の保護、生育環境の保全。



撮影：石須 秀知

(文責：鈴木 浩司)

オトコヨウゾメ (ガマズミ科) *Viburnum phlebotrichum* Siebold et Zucc.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

日本海側の分布の北限付近にあたる。県内の生育地が限られ個体数も少ない。生育地が人里に近いため、開発によって消滅するおそれがある。

国内の分布状況

本州（宮城県、新潟県以南）、四国、九州。

県内の分布状況

射水市南部、高岡市北部。

生態・生息環境

夏緑樹林のやや乾いた明るい林床や林縁に生える落葉低木。花期は4~5月。果実は9~11月に熟す。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、森林伐採。

保全対策

生育地の保護。



撮影：早瀬 裕也（長野県にて）

(文責：石須 秀知)

コウグイスカグラ (スイカズラ科) *Lonicera ramosissima* Franch. et Sav. ex Maxim. var. *ramosissima*

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

本県は分布の北限付近に位置する。おもに石灰岩地周辺に生育するため産地が限られる。生育地での個体数が少ないため、道路工事による生育環境の変更や観賞用の山野草としての採取により、絶滅のおそれがある。

国内の分布状況

本州（新潟県、宮城県以南）の山地。

県内の分布状況

魚津市南東部、富山市南西部、砺波市南部。

生態・生息環境

山地の落葉広葉樹林の林床や林縁に生える落葉低木。おもに石灰岩地周辺に出現する。花期は4~5月。

生存への脅威（減少の要因）

園芸採取、ダム建設、道路工事。

保全対策

生育地の保護、園芸採取の規制。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物、僧ヶ岳・五箇山・白木水無県立自然公園の指定植物。



撮影：石須 秀知

(文責：石須 秀知)

ヒュウガセンキュウ (セリ科)

Angelica tianmuensis Z.H.Pan et T.D.Zhuang var. *minamitanii* (T.Yamaz.) K.Ohashi et H.Ohashi

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧

環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 IA 類

選定理由

生育地が県東部の一部に限られており個体数も減少している。一部は町が管理し比較的安定しているが、河川下流域の生育地は荒廃が著しい。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

入善町、黒部市。

生態・生息環境

低(山)地の湿った場所に生育する多年草。花期は8~9月。

生存への脅威（減少の要因）

河川工事、自然遷移。

保全対策

生育地の保全。

特記事項

宮崎県で最初に確認され地域固有と考えられたことから環境省カテゴリーは高くなっている。近年他県でも確認されており、本県では長らくオオバセンキュウ *Angelica genuflexa* Nutt. の一型ではないかと考えられてきた経緯がある。

文献

114)

撮影：早瀬 裕也

(文責：石澤 岩央)

ツボクサ (セリ科)

Centella asiatica (L.) Urb.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧

環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

日本海側の分布の北限が北陸であり本県で報告されている生育地は少ない。地面を這う茎の節から根を出し植えるが寒さに弱く、現状不明の生育地もあり自然災害（土砂崩れ）や舗装工事などにより生育地が消滅するおそれがある。

国内の分布状況

本州（東北南部・北陸以西）、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

黒部市中部（文献）、砺波市南部（文献）、氷見市北部・南部。

生態・生息環境

山野の平地、田の畔、河川横などの開けた場所に生育する多年草。花は5~8月頃。

生存への脅威（減少の要因）

開発、道路工事、自然災害（土砂崩れなど）

保全対策

生育地の保全。

撮影：大原 隆明

(文責：石澤 岩央)

ドクゼリ (セリ科)

Cicuta virosa L.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧

環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では生育地がやや限定されており、個体数も少ない。多くの生育地では減少傾向にあるが、河川敷の一部では増えている。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

入善町北西部、上市町中西部、富山市西部、高岡市中部、氷見市東部。

生態・生息環境

池沼や湿地、水路沿いなどに生える大形の多年草で、花期は6~9月である。葉や茎を裂くといいやな臭いのする猛毒植物。

生存への脅威（減少の要因）

池沼や湿地の開発、水路の改修。

保全対策

生育環境の保護管理。



撮影：大原 隆明

(文責：太田 道人)

ハマゼリ (セリ科) *Cnidium japonicum* Miq.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内における生育地が極めて少なく、海岸整備などの環境変化により減少しつつある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

魚津市北西部、入善町北部、高岡市北東部、氷見市東部。

生態・生息環境

海岸の砂地にはえる多年草。花期は8~10月。

生存への脅威（減少の要因）

海岸侵食、護岸堤防造成、遷移進行。

保全対策

生育地の保護、生育環境の保全。



(文責：鈴木 浩司)

ムカゴニンジン (セリ科) *Sium ninsi* L.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が限定され、個体数も少ない。近年、植生遷移で周囲部から他の植物が進入して生育環境が変化し存続が危ぶまれる。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

入善町北部、黒部市東部、富山市南西部、射水市南部。

生態・生息環境

湿地や水中に生育する多年草。花期は8~11月。

生存への脅威（減少の要因）

池沼・湿地開発、土地造成、植生遷移。

保全対策

生育地の保全。

(文責：長井 幸雄)

ヒメサユリ (ユリ科) *Lilium rubellum* Baker

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

1980年に朝日町の自己所有の山で採取し自宅栽培されていた標本を分布根拠としているが、1987年頃の現地調査では再発見できず、現在でも確認できていない。現存確認ができない限りカテゴリーを判定することは不可能であり、現地の植生遷移が進行して草原が森林化していることから現存確認はさらに難しくなっている。

国内の分布状況

山形県、福島県、新潟県。

県内の分布状況

朝日町（1980年）。

生態・生息環境

山地、深山の草地に生育する多年草。花期は5~6月。

生存への脅威（減少の要因）

山地の薪炭林や萱場の管理放棄、遷移進行、園芸採取。

保全対策

生育地の管理、採取の抑制。



(文責：石須秀知)

ホトトギス (ユリ科) *Tricyrtis hirta* (Thunb.) Hook.

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では生育地が数カ所に限定され、かつ生育個体数が少ない。花が美しいため山野草として採取の対象となりやすい。ただし、充分な確認調査が行われていないのでカテゴリーを判定するだけの情報がない。

国内の分布状況

北海道（西南部）、本州、四国、九州。

県内の分布状況

魚津市南部、富山市北西部、高岡市北部、高岡市西部、砺波市北東部。

生態・生息環境

丘陵地の林縁や半陰地のやや湿ったところに生育する多年草。花期は8~10月。

生存への脅威（減少の要因）

園芸採取、自然遷移（竹林化）。

保全対策

採取の抑制、里山の保全。

(文責：鈴木 浩司)

ヒメムヨウラン (ラン科) *Neottia acuminata* Schltr.

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧II類

選定理由

文献記録のみで標本がなく、県内分布の実態が不明である。

国内の分布状況

北海道、本州（中部地方以北）。

県内の分布状況

富山市南東部（文献より）。

生態・生息環境

亜高山帯の針葉樹林に生育する葉緑素のない菌従属栄養植物。花期は6~8月。

生存への脅威（減少の要因）

森林伐採、踏みつけ。

保全対策

生育地の保全。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

(文責：長井 幸雄)

シロガヤツリ (カヤツリグサ科) *Cyperus pacificus* (Ohwi) Ohwi var. *pacificus*

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では過去に文献記録はみられたが、2017年に氷見市のため池で生育が確認され、確実な生育が明らかになった。この生育地はその後、太陽光発電建設のため埋め立てられ消滅した。しかし、本種は埋土種子を作り干上がった池底に出現することから、今後も同様の環境に出現する可能性が高く、今後の調査を要する。



撮影：大原 隆明

国内の分布状況

北海道、本州、四国。

県内の分布状況

入善町（文献）、氷見市。

生態・生息環境

平地や丘陵地の湿地に生える。干上がったため池底に大量発生することがある。果期は8~10月。

保全対策

ため池の保全、生育地の保護（再発見の場合）。

(文責：大原 隆明)

オオタチカモジ (イネ科) *Elymus x mayebaranus* (Honda) S.L.Chen

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

富山県植物誌には滑川市の産地記述があるが、県内産の標本はなく、現存産地も知られていない。本種はカモジグサとミズタカモジの自然交雑種だが、本県で未記録のミズタカモジの存在を示す証拠で重要であることから、さらに情報収集すべきと思われる。

国内の分布状況

本州、九州。

県内の分布状況

滑川市（文献）。

生態・生息環境

平地のやや湿性の草地に生育。

生存への脅威（減少の要因）

生育地の開発、遷移進行。

保全対策

開発の抑制、生育地の保全。

文献

129)

(文責：大原 隆明)

タチネズミガヤ (イネ科) *Muhlenbergia hakonensis* (Hack.) Makino

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

文献記録のみで、現状不明である。あまり人目をひかない植物であるため、さらなる情報収集が必要。

国内の分布状況

本州（関東以西）、四国、九州。

県内の分布状況

富山市南部。

生態・生息環境

山地の林中に生育。

生存への脅威（減少の要因）

森林開発、遷移進行。

保全対策

開発の抑制。

(文責：石須 秀知)

マルバノキ (マンサク科) *Disanthus cercidifolius* Maxim.

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

富山県は分布の北限に近く、生育地が極めて限定されている。1980 年代に採取されているが、その後の自生を確認できていない。花が美しいために観賞用の樹木として採取される。

国内の分布状況

本州（中部地方、近畿地方、広島県）、四国（高知県）。

県内の分布状況

富山市南部（現状不明）。

生態・生息環境

温帯下部の渓谷にまれに生える落葉低木で、秋に美しく紅葉する。花期は 10~11 月。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限、園芸採取。

保全対策

生育地の保護、乱獲の抑制。



撮影：中田 政司（広島県にて）

(文責：太田 道人)

シロバナノヘビイチゴ (バラ科) *Fragaria nipponica* Makino

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

1983年発行の富山県植物誌に2カ所の産地が示されているが、その後、現地を含めて県内には生育情報がない。現存確認ができない限りカテゴリーを判定することは不可能である。

国内の分布状況

本州（宮城県～中部地方）、屋久島。

県内の分布状況

黒部市南部（文献記録のみ）、魚津市南部（文献記録のみ）。

生態・生息環境

亜高山帯の林縁にはえる多年草。花期は5～7月。

生存への脅威（減少の要因）

生育地の開発、遷移進行。

保全対策

生育地の保全。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域内指定植物。



撮影：早瀬 裕也（長野県にて）

（文責：佐藤 卓）

ツクバネガシ (ブナ科) *Quercus sessilifolia* Blume

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

各種図鑑類では本県は本種の分布の日本海側における北限とされているが、県内に収蔵されている富山県産標本を再検討したところ、すべてが本種とアカガシの交雑種とされるオオツクバネガシと同定されるものであった。ツクバネガシの本県における分布については今後の調査を要する。

国内の分布状況

本州（宮城県、富山県以南）、四国、九州。

県内の分布状況

富山市（伝聞情報）。

生態・生息環境

低山地斜面に生育し、常緑広葉樹林の林冠を構成する。

生存への脅威（減少の要因）

産地局限。

保全対策

生育地の保護。

（文責：大原 隆明）

イワナンテン (ツツジ科) *Leucothoe keiskei* Miq.

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

文献情報はあるが標本が現存せず評価できない。確認されれば、分布の北限となる。

国内の分布状況

本州の太平洋側（関東地方南部、中部地方南部、紀伊半島）。

県内の分布状況

南砺市中西部（文献記録のみ）。

生態・生息環境

山地の岩場に下垂して生育する常緑低木。花期は7月中旬～8月中旬。

生存への脅威（減少の要因）

開発（特に森林伐採を伴うもの）。

保全対策

生育地の保護。

（文責：太田 道人）

ミヤマムグラ (アカネ科)

Galium paradoxum Maxim. subsp. *franchetianum* Ehrend. et Schönb.-Tem.

富山県 2025 カテゴリー：情報不足

環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

文献記録だけで、標本がなく、県内の分布の実態が不明である。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市南東部（文献より）、富山市南東部（文献より）。

生態・生息環境

深山の林内に生育する多年草。花期は7～8月。

生存への脅威（減少の要因）

植生遷移。

保全対策

生育地の保全。

撮影：太田 道人（大分県にて）



（文責：長井 幸雄）

タヌキモ (タヌキモ科)

Utricularia japonica Makino

富山県 2025 カテゴリー：情報不足

環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

文献記録、目撃情報のみであり、タヌキモ類としてはイヌタヌキモ *Utricularia australis* R.Br. とノタヌキモ *Utricularia aurea* Lour. があるほかは確実な生育情報がない。

国内の分布状況

本州、九州。

県内の分布状況

黒部以北西部（文献）、射水市南部（目撃）、小矢部市中西部（目撃）。

生態・生息

古い池に浮遊する多年草。花期は7～9月。

（文責：石澤 岩央）

イワインチン (キク科)

Chrysanthemum rupestre Matsum. et Koidz.

富山県 2025 カテゴリー：情報不足

環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

黒部峡谷などで採集されているが、オオイワインチンと混同されている可能性があり、細胞分類学的な再検討と分布の再調査が必要である。

国内の分布状況

中部地方以北の本州。

県内の分布状況

黒部市（南部）から標本があるが、染色体数不明。

生態・生息環境

高山の岩場、岩礫地、草地などに生育する多年草。花期は8～9月。

生存への脅威（減少の要因）

園芸採取、環境の変化（遷移進行、岩盤の崩落、気候変動）、産地局限。

保全対策

自生地の保護、乱獲の抑制。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



撮影：早瀬 裕也（長野県にて）

（文責：中田 政司）

=参考・引用文献=

- 1) 東 義詔・不破光大・草間 啓・川窪伸光・稻村 修, 2022. 富山県朝日町宮崎漁港の船揚場斜路で見つかったアマモ群落. 富山県中央植物園研究報告, 27 : 29–33.
- 2) 東 義詔・川窪伸光, 2016. 富山県氷見市小境海岸産ウミクサ類の生育状況. 富山県中央植物園研究報告, 22 : 1–8.
- 3) 東 義詔・川住清貴・川窪伸光, 2017. 富山県氷見市小境海岸で分布確認された一年生アマモの形態と生態. 富山県中央植物園研究報告, 23 : 1–8.
- 4) 東 義詔・川住清貴・川窪伸光, 2018. 富山県氷見市小境海岸で採集された漂流スゲアマモ. 富山県中央植物園研究報告, 23 : 37–40.
- 5) 土肥行雄, 1993. 表紙写真説明 シロバナエンレイソウ(別名 ミヤマエンレイソウ). 富山県植物友の会会誌, 34 : 口絵最終ページ.
- 6) 土肥行雄, 1998. 改訂 立山の花. 立山の花グループ. 204pp.
- 7) 海老原 淳(著)・日本シダの会(企画・協力), 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 I. 学研プラス. 東京. 450pp.
- 8) 海老原 淳(著)・日本シダの会(企画・協力), 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 II. 学研プラス. 東京. 450pp.
- 9) 藤野勇馬・榎本博之, 2023. 福井県で確認されたイイヌマムカゴ(*Platanthera iinumae* (Makino) Makino)の生育地と個体数(2011–2022)の記録. Ciconia(福井県自然保護センター研究報告), 26 : 197–205.
- 10) 藤田大介・高山茂樹, 1999. 富山県魚津市地先における海草ウミヒルモとコアマモの生育記録(短報). 富山県水産試験場研究報告, 11 : 67–70.
- 11) 藤田将人・増渕佳子・岩田朋文・太田道人, 2019. 富山市山岳域自然調査報告(2018). 富山市科学博物館研究報告, 43 : 53–58.
- 12) 藤田将人・吉岡 翼・岩田朋文・太田道人, 2018. 富山市山岳域自然調査報告(2017). 富山市科学博物館研究報告, 42 : 61–64.
- 13) 藤田将人・吉岡 翼・太田道人, 2017. 富山市山岳域自然調査報告(2016). 富山市科学博物館研究報告, 41 : 59–63.
- 14) 福光町教育委員会(編), 1965. 医王の自然. 福光町教育委員会. 52pp.
- 15) 福光町教育委員会(編), 1971. 小矢部川峡の自然. 福光町教育委員会. 92pp.
- 16) 福岡誠行・黒崎史平, 1985. 本州西部植物地理雑記 5. 頌栄短期大学研究紀要, 17 : 61–71.
- 17) 岐阜県植物誌調査会(編著), 2019. 岐阜県植物誌. 文一総合出版. 東京. 968pp.
- 18) 早瀬裕也, 2019. 富山県新産のスズカマムシグサ(サトイモ科). 富山県中央植物園研究報告, 25 : 27–30.
- 19) 早瀬裕也・大原隆明, 2021. 富山県におけるスズカマムシグサ(サトイモ科)の自生地. 富山県中央植物園研究報告, 26 : 37–43.
- 20) 早瀬裕也・篠笥公隆・姫野諒太郎・岩坪美兼, 2018. 富山県希少植物 3 種(クロヤツシロラン、ホンゴウソウ、マイヅルテンナンショウ)の新産地. 富山の生物, 57 : 64–69.
- 21) 早瀬裕也・若杉美仁・石澤岩央, 2025. 富山県新産のエンシュウムヨウラン. 富山県中央植物園研究報告, 30 : 37–43.

- 22) 早瀬裕也・和久井彬実・中田政司, 2024. 富山県産絶滅危惧種チョウジソウ(キヨウチクトウ科)の生息域外保全と挿し木増殖. 富山県中央植物園研究報告, 29 : 55–61.
- 23) 氷見栄成・河野博文・岩坪美兼, 2009. 富山県におけるノダイオウとマダイオウの産地. 富山の生物, 48 : 55–57.
- 24) 本多啓七, 1949. 富山県東北部植物誌(贋写版). 95pp.
- 25) 本多啓七, 1952. 日本北アルプスに於ける高山帶の植物相とその考察. 富山県立魚津高等学校 あゆみ, 3 : 56–62.
- 26) 堀与治, 1996. 福光町 自然植物誌. 自費出版. 123pp.
- 27) 堀与治, 2001. 砺波地方の植物(分布・教材化). 自費出版. 236pp.
- 28) 稲田哲夫, 1976. 綿打池の湿地植物. 富山県高等学校教育研究会生物部会 フィールド研究会会報, 2 : 36–40.
- 29) 稲田哲夫, 1978. 金山丘陵の湿地植物. 富山県高等学校教育研究会生物部会 フィールド研究会会報, 3 : 44–53.
- 30) 稲田哲夫・小路登一, 1976. 日の宮神社の社寺林. 富山県高等学校教育研究会生物部会 フィールド研究会会報, 2 : 32–35.
- 31) 石岡真知子, 1974. 金沢大学理学部生物学科卒業論文「井口村丸山の植物相」. 金沢大学理学部生物学科. 金沢. 25pp.(贋写刷)
- 32) 石澤岩央・太田道人・大原隆明・中田政司(編), 2021. 富山県植物誌改訂版編集のための維管束植物チェックリスト. 富山県植物誌改訂版編集委員会. 富山. 138 pp.
- 33) 石須秀知, 1999. 富山県フロラに追加される植物. 富山市科学文化センター研究報告, 22 : 151–152.
- 34) 石須秀知, 2000. 富山県フロラに追加される植物 II. 富山市科学文化センター研究報告, 23 : 175.
- 35) 石須秀知, 2004. 片貝川流域の維管束植物相 –1992~2003 年の現地調査から— <付録>片貝川流域維管束植物チェックリスト. 魚津市立博物館紀要, 6 : 1–45.
- 36) 石須秀知, 2008. 富山県魚津市角川流域の植物チェックリスト. 富山の生物, 47 : 11–24.
- 37) 石須秀知・野口 泉・松村 勉・佐藤 卓, 2008. 富山県魚津市角川流域 5 池沼の植物相. 富山の生物, 47 : 25–31.
- 38) 岩槻邦男(編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 平凡社. 東京.
- 39) 泉 治夫, 1985. 富山県新記録の植物二種について. JANOLUS, 62 : 2–3.
- 40) 泉 治夫, 1988. 有磯高校に生育する雑草. JANOLUS, 75 : 9–16.
- 41) 泉 治夫, 2011. 二上山の植物相. 二上山の自然と文化. pp. 1–36. 二上山総合調査会. 高岡.
- 42) 株式会社建設技術研究所, 2013. 平成 25 年度渓流環境基図作成 調査編 第 II 編ヒアリング資料. 国土交通省 北陸地方整備局 立山砂防事務所. 立山.
- 43) 株式会社建設技術研究所, 2016. 平成 27 年度河川水辺の国勢調査 黒部川水辺現地調査(植物)業務中間報告書(概要版). 国土交通省 北陸地方整備局 黒部河川事務所. 黒部.
- 44) 株式会社建設技術研究所, 2017. 平成 28 年度河川水辺現地調査(魚類・底生動物・植物・河川環境基図)業務報告書「第IV編 植物調査(小矢部川水系)編」. 国土交通省北陸地方整備局富山河川国道事務所. 富山.
- 45) 株式会社建設技術研究所, 2018. 一般国道 41 号大沢野富山南道路動植物調査.過年度既影響予測評

- 価結果の更新・補足調査の実施結果について. 国土交通省 北陸地方整備局 富山河川国道事務所. 富山.
- 46) 株式会社建設環境研究所(菊池雄一), 2015. 平成 26 年度黒瀧川・小黒部谷環境調査業務植物調査結果. 国土交通省 北陸地方整備局 黒部河川事務所. 黒部.
- 47) 株式会社建設環境研究所, 2019. 平成 30 年度河川水辺現地調査(底生動物、両生類・爬虫類・哺乳類、陸上昆虫類等、基図)業務. 常願寺川： 河川環境基図作成調査アドバイザー資料. 国土交通省 北陸地方整備局 富山河川国道事務所. 富山.
- 48) 株式会社国土開発センター, 2022. 令和 3 年度黒部川流域水辺現地調査(両生類・爬虫類等)他業務 砂防環境調査 調査結果報告. 砂防環境調査 調査結果報告資料【修正版】～植物調査～(含.祖母谷第 4 号堰堤). 国土交通省 北陸地方整備局 黒部河川事務所 宇奈月ダム管理所. 黒部.
- 49) 角野康郎, 1994. 日本水草図鑑. 文一総合出版. 東京. 179pp.
- 50) 角野康郎, 2010. オオカワデシャの生態と分布の現状. 水草研究会誌, 93 : 23–29.
- 51) Kadota, Y. & Nagase, H., 1988. A new species of *Cirsium* from Hida province, Japan. Bull. Natn. Sci. Mus., Tokyo, Ser. B, 14(1) : 9–20.
- 52) Kameyama, Y., Moriwaki H., Suzuki Y. & Fujiyoshi M., 2024. *Eclipta thermalis*, a previously common weed, threatened by the expansion of the exotic congener *E. alba* in Japanese rice paddies. Ecol. Res., 39(3) : 303–317.
- 53) 環境庁(編), 1979. 第 2 回自然環境保全基礎調査特定植物群落調査報告書「日本の重要な植物群落 北陸版」. 大蔵省印刷局. 東京.
- 54) 環境庁(編), 1988a. 第 3 回自然環境保全基礎調査(緑の国勢調査)特定植物群落調査報告書(追加調査・追跡調査)「日本の重要な植物群落 2 [8]. 北陸版 富山県・石川県・福井県」. 大蔵省印刷局. 東京.
- 55) 環境庁(編), 1988b. 第 3 回自然環境保全基礎調査 植生調査報告書(富山県). 環境庁. 東京. 194pp.
- 56) 環境省(編), 2015. レッドデータブック 2014 –日本の絶滅のおそれのある野生生物–8 植物 I (維管束植物). ぎょうせい. 東京.
- 57) 環境省. 2025a. 国立・国定公園における植物の保護対策について(指定植物).
URL : https://www.env.go.jp/nature/np/plant_prot/index.html(2025 年 1 月 10 日確認).
- 58) 環境省. 2025b. レッドリスト・レッドデータブック.
URL : <https://www.env.go.jp/nature/kisho/hozen/redlist/>(2025 年 1 月 10 日確認).
- 59) 國土交通省. 2007. 河川環境データベース 河川水辺の国勢調査.
URL : <https://www.nilim.go.jp/lab/fbg/ksnkankyo/index.html>(2025 年 1 月 10 日確認).
- 60) Kuo, J., Kanamoto, Z., Izumi, H. & Mukai, H., 2006. Seagrasses of the genus *Halophila* Thouars (Hydrocharitaceae) from Japan. Acta Phytotax. Geobot, 57(2) : 129–154.
- 61) 倉田 悟・中池敏之(編)・日本シダの会(企画), 1979. 日本のシダ植物図鑑 分布・生態・分類 1. 東京大学出版会. 東京. 628pp.
- 62) 倉田 悟・中池敏之(編)・日本シダの会(企画), 1981. 日本のシダ植物図鑑 分布・生態・分類 2. 東京大学出版会. 東京. 648pp.
- 63) 倉田 悟・中池敏之(編)・日本シダの会(企画), 1983. 日本のシダ植物図鑑 分布・生態・分類 3. 東

- 京大学出版会. 東京. 728pp.
- 64) 倉田 悟・中池敏之(編)・日本シダの会(企画), 1985. 日本のシダ植物図鑑 分布・生態・分類 4. 東京大学出版会. 東京. 850pp.
- 65) 倉田 悟・中池敏之(編)・日本シダの会(企画), 1987. 日本のシダ植物図鑑 分布・生態・分類 5. 東京大学出版会. 東京. 816pp.
- 66) 倉田 悟・中池敏之(編)・日本シダの会(企画), 1990. 日本のシダ植物図鑑 分布・生態・分類 6. 東京大学出版会. 東京. 881pp.
- 67) 倉田 悟・中池敏之(編)・日本シダの会(企画), 1994. 日本のシダ植物図鑑 分布・生態・分類 7. 東京大学出版会. 東京. 409pp.
- 68) 倉田 悟・中池敏之(編)・日本シダの会(企画), 1997. 日本のシダ植物図鑑 分布・生態・分類 8. 東京大学出版会. 東京. 473pp.
- 69) 倉田正観・阪口翔太・廣田 峻・倉島 治・陶山佳久・西田佐知子・伊藤元己, 2021. オオバナミツバフウロはミツバフウロの変種なのか? 日本植物分類学会第 20 回大会要旨 pp. 29.
- 70) 黒崎史平・里見信生, 1968. 富山県大岩川流域の植物地理学的研究. 金沢大学理学部付属植物園年報, 1 : 14–46.
- 71) 前田利保(刊), 1853. 本草通串證図.
- 72) 増田恭次郎, 2017. 立山の花めぐり. 自費出版. 293pp.
- 73) 松村 航, 2017. 平成 28 年度富山湾リモートセンシング調査事業報告書. 公益財団法人環日本海環境協力センター. 富山. 99pp.
- 74) 松村 航, 2018. 平成 29 年度富山湾リモートセンシング調査事業報告書. 公益財団法人環日本海環境協力センター. 富山. 55pp.
- 75) 宮脇 昭(編著), 1977. 富山県の植生. 富山県. 289pp.
- 76) 盛 一雄, 1985. 船岡用水の「マルバノキ」. 富山県植物友の会会誌, 26 : 128.
- 77) 本瀬晴雄・本瀬 薫, 2015. 平成 25・26 年度「杉沢の沢スギ」林の生物相調査. 入善町教育委員会. 入善. 111pp.
- 78) 邑田 仁(監修)・米倉浩司(著), 2012. 日本維管束植物目録. 北隆館. 東京. 379pp.
- 79) 長井真隆, 1964. 吉城寺湿生植物群. くろべ植物友の会会誌, 1 : 23–26.
- 80) 長井真隆, 1992. 黒部市の水生植物目録. 日本黒部学会研究紀要「黒部」, 3 : 17–30.
- 81) 長井真隆, 1994. とやま植物誌 とやまライブラリー4. シー・エー・ピー. 富山. 247pp.
- 82) 長井真隆, 1996. 富山県新記録のエゾミクリについて. 富山の生物, 35 : 55–56.
- 83) Nagai, S., Ohta, H. & Shoji, T. 1979. The vegetation of Mt. Sogatake, the Japan North Alps. Bull. Toyama Sci. Mus., 1 : 45–90.
- 84) 長井真隆・渡辺 信・田中 普, 1993. 蛇ヶ島の高等植物目録. 富山の生物, 32 : 10–17.
- 85) 長井幸雄, 1996. 田中忠次氏採集の植物標本. 富山の生物, 35 : 37–44.
- 86) 長井幸雄, 2004. 富山県植物雑記(8)南保富士の植物相の概況. 富山県高等学校教育研究会生物部会 生物部会報, 27 : 9–13.
- 87) 長井幸雄, 2005. 富山県植物雑記(9)城ヶ平山の植物相の概況. 富山の生物, 44 : 45–54.
- 88) 長井幸雄, 2006. 富山県植物雑記(10)小矢部園芸高等学校の野生植物. 富山県高等学校教育研究会生物部会 生物部会報, 29 : 1–5.

- 89) 長井幸雄, 2007a. 富山県植物雑記(11)射水市小島の野生植物. 富山の生物, 46 : 49–56.
- 90) 長井幸雄, 2007b. 富山県植物雑記(12)有磯高等学校の野生植物. 富山県高等学校教育研究会生物部会 生物部会報, 30 : 1–4.
- 91) 長井幸雄・太田道人, 1996. 富山県産ユリ科植物の分布. 富山市科学文化センター研究報告, 19 : 9–25.
- 92) 長野県植物目録編纂委員会, 2017. 長野県植物目録－長野県植物誌改訂に向けてのチェックリスト－(2017年版). 長野県植物目録編纂委員会. 長野. 256pp.
- 93) 中川定一, 1992. 私の植物ノート(第2集). 自費出版. 49pp.
- 94) 中川定一, 2000. 氷見市におけるイトモ生育地と同定上の問題点. 富山の生物, 39 : 83–84.
- 95) 中川定一, 2003. 氷見市国見のオオイヌノハナヒゲとエゾリンドウ生育地の概要. 富山の生物, 42 : 81–83.
- 96) 中川定一・太田道人, 2004. ヤナギヌカボを富山県のフロラに追加する. 富山市科学文化センター研究報告, 27 : 73.
- 97) 中島太一, 1964. 観察行記－日誌抄－. くろべ植物友の会会誌, 1 : 27.
- 98) 中田政司, 2007. 富山県産ラン科植物の記録. 富山の生物, 46 : 63–64.
- 99) 中田政司・木内静子, 2008. 魚津市のため池に二倍体クロモが生育. 富山の生物, 47 : 37–38.
- 100) 中田政司・長井真隆, 1999. VI-1.水生植物部門. 常願寺川流域生態系調査報告書 平成8・9年度 雄山・常願寺地区土地改良事業計画特殊調査. pp. 37–62. 富山県富山農地林務事務所・富山県水生植物研究会.
- 101) 中田政司・長井真隆, 2006. 水生植物部門. 黒部川合口流域生態系調査報告書. pp.103–139. 富山県魚津農地林務事務所・富山県水生生物研究会・水土里ネット富山.
- 102) 中田政司・長井真隆, 2009. 水生植物部門. 小矢部川流域生態系調査報告書. pp.83–123. 富山県高岡農林振興センター・富山県水生生物研究会・水土里ネット富山.
- 103) 中田政司・長井真隆・吉田 孝・砂田龍次, 2003. 水生植物部門. 庄川合口ダム流域生態系調査報告書. pp.67–118. 富山県砺波農地林務事務所・富山県水生植物研究会.
- 104) 中田政司・太田道人・酒井初江, 2009. 黒部市で採集されていたセンニンモ. 富山の生物, 48 : 51–54.
- 105) 中田政司・竹内 基, 1998. 氷見市大境産サンインギク個体群の変異. 富山県中央植物園研究報告, 3 : 1–16.
- 106) 鳴橋直弘・長谷川匡弘, 2020. 大阪市立自然史博物館 収蔵資料目録 51 「バラ科キイチゴ属標本目録」. 大阪市立自然史博物館. 大阪. 58pp. + 図版 1–40.
- 107) 鳴橋直弘・梅本康二・若杉孝生, 2000. オオユリワサビ, その生活と分類学的位置. 植物地理・分類研究, 482 : 141–148.
- 108) 日本植物分類学会(編), 1993. レッドデータブック－日本の絶滅危惧植物－. 農村文化社. 東京. 143pp.
- 109) 大橋広好・門田裕一・邑田 仁・米倉浩司・木原 浩(編), 2015. 改訂新版 日本の野生植物 1. 平凡社. 東京. 391pp.
- 110) 大橋広好・門田裕一・邑田 仁・米倉浩司・木原 浩(編), 2016a. 改訂新版 日本の野生植物 2. 平凡社. 東京. 381pp.

- 111) 大橋広好・門田裕一・邑田 仁・米倉浩司・木原 浩(編), 2016b. 改訂新版 日本の野生植物 3. 平凡社. 東京. 338pp.
- 112) 大橋広好・門田裕一・邑田 仁・米倉浩司・木原 浩(編), 2017a. 改訂新版日本の野生植物 4. 平凡社. 東京. 348pp.
- 113) 大橋広好・門田裕一・邑田 仁・米倉浩司・木原 浩(編), 2017b. 改訂新版 日本の野生植物 5. 平凡社. 東京. 474pp.
- 114) Ohashi, K., Ohashi, H. & Nata, K., 2024. Systematic relationships among *Angelica tianmuensis* and its related species (Apiaceae). J. Jap. Bot., 99(3) : 133–145.
- 115) Ohba, H., 1993. A note of *Saxifraga nelsoniana*, description of a new variety from Central Honshu, Japan. Notulae ad Plantas Japonicae IV. J. Jap. Bot., 68(6) : 334–338.
- 116) 大田 弘, 1948a. 越中越後国境方面に於ける暖地性植物の分布について. (臘写刷)
- 117) 大田 弘, 1948b. 越中越後国境方面の植物研究 2 越中越後国境方面の植物目録(訂正用). (臘写刷)
- 118) 大田 弘, 1950. 富山県上新川郡大山村有峰植物採集記録. (臘写刷)
- 119) 大田 弘, 1955. 文部省指定 宮崎自然博物館 動物及び植物目録. (臘写刷)
- 120) 大田 弘, 1980. II 植生. 立山カルデラ地域自然環境調査報告書. pp.4–24. 富山県生活環境部. 富山.
- 121) 大田 弘, 1982. 祐延湖周辺の植生. 富山県植物友の会会誌, 23 : 107–119.
- 122) 大田 弘, 1985. 越中・野山の植物(I). 富山県植物友の会会誌, 26 : 1–12.
- 123) 大田 弘, 1986. 越中・野山の植物(II). 富山県植物友の会会誌, 27 : 1–10.
- 124) 大田 弘, 1987. 越中・野山の植物(III). 富山県植物友の会会誌, 28 : 1–8.
- 125) 大田 弘, 1988a. 越中・野山の植物(IV). 富山県植物友の会会誌, 29 : 1–8.
- 126) 大田 弘, 1988b. 鍬崎山の植物. 富山県植物友の会会誌, 29 : 9–12.
- 127) 大田 弘・長津薦尾(著) 朝日町(編), 1984. VII 植生. 朝日町誌 自然編. pp.45–109. 朝日町. 朝日.
- 128) 大田 弘・佐藤 卓・小路登一, 1994. 立山カルデラの植物. 立山カルデラ自然環境基礎調査報告書. 175pp. 富山県. 富山.
- 129) 大田 弘・小路登一・長井真隆, 1983. 富山県植物誌. 廣文堂. 富山. 430pp.
- 130) 太田道人, 1986. 富山県新記録の植物. 富山市科学文化センター研究報告, 9 : 89–90.
- 131) 太田道人(編著). 1987a. 富山市科学文化センター収蔵資料目録 1「進野久五郎植物コレクション」. 富山市科学文化センター. 富山. 222pp.
- 132) 太田道人, 1987b. 富山県新記録の植物 II. 富山市科学文化センター研究報告, 11 : 133–134.
- 133) 太田道人, 1990. 富山県新記録の植物 IV. 富山市科学文化センター研究報告, 13 : 145–146.
- 134) 太田道人(編著), 1991a. 富山市科学文化センター収蔵資料目録 4「長井真隆・吉沢庄作植物コレクション」. 富山市科学文化センター. 富山. 239pp.
- 135) 太田道人, 1991b. 植物. 富山市浜黒崎海岸自然調査報告書. pp.3–30. 富山市科学文化センター. 富山.
- 136) 太田道人, 1991c. 富山県新記録の植物 V. 富山市科学文化センター研究報告, 14 : 149–150.
- 137) 太田道人. 1992. 富山県新記録の植物 VI. 富山市科学文化センター研究報告 15 : 93–94.
- 138) 太田道人, 1993. 富山県新記録の植物 VII. 富山市科学文化センター研究報告, 16 : 107.
- 139) 太田道人, 1994a. 吳羽丘陵の植物. 富山市吳羽丘陵自然環境調査報告. pp.5–67. 富山市科学文化センター. 富山.

- 140) 太田道人, 1994b. 富山県新記録の植物 VIII. 富山市科学文化センター研究報告, 17 : 119–120.
- 141) 太田道人(編著), 1995a. 大田弘植物コレクション. 富山市科学文化センター収蔵資料目録, 8 : 247.
- 142) 太田道人, 1995b. 富山県新記録の植物 IX. 富山市科学文化センター研究報告, 18 : 53–55.
- 143) 太田道人, 1996a. 富山県新記録の植物 X. 富山市科学文化センター研究報告, 19 : 39.
- 144) 太田道人, 1996b. 富山県植物誌発行以降に富山県のフロラに加わった植物. 富山の生物, 35 : 49–52.
- 145) 太田道人, 1997. 富山県新記録の植物 XI. 富山市科学文化センター研究報告, 20 : 103.
- 146) 太田道人, 1999a. 富山県シダ植物チェックリスト. 富山市科学文化センター研究報告, 22 : 115–125.
- 147) 太田道人, 1999b. 富山県新記録の植物 XII. 富山市科学文化センター研究報告, 22 : 149–150.
- 148) 太田道人, 2000. 富山県新記録の植物 XIII. 富山市科学文化センター研究報告, 23 : 173–174.
- 149) 太田道人, 2001. 富山県新記録の植物 15. 富山市科学文化センター研究報告, 24 : 95–96.
- 150) 太田道人(編), 2002a. 富山市科学文化センター収蔵資料目録 15「維管束植物類 シダ(付. 富山県植物分布図集(シダ))」. 富山市科学文化センター. 富山. 218pp.
- 151) 太田道人, 2002b. 富山県新記録の植物 16. 富山市科学文化センター研究報告, 25 : 133–136.
- 152) 太田道人(編), 2003. 富山市科学文化センター収蔵資料目録 16「富山県植物分布図集 被子植物合弁花類(付. 富山県植物分布図集(合弁花類))」. 富山市科学文化センター. 373pp.
- 153) 太田道人, 2004. 富山県新記録の植物 17. 富山市科学文化センター研究報告, 27 : 71.
- 154) 太田道人, 2006. 里山(富山県中央部)の自然環境調査報告書 II 植物・動物・その他編「植物相」. 富山市科学文化センター. 富山. 291pp.
- 155) 太田道人(編), 2007a. 富山市科学文化センター収蔵資料目録 20「被子植物 離弁花類(上巻)」. 富山市科学博物館. 富山. 338pp.
- 156) 太田道人(編), 2007b. 富山市科学博物館収蔵資料目録 21「被子植物 離弁花類(下巻)－マメ科～シユウカイドウ科－」. 富山市科学博物館. 富山. 236pp.
- 157) 太田道人, 2008. 富山県新記録の植物 19. 富山市科学博物館研究報告, 31 : 97–98.
- 158) 太田道人, 2009. 富山県新記録の植物 20. 富山の生物, 48 : 107–108.
- 159) 太田道人(編), 2012. 富山市科学博物館収蔵資料目録 25「被子植物 単子葉類」. 富山市科学博物館. 富山. 305pp.
- 160) 太田道人・石浦邦夫・松久 卓, 2001. 弥陀ヶ原～室堂 立山ルート沿線植生復元状況調査－2. 中部山岳国立公園 立山ルート緑化研究委員会年報, 平成 12 年度 : 8–11.
- 161) 太田道人・松久 卓・石浦邦夫, 2000. 弥陀ヶ原～室堂 立山ルート沿線植生復元状況調査. 中部山岳国立公園 立山ルート緑化研究委員会年報, 平成 11 年度 : 6–9.
- 162) 太田道人・松久 卓・山下寿之・大宮 徹・城 賀津樹, 2015. 弥陀ヶ原～室堂 立山ルート沿線植生復元状況調査－11 および室堂平アルペンルート建設工事用道路跡緑化試験報告－6. 中部山岳国立公園 平成 26 年度 立山ルート緑化研究委員会年報, 16 : 1–12.
- 163) 太田道人・長井幸雄・石須秀和・坂井奈緒子, 1996. 有峰の植物. 常願寺川流域(有峰地域)自然環境調査報告. pp. 9–75. 富山市科学文化センター. 富山.
- 164) 太田道人・坂井奈緒子, 1998. いたち川の水生維管束植物(1995–97). いたち川自然環境調査報告(1995–97). pp. 43–51. 富山市科学文化センター. 富山.

- 165) 太田道人・山城富美子, 2009. 都市河川‘いたち川’の護岸上に生育する植物リスト 2. 富山市科学博物館研究報告, 32 : 135–141.
- 166) 大原隆明, 2000. 富山県フローラ資料(4). 富山県中央植物園研究報告, 5 : 79–91.
- 167) 大原隆明・橋屋 誠, 2001. 富山県フローラ資料(5). 富山県中央植物園研究報告, 6 : 67–81.
- 168) 大原隆明・高木末吉, 2002. 富山県フローラ資料(6). 富山県中央植物園研究報告, 7 : 59–69.
- 169) 大原隆明・中田政司・高木末吉, 2003. 富山県フローラ資料(7). 富山県中央植物園研究報告, 8 : 55–69.
- 170) 大原隆明・高木末吉・山本清美, 2004. 富山県フローラ資料(8). 富山県中央植物園研究報告, 9 : 49–63.
- 171) 大原隆明・中央植物園友の会植物誌部会, 2005. 富山県フローラ資料(9). 富山県中央植物園研究報告, 10 : 39–64.
- 172) 大原隆明・中央植物園友の会植物誌部会・中田政司, 2006. 富山県フローラ資料(10). 富山県中央植物園研究報告, 11 : 45–64.
- 173) 大原隆明・富山県中央植物園友の会植物誌部会・中田政司・水上成雄, 2007. 富山県フローラ資料(11). 富山県中央植物園研究報告, 12 : 57–76.
- 174) 大原隆明・富山県中央植物園友の会植物誌部会・山下寿之, 2008. 富山県フローラ資料(12). 富山県中央植物園研究報告, 13 : 47–61.
- 175) 大原隆明・富山県中央植物園友の会植物誌部会, 2009. 富山県フローラ資料(13). 富山県中央植物園研究報告, 14 : 57–71.
- 176) 大原隆明・中央植物園友の会植物誌部会, 2010. 富山県フローラ資料(14). 富山県中央植物園研究報告, 15 : 71–87.
- 177) 大原隆明・富山県中央植物園友の会植物誌部会, 2011. 富山県フローラ資料(15). 富山県中央植物園研究報告, 16 : 57–65.
- 178) 大原隆明・富山県中央植物園友の会植物誌部会・山下寿之・川住清貴, 2012. 富山県フローラ資料(16). 富山県中央植物園研究報告, 17 : 55–73.
- 179) 大原隆明・富山県中央植物園友の会植物誌部会, 2013. 富山県フローラ資料(17). 富山県中央植物園研究報告, 18 : 47–60.
- 180) 大原隆明・富山県中央植物園友の会植物誌部会, 2015. 富山県フローラ資料(18). 富山県中央植物園研究報告, 20 : 47–63.
- 181) 大原隆明・高木末吉・安嶋隆・源内伸秀, 2006. ススヤアカバナ *Epilobium parviflorum* を日本のフローラに追加する. 植物地理・分類研究, 54(1) : 74–76.
- 182) 御旅屋太作, 1931. 富山縣產羊齒植物目錄. 富山教育, 208 : 1–7.
- 183) ラムサール条約登録湿地総合学術調査団, 2017, 2014~2016. 立山弥陀ヶ原・大日平学術調査報告書. 富山県自然保護協会. 富山. 157pp.
- 184) 坂下 彰, 1976. 富山県の海浜植物. 富山県高等学校教育研究会生物部会 フィールド研究会会報, 2 : 47–54.
- 185) 佐竹義輔・原 寛・亘理俊次・富成忠夫(編), 1989a. 日本の野生植物 木本 I. 平凡社. 東京.
- 186) 佐竹義輔・原 寛・亘理俊次・富成忠夫(編), 1989b. 日本の野生植物 木本 II. 平凡社. 東京.
- 187) 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫(編), 1981. 日本の野生植物 草本 III. 平凡

社. 東京.

- 188) 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫(編), 1982a. 日本の野生植物 草本 I. 平凡社. 東京.
- 189) 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫(編), 1982b. 日本の野生植物 草本 II. 平凡社. 東京.
- 190) 佐藤 卓, 2019. 花のアルペンルート立山 – フラワーオッティングガイド. ほおづき書籍. 長野. 159pp.
- 191) 佐藤 卓・太田道人, 2018. 富山県産裸子植物の分布の特徴. 富山市科学博物館研究報告, 42 : 25–34.
- 192) 佐藤 卓・太田道人, 2021. 富山県に自然分布するイチリンソウ属植物の分布の特徴. 富山市科学博物館研究報告, 45 : 1–7.
- 193) 佐藤 卓・太田道人, 2022. 富山県に自然分布するキジムシロ属植物(狭義)の分布の特徴. 富山市科学博物館研究報告, 46 : 9–17.
- 194) 里見信生(編著), 1979a. 北陸の自然史 野編〈日本海カラーブックス 05〉. 巧玄出版. 富山. 157pp.
- 195) 里見信生(編著), 1979b. 北陸の自然史 山編〈日本海カラーブックス 06〉. 巧玄出版. 富山. 157pp.
- 196) 瀬戸 剛, 1978. 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録 10「三木茂博士寄贈水草さく葉標本目録」. 大阪市立自然史博物館. 大阪. 42pp.
- 197) 志賀 隆・藤井伸二・瀬戸 剛, 2009. 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録 41「三木茂博士寄贈水草葉標本目録」. 大阪市立自然史博物館. 大阪. 42pp.
- 198) 嶋崎太郎, 2022. 立山連峰薬師岳周辺登山道沿いの維管束植物相. 富山県中央植物園研究報告, 27: 57–69.
- 199) 清水建美(監修)・長野県植物誌編集委員会(編集), 1997. 長野県植物誌. 信濃毎日新聞社. 長野. 1735 pp.
- 200) 進野久五郎, 1936. 富山縣產蘭科植物目錄. 富山博物學會誌, 1 : 1–9.
- 201) 進野久五郎, 1973. 富山の植物 風土と四季を訪ねて. 巧玄出版. 富山. 261pp.
- 202) 進野久五郎・大田弘(著) 富山県(編), 1966. 第2部 氷見－伏木海岸の植生と分布. 氷見海岸・二上山学術調査書. pp.18–37. 富山県. 富山.
- 203) 小路登一, 1976. 越中朝日岳のガシコウラン群落. 富山県高等学校教育研究会生物部会 フィールド研究会会報, 2 : 24–31.
- 204) 小路登一, 1978. 越中朝日岳・長梅山方面の植物. 富山県高等学校教育研究会生物部会 フィールド研究会会報, 3 : 1–21.
- 205) 小路登一, 1979. 高山植生研修会報告. 富山県高等学校教育研究会生物部会 フィールド研究会会報, 5 : 13–20.
- 206) 首藤光太郎・太田道人・田向一也・黒沢高秀, 2017. 立山でエゾイチヤクソウを確認. 分類, 17(1): 63–66.
- 207) Suetsugu, K., Yagame, T., Yukawa, T. & Suyama, Y. 2024. Taxonomic revision of the formerly monotypic orchid genus *Dactylostalix*. *Phytotaxa*, 652(2) : 83–99.
- 208) すげの会, 2018. 日本産スゲ属植物分布図集. すげの会. 岡山. 766pp.
- 209) 鈴木浩司, 2021. 富山県における海岸植物の分布の現状. 富山の生物, 60 : 67–73.

- 210) 鈴木浩司, 2022. 室山野用水路(滑川市東福寺)における里山植物の開花フェノロジー. 富山県立大学紀要, 32 : 30–40.
- 211) 鈴木浩司, 2023. 舟倉用水(富山市牛ヶ増)における里山植物の開花フェノロジー. 富山県立大学紀要, 33 : 30–38.
- 212) 立山連峰の自然を守る会(編)・和田直也(監修), 2002. 読売新聞北陸発刊 40 周年記念事業 奥黒部自然総合学術調査報告書. 読売新聞北陸支社. 高岡. 122pp.
- 213) The Angiosperm Phylogeny Group 2016. An update of the Angiosperm Phylogeny Group classification for the orders and families of flowering plants: APG IV. Bot. J. Linn. Soc., 181(1): 1–20.
- 214) 東京建設コンサルタント, 2017a. 立山温泉地域地熱資源開発事前環境調査業務委託 植物調査結果概要報告. 富山県企業局・東京建設コンサルタント.
- 215) 東京建設コンサルタント, 2017b. 植物調査結果概要報告. 立山温泉地域地熱資源開発事前環境調査. 富山県企業局・東京建設コンサルタント.
- 216) 東海誠一(編), 1952. 植物標本目録(山崎正二先生採集寄贈). 高岡市立伏木小学校. 高岡. 32pp. (贋写刷)
- 217) 富山県高等学校生物教育研究会, 1991. 立山 アルペングルートの自然. 富山県高等学校生物教育研究会. 富山. 134pp.
- 218) 富山県生活環境文化部自然保護課, 2012. 富山県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックとやま 2012-. 富山県生活環境文化部自然保護課. 富山. 451pp.
- 219) 富山県生活環境文化部自然保護課・富山県希少植物研究会(編), 2012. 富山県立自然公園指定植物ガイドブック. 富山県生活環境文化部自然保護課. 富山. 108pp.
- 220) 富山県生活環境部自然保護課, 1980. 吳羽丘陵自然環境調査報告書. 富山県生活環境部自然保護課. 富山. 149pp.
- 221) 富山県生活環境部自然保護課(編), 1984. 自然環境保全地域候補地現地調査報告書 1(昭和 47 年～昭和 51 年). 富山県生活環境部自然保護課. 富山. 252pp.
- 222) 富山県生活環境部自然保護課(編), 1985a. 富山県の自然環境保全地域 7 富山県池の尻自然環境保全地域. 富山県生活環境部自然保護課. 富山. 30pp.
- 223) 富山県生活環境部自然保護課(編), 1985b. 自然環境保全地域候補地現地調査報告書 2(昭和 52 年～昭和 55 年). 富山県生活環境部自然保護課. 富山. 340pp.
- 224) 富山県生活環境部自然保護課(編), 1987. 自然環境保全地域候補地現地調査報告書 3(昭和 56 年～昭和 58 年). 富山県生活環境部自然保護課. 富山. 155pp.
- 225) 富山県生活環境部自然保護課, 2002. 富山県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックとやま-. 富山県生活環境部自然保護課. 富山. 352pp.
- 226) 富山県植生研究会(編), 1990. 富山県立自然公園指定植物調査報告書. 富山県. 富山. 55pp.
- 227) 富山市教育委員会, 1973. 吳羽丘陵城山南部の自然科学および文化史跡調査報告書. 富山市教育委員会. 富山. 88pp.
- 228) 富山市都市開発部公園緑地課, 1982. 吳羽丘陵自然環境調査報告書(吳羽山). 81pp. + 吳羽丘陵植生図(吳羽山). 富山市都市開発部公園緑地課. 富山.
- 229) Tsutsumi, C., Yukawa, T. & Kato, M., 2019. Taxonomic reappraisal of *Liparis japonica* and *L.*

- makinoana* (Orchidaceae). Bull. Natl. Mus. Nat. Sci., Ser. B., 45(3) : 107–118.
- 230) 内島宏和, 2011. 二上山の植物誌. 二上山の自然と文化. pp. 37–60. 二上山総合調査会. 高岡.
- 231) 梅林正芳・加藤 真・太田道人・本谷二三夫, 2006. マイヅルテンナンショウ, ハイハマボッス, ミズニラの富山県内における新産地. 植物地理・分類研究, 54(1) : 71–73.
- 232) 和田直也・山下寿之, 2003. 富山県絶滅危惧種・ヒメザゼンソウの新産地. 植物地理・分類研究, 51(2) : 189–192.
- 233) 野外教材研究委員会・金子靖志, 1994. 大日岳周辺植生調査. 富山県高等学校教育研究会生物部会生物部会報 17. 富山県高等学校教育研究会生物部会. 富山.
- 234) 矢原徹一・藤井伸二・伊藤元己・海老原 淳(監修)・永田芳男(写真), 2015. 絶滅危惧植物図鑑 レッドデータプランツ 増補改訂新版. 山と渓谷社. 東京. 782pp.
- 235) 矢原徹一・佐藤広行・布施健吾・田金秀一郎, 2024. 新種候補植物図鑑速報版 1 *Acerto Hydrangea*. 九州オープンユニバーシティ出版部. 福岡. 169 pp.
- 236) 山岡正尾, 1948. 越中小川上流に於ける路傍性植物の分布とその生態. 金沢高等師範学校植物学教室. (贋写刷)
- 237) 山下寿之, 2012. 繩ヶ池の植生. 富山県中央植物園研究報告, 17 : 31–41.
- 238) 山下寿之, 2023. 北陸地方における地域レッドリスト種オオユリワサビ(アブラナ科)の出現する群落の種組成. 富山県中央植物園研究報告, 28 : 17–24.
- 239) 山下寿之・長井幸雄・小路登一, 1999. 富山県婦中町常楽寺のオオツクバネガシとツクバネガシ. 富山県中央植物園研究報告, 4 : 43–46.
- 240) 安井一朗, 1976. 富山県南部山地白木峰の植生. 富山県高等学校教育研究会生物部会 フィールド研究会会報, 2 : 1–23.
- 241) 安井一朗・小路登一, 1980. 続－白馬岳の植物. 富山県高等学校教育研究会生物部会 フィールド研究会会報, 6 : 9–19.
- 242) 米倉浩司, 2019. 新維管束植物分類表. 北隆館. 東京. 357pp.
- 243) 米倉浩司・梶田 忠, 2003-. BG Plants 和名-学名インデックス(Ylist).
URL : <http://ylist.info/>(2025年1月10日最終閲覧).
- 244) 米山 讓, 1942. 越中有峰盆地の植生概観. 富山縣立神通中学校. 富山. 40pp.
- 245) Yonezawa, N., 1988. *Tripterospermum involucrile* Yonezawa (Gentianaceae), a new species from central Honshu, Japan. J. Phytogeogr. Taxon. 36(1) : 9–12.
- 246) 吉田めぐみ, 2011. 立山一ノ越におけるタテヤマキンバイ群落の現状. 富山県中央植物園研究報告, 16 : 43–55.
- 247) 吉田めぐみ・小宮定志・中田政司, 1996. 富山県に確認されたトウカイコモウセンゴケ. 富山県中央植物園研究報告, 1 : 53–56.
- 248) 吉田めぐみ・高橋一臣, 2020. 富山県立山稜線部の維管束植物フローラ調査. 富山県中央植物園研究報告, 25 : 37–48.
- 249) 吉田めぐみ・和田直也, 2024. 立山浄土山で新たに確認されたタテヤマキンバイ個体群. 富山県中央植物園研究報告, 29 : 7–11.
- 250) 吉田めぐみ・和久井彬実, 2024. 立山一ノ越におけるタテヤマキンバイ個体群の2022–2023年の短期動態. 富山県中央植物園研究報告, 29 : 13–23.

- 251) 吉田めぐみ・和久井彬実, 2025. 立山浄土山におけるタテヤマキンバイの新産地追録と県レッドリスト 2025 におけるカテゴリー評価. 富山県中央植物園研究報告, 30 : 19–31.
- 252) 吉田めぐみ・和久井彬実・鮎田 翔・高橋一臣, 2023. 立山一ノ越におけるタテヤマキンバイ個体群の 2010–2022 年の変化. 富山県中央植物園研究報告, 28 : 1–16.
- 253) 湯浅純孝・高島利男, 1991. ねいの里だより 17 ニューフェース 貴重な動植物の分布記録. 富山県自然博物園ねいの里. 富山.
- 254) Yukawa, T. & Yamashita, Y., 2017. *Pogonia subalpina* (Orchidaceae) : a new species from Japan. Bull. Natl. Mus. Nat. Sci., Ser. B, 43(3) : 79–86.